

令和 4 年度志木市国民健康保険
レセプト疾病構造分析事業報告書
(令和 3 年度分)

令和 5 年 3 月

志木市国民健康保険

目次

第1章 事業の概要	1
1. 事業の目的	1
2. 実施方法	1
3. 集計・分析の対象	1
第2章 医療費の状況	2
1. 国民健康保険被保険者数の構成	2
第3章 医療費の構造分析	3
1. 令和3年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合	3
2. 令和3年度の医療費, レセプト件数の状況	6
3. レセプト件数が36件以上(平均3件/月)の人数	7
4. 頻回受診者の疾病構造	9
5. 長期入院患者の疾病構造	11
第4章 国保医療費の疾病構造	13
1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費)	13
2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合	19
3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合	23
第5章 国保医療費の上位疾患の構造	28
1. 総医療費の上位疾患	28
2. 入院医療費の上位疾患	34
3. 入院外医療費の上位疾患	37
第6章 注目疾患別に見た診療の状況	40
1. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費	40
2. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外医療費	41
3. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院医療費	44

4. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費	45
5. 関節疾患に対する入院医療費	47
6. 関節疾患に対する入院外医療費	48
7. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費	50
8. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費	51
9. 新生物に対する入院・入院外医療費	53
10. 注目する精神および行動の障害に対する入院・入院外医療費	55
11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費	57
第7章 特定健康診査の受診の状況	58
1. 特定健診の受診状況	58
2. 保健指導レベルの状況	58
3. メタボリックシンドローム(以下, メタボ)の状況	60
4. 測定項目の状況	61
第8章 まとめ	94
1. 国保医療費のまとめ	94
2. 幼児・若年期	94
3. 青・壮年期	95
4. 高齢期	95

第1章 事業の概要

1. 事業の目的

志木市国民健康保険被保険者のレセプトデータ及び特定健康診査の結果を分析し、医療費の動向、市民の疾病の構造、受療行動について調査する。本データに基づき、本市の疾病の課題に対する具体的な方策等を検討することを目的とする。

2. 実施方法

令和3年4月～令和4年3月診療分の国民健康保険医科のレセプトデータを集計した。レセプトデータはICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象とし、本データに基づき、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、悪性新生物、腫瘍、精神および行動の障害、睡眠障害・不眠症、変形性膝関節症、心疾患、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、骨粗しょう症、腎不全、アルツハイマー病、急性上気道感染症、肺炎等について解析を行った。さらに、ICD10の大分類に基づき解析を行った。

3. 集計・分析の対象

3.1. レセプトデータ

令和3年度的全レセプトデータ件数は103,688件であった。

第2章 医療費の状況

1. 国民健康保険被保険者数の構成

志木市国民健康保険の令和3年度の被保険者数の人数を図2-1に示す。表2-1にはその構成比を性別に示した。年齢区分は5歳とした。構成比について20歳未満は9.1%、20～59歳は46.7%、60～74歳は44.2%であった。65歳以上は37.1%であった。

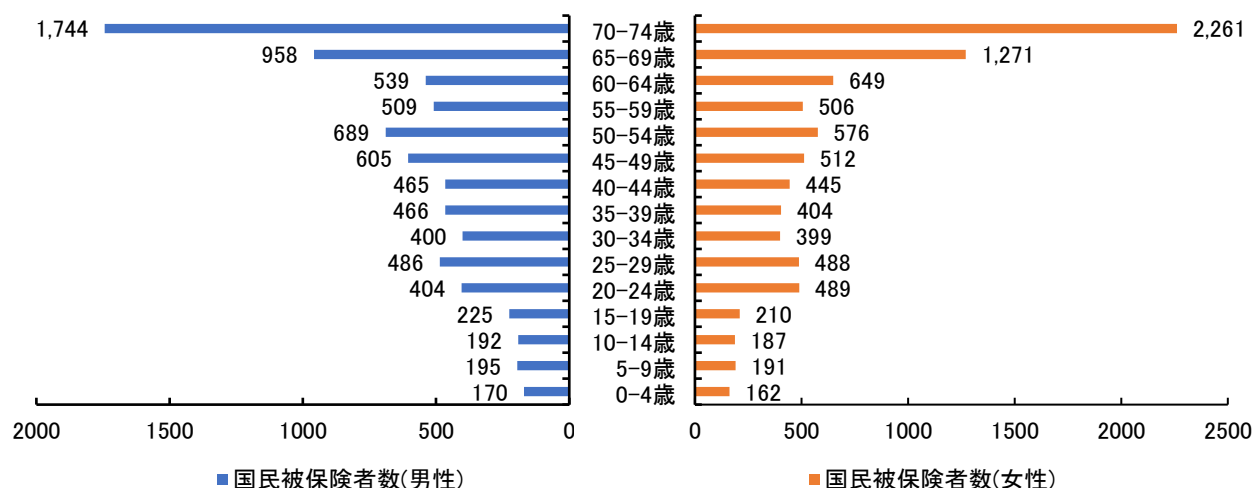


図2-1 志木市の年齢区分別の国民健康保険被保険者数

表2-1 志木市の年齢階級別の国民健康保険被保険者の構成比

男性		年齢区分 [歳]	女性	
人数[人]	構成比[%]		人数[人]	構成比[%]
170	2.1	0-4	162	1.9
195	2.4	5-9	191	2.2
192	2.4	10-14	187	2.1
225	2.8	15-19	210	2.4
404	5	20-24	489	5.6
486	6	25-29	488	5.6
400	5	30-34	399	4.6
466	5.8	35-39	404	4.6
465	5.8	40-44	445	5.1
605	7.5	45-49	512	5.9
689	8.6	50-54	576	6.6
509	6.3	55-59	506	5.8
539	6.7	60-64	649	7.4
958	11.9	65-69	1,271	14.5
1,744	21.7	70-74	2,261	25.8
8,047	47.9	計	8,750	52.1
2,702	33.6	65歳以上	3,532	40.4

第3章 医療費の構造分析

1. 令和3年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合

医療費の分析において、74歳は誕生日を迎えることで75歳の後期高齢者医療制度に移行するため、医療費解析は令和4年3月31日時点において74歳までの人を対象に行った。表3-1に性別、年齢階級別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点(医療費)、0日(診療日数)、0件(レセプト件数)の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数(医療機関を受療した人数)で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院および入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。

図3-1に男性、図3-2に女性の年齢階級別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図3-1、3-2より、男女ともに総医療費、入院外医療費は年齢とともに増加するカーブであった。男性は40-44歳、女性は25-29歳、35-39歳のタイミングで総医療費が大きく増加することがわかった。

図3-3に性別、年齢階級別の一人当たりのレセプト件数を示した。図3-3より、レセプト件数は子どもと高齢者が多く、男女ともに20-24歳が少ない傾向にあった。男女ともに70-74歳はレセプト件数が11件を超え、1ヶ月に約1回は医療機関に受診していることが推定できる。

表 3-1 年齢階級別の一人当たりの総医療費, レセプト件数, 受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	0-4歳	89,048	7.2	7.0	234,023	2.4	9.4	82,361	82.4
	5-9歳	44,573	5.5	0	0	0	6.9	44,573	78.5
	10-14歳	39,395	4.6	0	0	0	6.2	39,395	77.6
	15-19歳	40,247	4.0	1.0	343,170	0.4	4.8	38,047	69.3
	20-24歳	42,465	3.0	0	0	0	4.2	42,465	54.2
	25-29歳	48,197	3.6	13.7	637,377	0.6	4.9	40,129	48.8
	30-34歳	80,456	3.8	5.0	498,300	0.5	5.9	76,142	57.8
	35-39歳	135,698	4.8	210.0	3,484,570	1.3	6.4	57,750	56.4
	40-44歳	210,210	6.4	71.0	2,100,160	2.2	11.0	127,221	53.3
	45-49歳	160,107	6.3	167.6	3,886,698	0.8	9.5	106,568	59.0
	50-54歳	231,683	6.9	131.0	2,724,357	2.3	11.4	132,235	62.3
	55-59歳	199,053	7.6	61.7	1,179,250	3.3	11.4	140,539	64.6
	60-64歳	376,674	8.8	54.9	1,534,932	5.8	15.9	256,995	71.4
	65-69歳	220,446	9.4	42.7	1,211,029	3.2	14.2	173,601	82.7
	70-74歳	358,936	11.1	60.7	1,583,156	5.4	17.6	263,341	87.8
女性	0-4歳	95,671	7.3	5.8	109,168	3.7	9.7	90,890	84.6
	5-9歳	49,427	5.4	0	0	0	6.9	49,427	86.4
	10-14歳	44,127	5.4	0	0	0	7.3	44,127	79.7
	15-19歳	35,273	4.1	3.0	102,430	0.5	4.8	34,599	72.4
	20-24歳	33,517	3.5	4.0	164,630	0.6	4.3	31,865	61.1
	25-29歳	95,334	4.8	36.3	1,109,125	2.3	6.8	58,652	67.6
	30-34歳	57,543	5.4	6.6	222,674	2.3	7.2	50,632	72.7
	35-39歳	128,856	5.3	64.8	1,530,950	3.0	7.2	64,163	68.8
	40-44歳	132,573	6.7	92.4	1,676,973	2.2	9.7	80,255	71.5
	45-49歳	117,009	7.1	49.7	1,123,535	2.1	10.3	83,922	72.3
	50-54歳	111,012	7.6	90.9	1,642,754	1.6	11.3	75,319	70.8
	55-59歳	131,070	8.2	66.0	1,680,974	1.8	12.8	91,636	74.5
	60-64歳	202,420	8.7	62.3	1,550,266	2.5	14.1	156,776	83.1
	65-69歳	195,896	10.4	76.1	1,897,078	2.0	15.6	150,880	85.5
	70-74歳	250,540	11.4	64.9	1,908,455	3.8	17.5	172,134	90.1

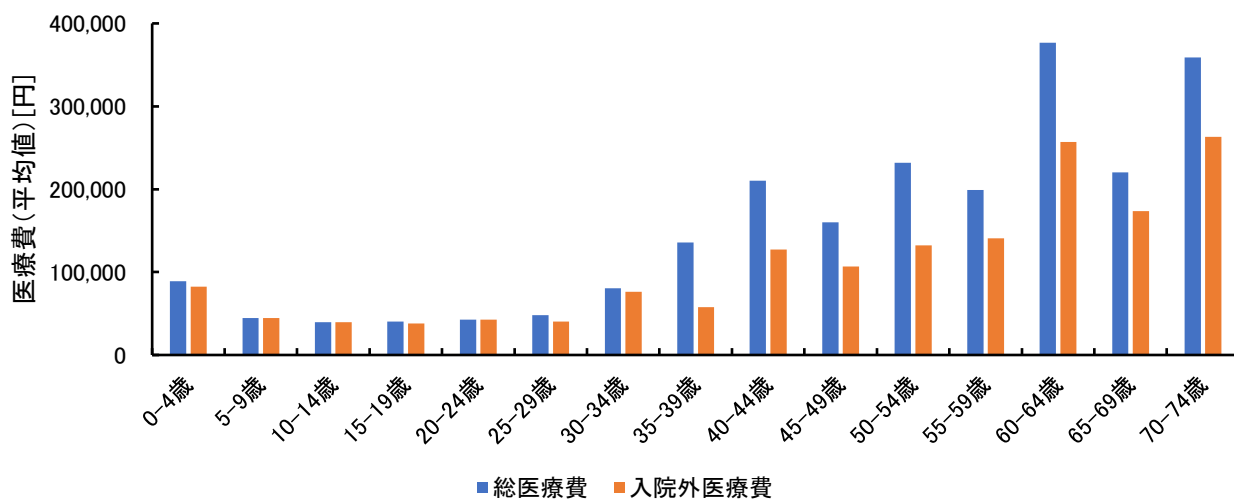


図 3-1 男性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

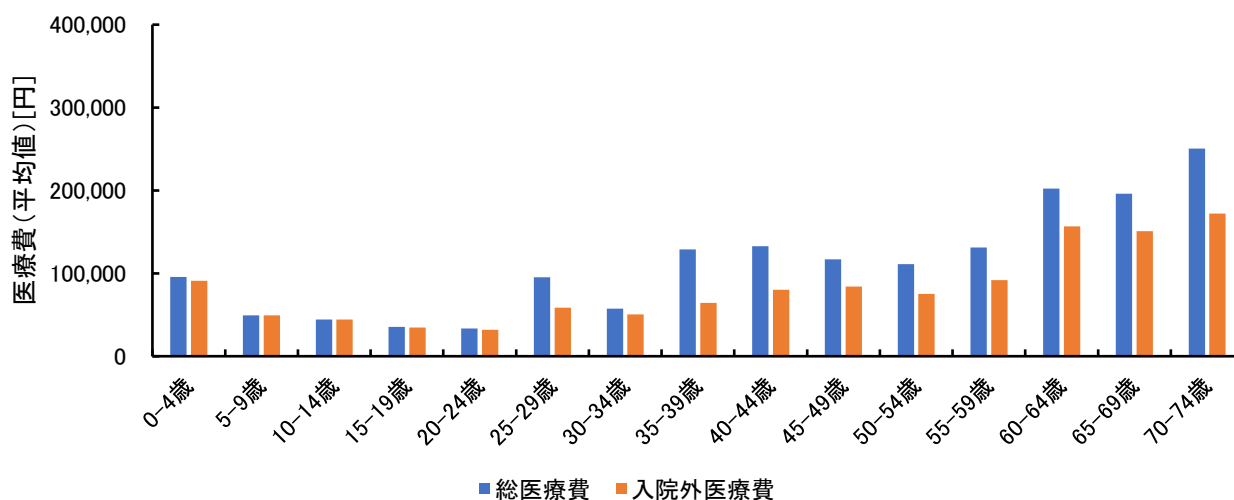


図 3-2 女性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

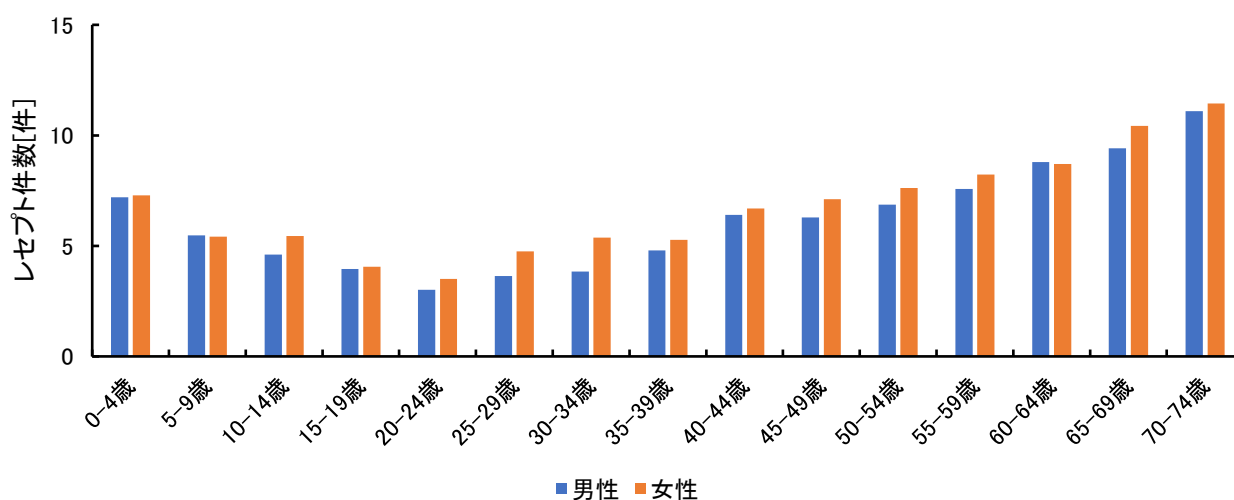


図 3-3 一人当たりの年齢階級別レセプト件数

2. 令和3年度の医療費、レセプト件数の状況

表3-2に全体の医療費、レセプト件数について平均値、中央値、最大値等を示した。医療費やレセプト件数は値が極端に大きい人が含まれると、平均値が大きくなる傾向がある。そのため、ここでは中央値も示すこととした。

令和3年度の受療者全体の平均年齢は50.4歳、中央値は57.0歳であった。入院と入院外の医療費を合計した総医療費の平均値は190,542円、中央値は53,590円であった。令和2年度からは平均値は13,958円、中央値は3,650円減少していた。入院外診療日数に着目すると最大値に326日とあり、該当対象者は1年間のレセプト件数が45件であり、複数の医療機関に頻回に受診していることからこの値が導出された。レセプト件数の最大値は69件(入院外診療日数:74日)であった。

表3-2 全体の医療費、レセプト件数

	年齢 [歳]	総医療費 [円]	入院診療日数 [日]	入院点数 [円]	入院外診療日数 [日]	入院外点数 [円]	レセプト件数 [件]
平均値	50.4	190,542	63.3	1,624,977	12.5	137,169	8.2
標準偏差	20.7	705,556	107.5	2,068,960	18.6	488,790	7.2
中央値	57.0	53,590	14.0	669,270	7.0	52,395	6.0
最大値	76.0	18,324,930	396.0	11,605,210	326.0	17,676,410	69.0
25パーセントタイル	36.0	20,925	4.0	244,920	3.0	20,580	2.0
75パーセントタイル	70.0	121,245	60.0	2,198,450	15.0	115,413	12.0

3. レセプト件数が 36 件以上(平均 3 件/月)の人数

表 3-3 に令和 3 年度のレセプト件数が 36 件以上, 表 3-4 に 24-35 件の年齢階級別の人数を示した。レセプト件数は医療機関を受診することにより月に 1 件提出される。つまり, 月に 2 ヶ所の医療機関を受診すると 2 件提出される。1 ヶ月に多くの医療機関を受診する, あるいは特定の医療機関を複数日受診することは様々な問題が考えられる。

一般的に重複受診は同一月内に同一診療科を 3 ヶ所以上受診することをいう。頻回受診は同一月内に医療機関へ 15 日以上通院することをいう。同じ疾患で複数の医療機関を受診することは, 治療効率の低下, 検査の重複, 調剤(投薬)の重複が考えられ, 医療費の高騰を誘発するだけでなく, 副作用のリスクも高まることが推察される。そのため, 対策が求められる。

表 3-3 より, 重複受診は男性は 55-59 歳, 女性は 50-54 歳から増加し, 男女ともに 70-74 歳から急激に増加していた。表 3-4 より, レセプト件数が 24-35 件の該当者は男女ともに 50-54 歳から増加し, 70-74 歳では男性は 94 名, 女性は 145 名であった。

表 3-3 年齢階級別のレセプト件数 36 件/年以上の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	0	0	0
5-9歳	0	0	0
10-14歳	0	0	0
15-19歳	0	0	0
20-24歳	0	0	0
25-29歳	1	0	1
30-34歳	0	0	0
35-39歳	0	0	0
40-44歳	0	0	0
45-49歳	0	1	1
50-54歳	0	4	4
55-59歳	3	5	8
60-64歳	4	3	7
65-69歳	6	7	13
70-74歳	15	21	36

表 3-4 年齢階級別のレセプト件数 24-35 件/年の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	2	2	4
5-9歳	0	1	1
10-14歳	0	2	2
15-19歳	1	1	2
20-24歳	0	0	0
25-29歳	0	6	6
30-34歳	1	3	4
35-39歳	3	2	5
40-44歳	7	7	14
45-49歳	4	5	9
50-54歳	10	11	21
55-59歳	10	6	16
60-64歳	13	17	30
65-69歳	31	62	93
70-74歳	92	145	237

4. 頻回受診者の疾病構造

頻回受診者(予備群を含む)は、入院外診療日数が年間 120 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 87 名(平均年齢 64.3 歳)であった。男性 58 名(平均年齢 63.8 歳)、女性 29 名(平均年齢 65.2 歳)であった。総医療費は 288,360,310 円、レセプト件数は 2,036 件であった。

表 3-5 に頻回受診者の ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-5 より、該当人数では第 11 章の消化器系の疾患(84 名)、第 9 章の循環器系の疾患(83 名)、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患(82 名)、第 13 章の筋骨格系及び結合組織の疾患(79 名)が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 5 章の精神及び行動の障害、第 8 章の耳及び乳様突起の疾患、第 15 章の妊娠、分娩及び産じょく、第 16 章の周産期に発生した病態を除く章では 300 万円を超えていることがわかった。特に、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患では 400 万円を超えていた。

表 3-6 に頻回受診該当者の注目する疾病を対象とした該当人数に関わる上位疾患の傷病名と該当人数、受療割合、一人当たりの総医療費、入院外医療費を示した。表 3-6 より、高血圧、腎不全、糖尿病などの慢性疾患、貧血、便秘症の該当人数が多いことがわかった。

以上より、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて消化器系の疾患の受診者が多いことがわかった。

表 3-5 頻回受診者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	42	3,529,672
第2章 新生物	25	3,452,484
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	56	4,528,766
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	82	3,491,531
第5章 精神及び行動の障害	30	2,224,490
第6章 神経系の疾患	61	3,049,586
第7章 眼及び付属器の疾患	62	3,180,812
第8章 耳及び乳様突起の疾患	13	2,007,318
第9章 循環器系の疾患	83	3,492,872
第10章 呼吸器系の疾患	67	3,278,839
第11章 消化器系の疾患	84	3,313,825
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	63	3,512,284
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	79	3,233,768
第14章 腎尿路性器系の疾患	68	4,035,593
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	8	3,497,880
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	68	3,485,142
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	60	3,800,425

表 3-6 頻回受診者の注目する疾患の該当人数に関する上位疾患

該当人数順位	傷病名	該当人数[人]	受療割合[%]	総医療費 [円]	入院外医療費 [円]
1位	高血圧症	62	71.3	3,610,655	3,491,277
2位	鉄欠乏性貧血	53	60.9	4,684,760	4,509,435
3位	便秘症	52	59.8	3,741,585	3,533,976
4位	慢性腎不全	51	58.6	4,883,981	4,740,560
5位	高リン血症	49	56.3	4,994,112	4,843,805
6位	腎性貧血	47	54.0	5,003,459	4,847,831
7位	骨粗鬆症	39	44.8	3,953,355	3,827,113
8位	高コレステロール血症	36	41.4	3,240,752	3,054,416
	アレルギー性鼻炎	36	41.4	2,954,876	2,717,507
10位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	35	40.2	3,778,211	3,733,803
	胃潰瘍	35	40.2	3,828,629	3,626,673
12位	続発性副甲状腺機能亢進症	34	39.1	4,809,021	4,726,967
	高尿酸血症	34	39.1	4,411,690	4,236,247
14位	腰痛症	33	37.9	4,243,845	4,089,684
15位	不眠症	32	36.8	3,244,677	3,084,931
16位	閉塞性動脈硬化症	29	33.3	4,639,156	4,462,948
17位	糖尿病	28	32.2	4,043,836	3,944,408
18位	カルニチン欠乏症	27	31.0	4,967,796	4,866,310
	近視性乱視	27	31.0	2,961,868	2,735,540
	慢性胃炎	27	31.0	3,201,020	3,071,218

5. 長期入院患者の疾病構造

長期入院患者は、入院期間が 250 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 48 名（平均年齢 59.9 歳）であった。男性 27 名（平均年齢 59.4 歳）、女性 21 名（平均年齢 60.4 歳）であった。総医療費は 285,202,770 円、レセプト件数は 594 件であった。

表 3-7 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-7 より、該当人数では第 6 章の神経系の疾患（41 名）、第 11 章の消化器系の疾患（40 名）、第 5 章の精神及び行動の障害（37 名）が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 5 章の精神及び行動の障害、第 6 章の神経系の疾患、第 15 章の妊娠、分娩及び産じょく、第 16 章の周産期に発生した病態、第 17 章の先天奇形、変形及び染色体異常を除いた章では 600 万円を超えていることがわかった。

表 3-8 に長期入院該当者の注目する疾患を対象とした該当人数に関わる上位疾患の傷病名と該当人数、受療割合、一人当たりの総医療費、入院医療費を示した。表 3-8 より、精神及び行動の障害、不眠症などの精神、神経系の疾患、高血圧、糖尿病などの慢性疾患の受診者が多いことがわかった。便秘症は頻回受診、長期入院ともに 1 位の結果であった。

表 3-7 長期入院者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	13	6,901,884
第2章 新生物	7	6,354,577
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	13	6,998,502
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	29	6,439,832
第5章 精神及び行動の障害	37	5,542,598
第6章 神経系の疾患	41	5,941,899
第7章 眼及び付属器の疾患	12	6,082,269
第8章 耳及び乳様突起の疾患	5	8,401,318
第9章 循環器系の疾患	29	6,093,695
第10章 呼吸器系の疾患	25	6,329,532
第11章 消化器系の疾患	40	6,083,544
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	33	6,230,908
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	28	6,289,128
第14章 腎尿路性器系の疾患	9	6,577,439
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	31	6,170,033
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	13	6,739,944

表 3-7 長期入院者の注目する疾患の該当人数に関する上位疾患

該当人数順位	傷病名	該当人数[人]	受療割合[%]	総医療費 [円]	入院医療費 [円]
1位	便秘症	36	75.0	6,214,343	6,204,422
2位	統合失調症	28	58.3	5,091,900	5,084,995
3位	不眠症	24	50.0	5,391,850	5,384,005
4位	薬剤性パーキンソン症候群	18	37.5	4,984,868	4,978,359
5位	高血圧症	15	31.3	6,060,405	6,055,494
6位	湿疹	14	29.2	6,484,430	6,476,427
7位	てんかん	12	25.0	6,899,419	6,861,585
8位	皮脂欠乏症	11	22.9	6,589,167	6,587,069
9位	鉄欠乏性貧血	10	20.8	7,074,445	7,067,000
	胃潰瘍	10	20.8	7,011,442	7,004,550
	喀痰喀出困難	10	20.8	7,574,058	7,573,806
	嚥下障害	10	20.8	8,168,414	8,163,986
13位	脱水症	9	18.8	7,207,201	7,192,353
	腰痛症	9	18.8	5,785,857	5,776,277
15位	症候性てんかん	8	16.7	5,931,676	5,926,141
16位	肺炎	7	14.6	6,714,283	6,713,923
	アレルギー性鼻炎	7	14.6	4,806,901	4,796,739
	逆流性食道炎	7	14.6	6,115,710	6,093,064
	慢性胃炎	7	14.6	6,721,916	6,703,633
	発熱	7	14.6	6,248,966	6,247,763
	胃瘻造設状態	7	14.6	7,808,661	7,808,661

第4章 国保医療費の疾病構造

1. 疾病分類別の総医療費と受療割合（入院、入院外を含む全体の医療費）

表4-1に疾病分類別の総医療費合計、総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費（平均医療費）、患者数を示した。疾病分類別の医療費全体のインパクトを示すために、総医療費合計を記載した。1年間にそれぞれの分類に対し、1回でも病名が記載された場合に、患者としてカウントした。そのため、患者数は頭数であり、繰り返し受診したところによる延べ人数ではない。総医療費合計（入院と入院外）はそれぞれの患者の医療費の合計である。（例として、糖尿病と胃炎の診断を受けると、第4章と第11章にそれぞれ患者数としてカウントされる。）

図4-1に疾病分類別の総医療費合計、図4-2に疾病分類別の一人当たりの医療費、図4-3に疾病分類別の患者数を示した。図4-3より、患者数に着目すると、第10章の呼吸器系の疾患が多く、次いで第11章の消化器系の疾患、第4章の内分泌、栄養及び代謝疾患、第7章の眼及び付属器の疾患、第13章の筋骨格系及び結合組織の疾患のボリュームが大きいことがわかった。ボリュームが大きい分、総医療費合計も大きい傾向であった。図4-2より、一人当たりの医療費に着目すると、第3章の血液及び造血器並びに免疫機構の障害（鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる）、第2章の新生物（がんが含まれる）の医療費が大きいことがわかった。

表4-1 疾病分類別の総医療費合計、一人当たりの総医療費、患者数

傷病分類名	総医療費合計 [円]	一人当たり医療費 [円]	患者数[人]
第1章 感染症及び寄生虫症	1,005,550,870	337,207	2,982
第2章 新生物	816,264,690	481,572	1,695
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	950,019,150	650,698	1,460
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,710,905,920	342,387	4,997
第5章 精神及び行動の障害	880,122,380	419,705	2,097
第6章 神経系の疾患	1,408,670,610	384,043	3,668
第7章 眼及び付属器の疾患	1,137,744,800	230,033	4,946
第8章 耳及び乳様突起の疾患	327,787,700	218,817	1,498
第9章 循環器系の疾患	1,683,441,860	355,231	4,739
第10章 呼吸器系の疾患	1,486,044,010	243,734	6,097
第11章 消化器系の疾患	1,962,393,270	332,327	5,905
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	1,436,899,170	309,877	4,637
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,585,824,370	324,499	4,887
第14章 腎尿路性器系の疾患	1,039,559,590	402,306	2,584
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	11,394,650	137,285	83
第16章 周産期に発生した病態	1,596,270	122,790	13
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	107,640,580	401,644	268
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,592,265,570	346,145	4,600
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	885,272,620	395,211	2,240

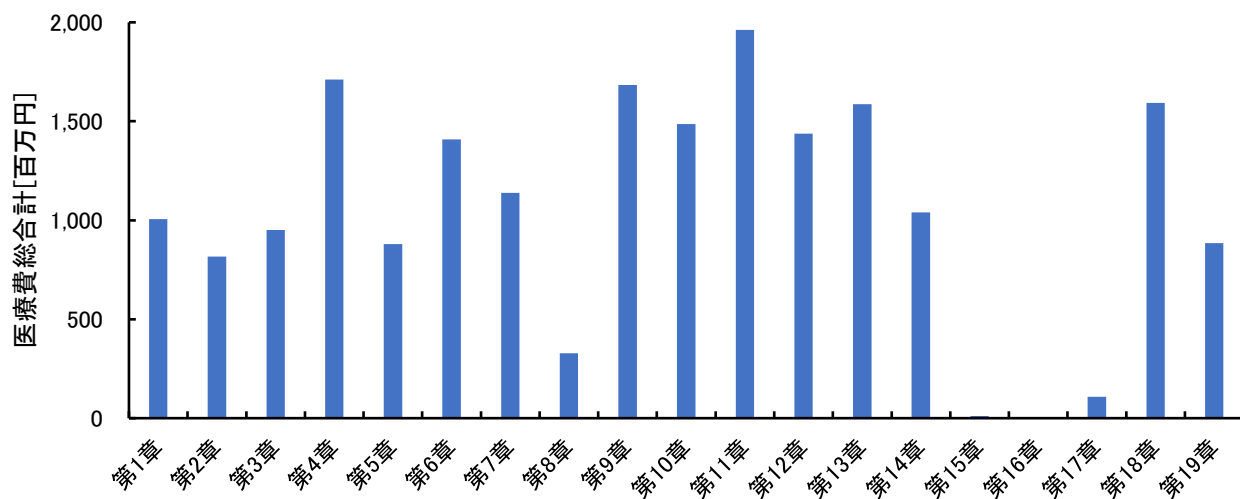


図 4-1 疾病分類別の総医療費合計

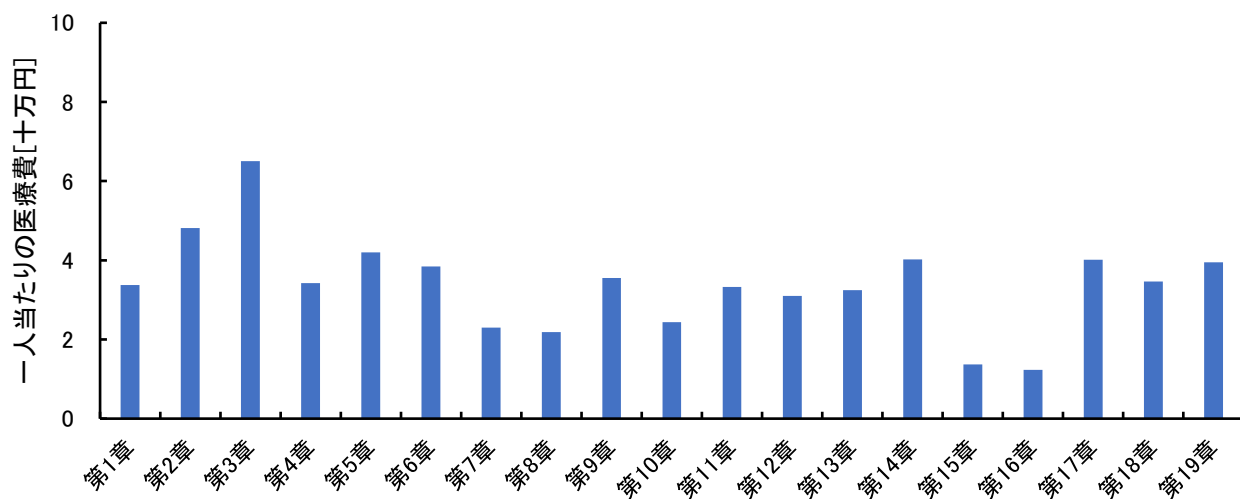


図 4-2 疾病分類別の一人当たりの総医療費

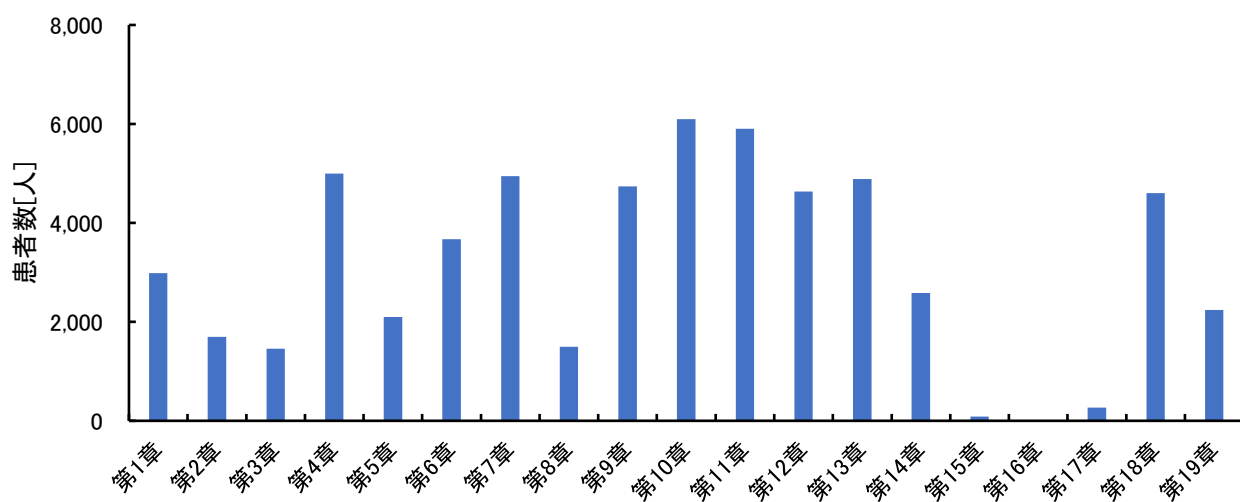


図 4-3 疾病分類別の患者数

表 4-2, 図 4-4 に疾病分類別の年齢階級別総医療費合計, 表 4-3 に受療割合を示した。表 4-3 より, 幼児, 若年期にウエイトが大きいものとして下記の章が挙げられる。

- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 8 章 耳及び乳様特記の疾患(外耳炎, 中耳炎等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)
- 第 19 章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

一方で, 高齢期に増えてくる疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患(腎不全等)

表 4-2, 図 4-4 より, 年齢階級別医療費は, 60-64 歳以降の医療費が高いことがわかった。70-74 歳に着目すると, 総医療費合計で 5 億円以上の疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患(腎不全等)
- 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-2 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

単位[円]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	17,746,040	6,497,670	5,834,680	3,272,020	4,991,880	13,166,560	11,207,680	20,555,830
第2章 新生物	2,129,810	142,010	506,230	658,270	1,749,810	2,967,550	9,071,800	8,763,460
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,740,570	270,910	1,015,380	1,506,840	536,480	9,237,920	10,204,790	25,613,750
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	4,041,510	743,760	1,098,180	1,496,260	3,722,450	18,253,470	12,624,670	37,295,030
第5章 精神及び行動の障害	1,062,090	2,018,970	2,002,870	1,939,640	3,649,360	19,336,770	9,519,100	49,904,690
第6章 神経系の疾患	210,740	665,890	1,851,050	2,043,320	4,234,340	21,694,260	15,734,680	52,740,850
第7章 眼及び付属器の疾患	7,764,080	9,175,030	7,914,030	5,567,390	7,103,860	13,279,970	9,245,490	19,846,820
第8章 耳及び乳様突起の疾患	12,338,760	8,450,240	5,221,920	2,026,570	1,345,390	2,891,930	2,768,760	21,297,960
第9章 循環器系の疾患	2,195,220	531,080	1,251,240	887,490	1,528,860	12,039,720	9,956,360	16,391,020
第10章 呼吸器系の疾患	23,821,660	14,117,020	9,943,160	7,877,000	10,343,400	28,301,590	20,132,720	37,063,400
第11章 消化器系の疾患	6,380,800	4,006,930	3,761,790	2,803,630	6,912,950	26,806,690	23,590,460	46,562,540
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	21,305,970	10,310,130	7,653,020	5,615,200	9,308,280	23,170,180	13,176,220	44,030,160
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,589,260	980,150	3,180,980	2,892,500	4,876,870	20,426,310	7,870,640	42,152,720
第14章 腎尿路性器系の疾患	1,005,420	1,329,020	999,820	1,367,470	4,161,080	12,796,160	7,809,640	15,776,160
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	33,450	146,800	3,567,190	2,342,700	1,547,920
第16章 周産期に発生した病態	1,468,330	84,670	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	3,929,000	1,242,790	645,610	101,180	279,840	1,371,700	570,010	1,752,910
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16,221,250	5,865,360	5,198,800	4,826,730	6,552,460	23,994,130	18,382,400	55,937,570
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	6,873,830	4,484,950	4,836,800	4,778,680	2,687,460	15,792,360	5,360,090	31,687,490

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	32,697,400	44,678,830	59,141,870	30,921,860	100,539,600	189,765,700	464,533,250
第2章 新生物	20,886,490	21,682,270	26,104,240	29,912,240	76,214,260	153,806,770	461,669,480
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	37,422,020	34,724,310	39,174,790	30,249,030	115,292,080	173,300,700	469,729,580
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	53,318,430	62,041,930	101,794,580	71,561,830	208,924,910	295,506,180	838,482,730
第5章 精神及び行動の障害	52,283,020	50,169,310	73,923,400	56,712,440	95,077,020	125,325,570	337,198,130
第6章 神経系の疾患	59,163,370	65,009,600	96,945,810	57,663,840	140,314,640	227,530,990	662,867,230
第7章 眼及び付属器の疾患	42,150,780	38,428,300	38,904,170	37,311,500	142,420,500	194,759,170	563,873,710
第8章 耳及び乳様突起の疾患	9,975,670	15,402,100	25,032,230	15,759,730	24,178,680	53,907,640	127,190,120
第9章 循環器系の疾患	57,469,840	35,782,090	90,082,340	79,593,820	190,384,530	284,907,060	900,441,190
第10章 呼吸器系の疾患	68,373,270	63,878,350	79,853,400	72,200,680	143,321,460	244,322,730	662,494,170
第11章 消化器系の疾患	71,816,240	78,448,540	119,327,610	97,870,370	220,264,280	327,084,920	926,755,520
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	57,511,270	52,177,010	71,291,170	57,657,950	165,946,280	237,829,380	659,916,950
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	52,279,240	59,678,660	108,775,760	70,559,020	170,608,870	286,614,060	753,339,330
第14章 腎尿路性器系の疾患	34,816,330	34,439,350	54,904,860	39,081,610	121,809,640	190,863,760	518,399,270
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	3,182,360	53,380	0	0	0	178,360	342,490
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	43,270
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	12,608,740	2,291,660	1,070,610	5,770,210	5,887,840	11,289,180	58,829,300
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	56,270,330	61,372,090	93,752,750	66,036,740	167,813,320	265,439,780	744,601,860
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	26,405,840	25,544,570	60,491,710	46,099,490	99,094,350	138,557,900	412,577,100

表 4-3 疾病分類別の年齢階級別受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	38.3	22.3	21.1	14.5	12.5	15.4	17.3	14.5
第2章 新生物	2.1	0.8	1.1	1.8	2.0	2.8	4.4	5.9
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.6	0.5	2.4	3.2	1.3	3.1	4.3	6.1
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	3.6	1.3	3.4	3.7	5.3	7.4	9.5	11.7
第5章 精神及び行動の障害	1.5	5.2	6.1	5.1	6.3	11.5	12.0	13.8
第6章 神経系の疾患	0.3	2.3	6.6	6.9	6.7	12.0	13.9	15.6
第7章 眼及び付属器の疾患	19.6	37.8	41.4	32.6	16.6	14.1	18.8	16.4
第8章 耳及び乳様突起の疾患	26.5	30.6	20.3	9.7	3.2	4.9	5.8	4.8
第9章 循環器系の疾患	0.9	1.3	4.2	3.2	2.2	3.1	4.8	5.6
第10章 呼吸器系の疾患	70.2	68.1	49.6	35.6	26.2	27.5	32.2	27.7
第11章 消化器系の疾患	11.7	10.4	12.1	11.3	10.5	16.1	18.5	20.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	59.6	44.3	41.4	27.1	19.8	19.2	23.3	20.8
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	3.3	2.6	11.3	10.1	7.5	9.4	12.1	13.7
第14章 腎尿路性器系の疾患	2.1	2.1	3.2	6.0	10.3	11.8	13.3	11.3
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0.5	0.6	2.0	2.9	2.1
第16章 周産期に発生した病態	3.0	0.5	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	4.5	3.1	1.6	0.7	0.4	1.0	0.8	1.0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	33.4	19.4	22.4	18.4	12.7	17.0	16.5	18.0
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	18.4	17.6	22.4	16.1	4.8	6.9	7.8	8.0

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	15.8	13.4	14.3	11.8	16.7	19.0	22.1
第2章 新生物	6.8	8.5	7.5	8.8	12.8	14.7	18.0
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	6.2	7.3	6.7	7.4	10.3	12.1	15.4
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	14.5	19.6	24.6	28.2	40.0	47.6	54.2
第5章 精神及び行動の障害	14.3	16.1	15.7	16.1	12.0	12.0	14.0
第6章 神経系の疾患	18.7	21.1	21.9	23.1	25.7	27.4	33.6
第7章 眼及び付属器の疾患	20.9	20.0	19.8	23.7	30.4	37.6	43.8
第8章 耳及び乳様突起の疾患	6.5	4.3	5.4	6.2	7.5	10.7	11.1
第9章 循環器系の疾患	9.7	13.6	20.7	27.8	36.8	47.8	56.9
第10章 呼吸器系の疾患	32.6	27.9	26.7	30.5	34.0	40.0	42.6
第11章 消化器系の疾患	22.6	30.0	30.9	35.0	41.3	50.2	56.4
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	22.9	21.7	19.8	23.2	26.9	28.3	34.3
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	19.3	22.6	25.2	29.1	36.5	43.2	49.1
第14章 腎尿路性器系の疾患	12.3	14.5	13.3	13.3	15.2	19.2	23.3
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.3	0.2	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.5	1.8	0.9	0.9	1.8	2.1	2.0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.2	20.5	22.5	24.0	29.5	34.4	40.5
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	8.0	10.2	10.9	11.2	14.3	15.6	18.9

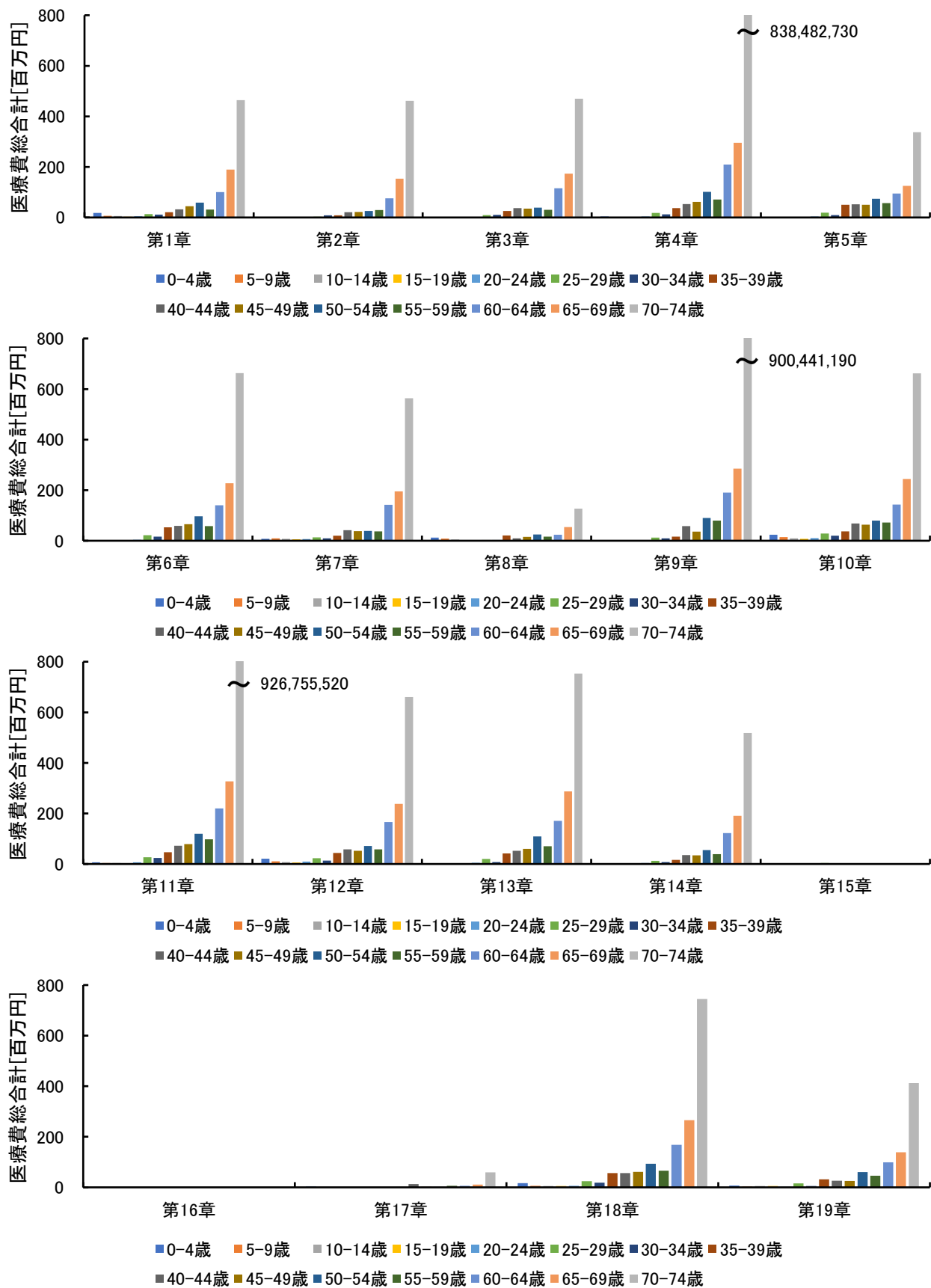


図 4-4 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合

表 4-4, 図 4-5 に疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値を示した。20 歳未満は人数が少ないため、20-24 歳より記載する。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-4, 図 4-5 より、第 4 章の糖尿病を含む内分泌、栄養及び代謝疾患、第 5 章のうつ病を含む精神及び行動の障害、第 6 章の不眠症を含む神経系の疾患、第 9 章の高血圧性疾患や心疾患を含む循環器系の疾患、第 13 章の股関節症、膝関節症を含む筋骨格系及び結合組織の疾患は 35-39 歳から急激に増加していることがわかった。また、第 6 章の睡眠障害を含む神経系の疾患、第 9 章の高血圧性疾患や心疾患を含む循環器系の疾患、第 10 章の肺炎を含む呼吸器系の疾患、第 13 章の股関節症、膝関節症を含む筋骨格系及び結合組織の疾患は 60-64 歳のタイミングで急激に増加することがわかった。

表 4-5, 図 4-6 に疾病分類別の入院受療割合を示した。表 4-5, 図 4-6 より、40-44 歳以降から大きく増加し、受療割合が 1%を超えている疾患として、下記の章が挙げられる。

- ・ 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病、脂質異常症等)
- ・ 第 5 章 精神及び行動の障害(アルツハイマー病、統合失調症、気分[感情]障害等)
- ・ 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- ・ 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患、心房細動、不整脈、心不全等)
- ・ 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪)、急性気管支炎、ぜんそく、慢性鼻炎等)
- ・ 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕、食道炎、胃潰瘍等)
- ・ 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛などの廃部疾患、肩の障害、骨粗しょう症等)

表 4-4 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]											
傷病名分類	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0	452,450	215,225	106,920	523,715	2,561,990	758,010	585,855	1,235,290	882,770	896,470
第2章 新生物	0	0	420,060	0	1,219,900	507,700	468,250	1,374,210	603,290	882,770	1,023,640
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	450,230	175,740	77,690	1,335,780	1,390,065	768,200	657,185	1,009,870	1,154,750	930,160
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	517,145	0	2,962,590	1,207,250	1,085,190	953,905	751,120	1,118,595	983,695	697,665
第5章 精神及び行動の障害	0	450,230	190,460	5,786,580	2,366,410	1,178,800	1,139,610	842,895	2,669,580	1,621,820	1,791,300
第6章 神経系の疾患	0	390,980	0	5,786,580	1,564,960	1,085,190	3,876,780	775,215	1,256,150	1,171,285	1,430,610
第7章 眼及び付属器の疾患	0	454,670	9,545	138,600	1,520,960	972,270	551,440	1,407,280	1,214,430	521,200	513,105
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	640,660	7,752,770	0	2,053,045	272,980	512,270
第9章 循環器系の疾患	0	0	268,990	4,475,610	1,564,960	1,085,190	2,139,690	625,330	1,022,760	564,265	802,520
第10章 呼吸器系の疾患	0	452,450	222,365	138,600	1,348,430	972,270	3,356,810	755,905	714,620	581,770	802,660
第11章 消化器系の疾患	162,140	390,980	175,740	138,600	1,392,430	1,085,190	1,139,610	799,310	1,230,920	726,160	694,290
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0	454,670	175,740	2,378,425	1,564,960	1,307,815	2,638,440	886,480	1,009,870	1,153,150	995,605
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	450,230	11,440	5,786,580	1,205,215	795,695	3,028,120	616,895	1,118,595	848,505	750,770
第14章 腎尿路性器系の疾患	0	606,320	420,060	245,920	2,512,080	590,050	763,105	608,460	1,118,595	582,490	694,290
第15章 妊娠、分娩及び産後	0	324,860	93,590	56,490	415,155	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	1,041,980	0	0	0	0	0	1,686,950
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	331,730	268,990	4,396,175	1,476,960	795,695	1,139,610	608,460	845,600	726,160	770,030
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0	1,079,060	175,740	6,123,500	2,128,945	640,660	758,010	1,440,350	661,610	579,020	886,940

表 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

傷病名分類	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0	0.6	0.5	0.7	0.9	0.4	0.9	0.6	1.5	1.0	1.6
第2章 新生物	0.1	0.1	0.4	0.1	0.5	0.6	0.3	0.3	0.9	0.9	1.7
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0	0.7	0.9	1.1	0.9	0.5	0.6	0.6	1.3	0.9	1.8
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.1	0.6	0.3	0.7	1.3	1.0	1.4	1.5	3.0	1.7	3.7
第5章 精神及び行動の障害	0	0.5	0.5	0.8	1.3	1.1	1.2	1.4	1.8	1.1	1.5
第6章 神経系の疾患	0	0.8	0.3	0.8	1.6	1.2	1.3	1.4	2.8	1.5	2.6
第7章 眼及び付属器の疾患	0	0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	0.4	0.4	2.3	1.1	2.0
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5
第9章 循環器系の疾患	0.1	0.2	0.4	0.3	1.4	0.3	0.9	1.7	2.6	1.9	3.8
第10章 呼吸器系の疾患	0	0.8	0.8	1.0	1.5	0.9	0.9	1.6	2.1	1.6	2.5
第11章 消化器系の疾患	0.3	1.2	1.4	1.5	1.8	1.3	1.8	2.3	3.5	2.1	4.0
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0	0.7	0.6	0.9	1.2	0.7	0.9	1.3	2.3	1.2	2.3
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.1	0.5	0.4	0.8	1.1	0.7	1.3	1.4	2.4	1.6	3.1
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.1	0.6	0.4	0.7	0.5	0.8	0.6	0.5	1.7	1.2	2.0
第15章 妊娠、分娩及び産後	0.1	0.7	0.8	0.9	0.4	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0.4	0.1	0	0	0	0	0.1
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	0.9	0.9	1.1	1.4	1.3	1.5	1.5	2.4	1.5	3.4
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0	0.4	0.4	0.6	0.4	0.3	0.9	0.9	1.4	0.9	1.8

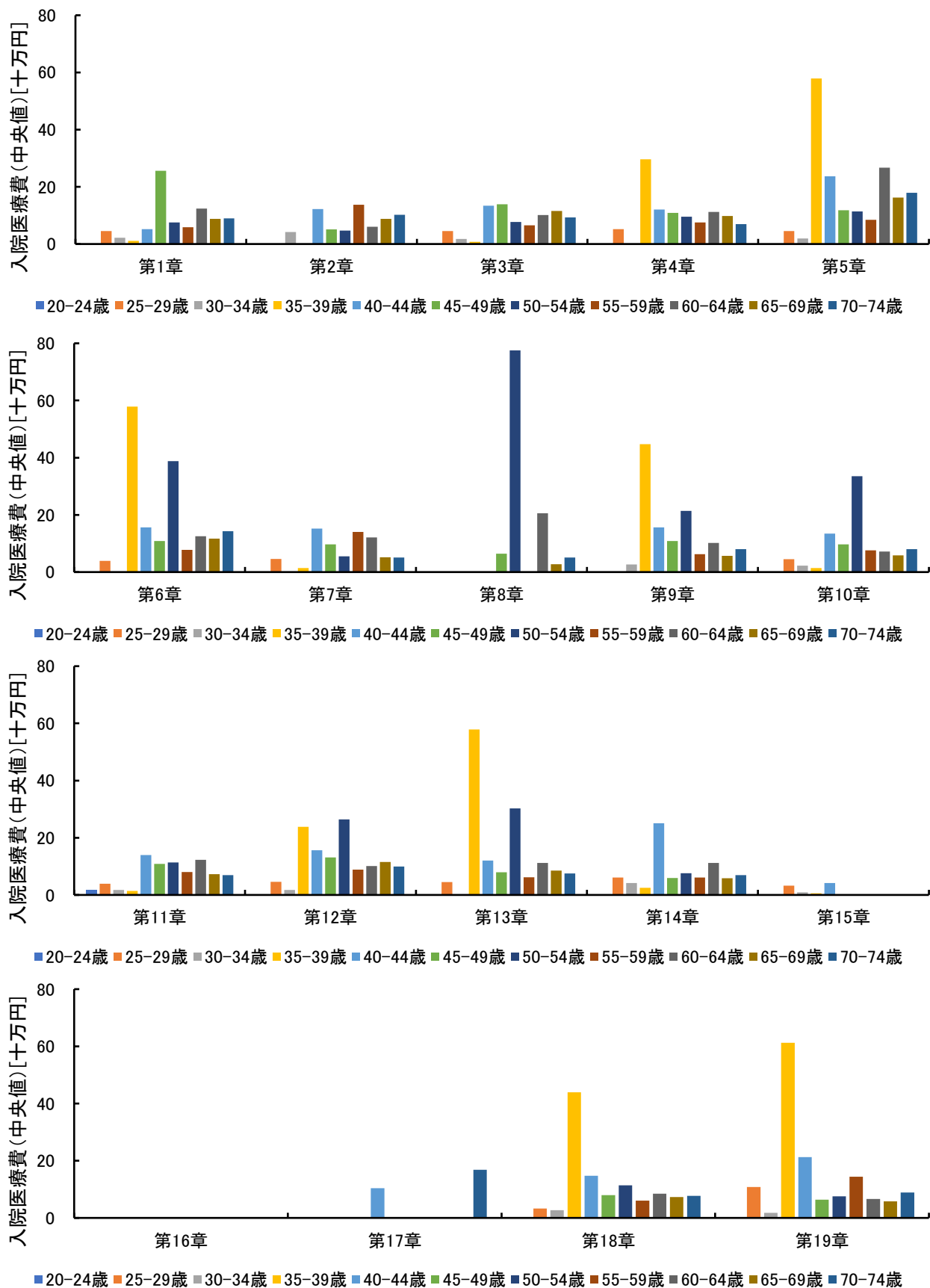


図 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

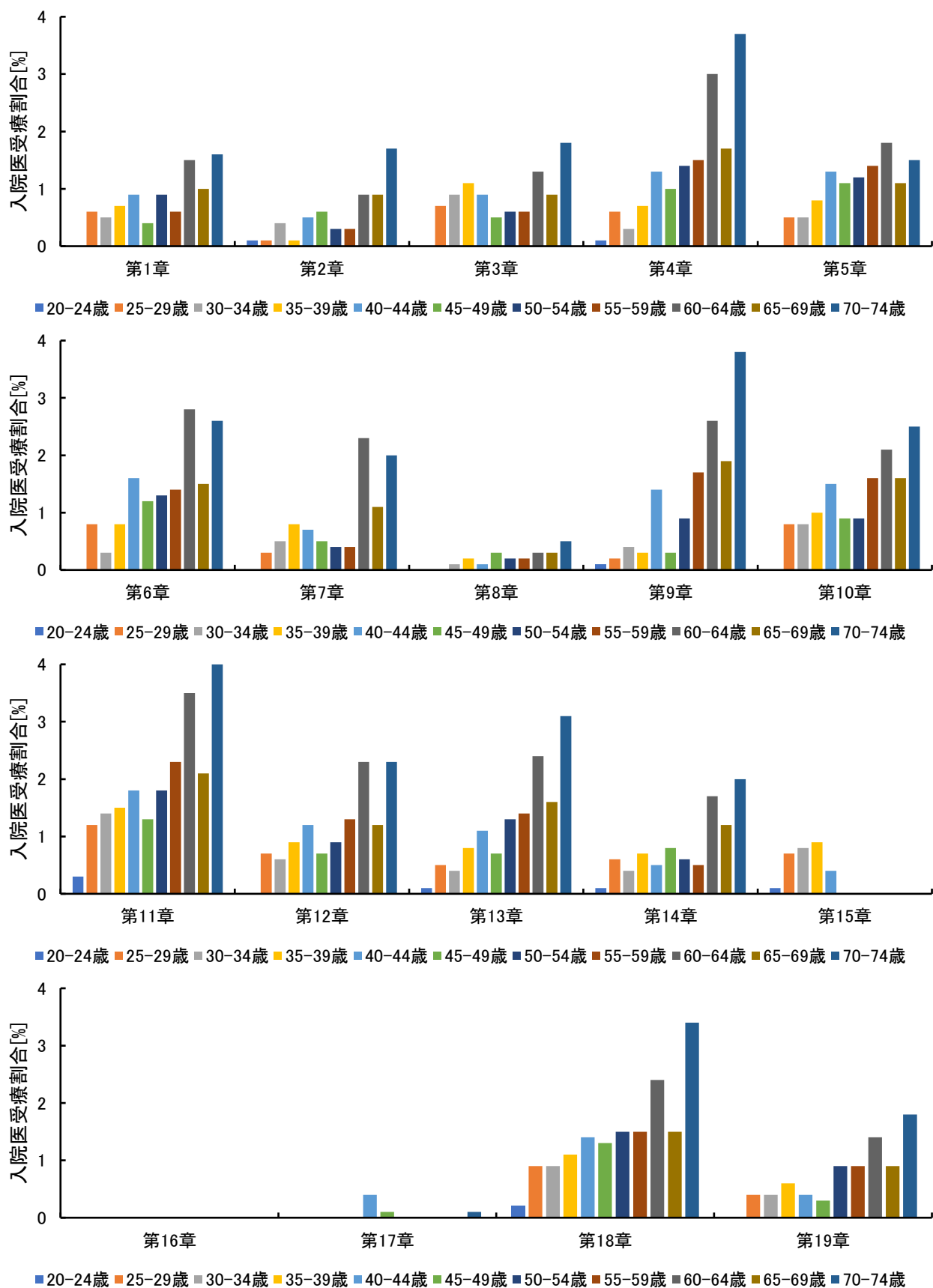


図 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合

表 4-6, 図 4-7 に疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値を示した。高額な医療費の影響を受けにくくするため, 中央値を示した。さらに, 該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-6, 図 4-7 より, 総医療費合計の傾向と入院外医療費の傾向は類似していることがわかった。

- 第 15 章, 第 16 章を除くすべての章で幼少期の医療費が高く, それ以降は減少するが, 30 歳から 40 歳代で再び増加する傾向にあることがわかった。
- 第 5 章の統合失調症等を含む精神及び行動の障害は 40-44 歳から急激に増加することがわかった。
- 第 6 章の不眠症等を含む神経系の疾患は他の章と比べ全体的に高い傾向にあり, 40-44 歳, 65-69 歳, 70-74 歳のタイミングで大きく増加することがわかった。

表 4-7, 図 4-8 に疾病分類別の入院外受療割合を示した。表 4-7, 図 4-8 より, 第 1 章のウイルス性胃腸炎等が含まれる感染症及び寄生虫症, 第 7 章の乱視等が含まれる眼及び付属器の疾患, 第 8 章の外耳炎が含まれる耳及び乳様突起の疾患, 第 10 章の風邪や咽頭痛等が含まれる呼吸器系の疾患, 第 12 章のアトピー等が含まれる皮膚及び皮下組織の疾患, 第 18 章の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの, 第 19 章の損傷, 中毒及びその他の外因の影響は幼児期と高齢期に高い割合であることがわかった。

年齢とともに受療割合が増加している疾病として, 以下の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患(腎不全等)

表 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	114,350	58,970	56,160	37,820	30,825	44,485	47,540	65,800
第2章 新生物	54,860	59,670	102,490	69,515	59,610	56,770	66,150	69,910
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0	132,970	85,585	33,055	73,115	76,080	68,180
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	135,540	54,260	44,420	80,940	61,250	67,210	64,280	80,175
第5章 精神及び行動の障害	103,300	79,950	72,710	79,035	45,825	50,440	60,065	64,965
第6章 神経系の疾患	0	83,230	48,560	62,085	41,085	60,770	64,760	67,380
第7章 眼及び付属器の疾患	103,130	45,715	31,860	20,855	17,515	33,990	34,735	40,920
第8章 耳及び乳様突起の疾患	100,720	51,490	44,650	37,265	34,490	34,440	44,125	66,750
第9章 循環器系の疾患	153,860	67,710	55,785	70,295	34,305	71,160	46,450	74,990
第10章 呼吸器系の疾患	72,060	40,760	35,040	37,330	31,280	35,720	35,180	40,655
第11章 消化器系の疾患	76,040	78,340	43,350	41,960	41,715	48,290	57,500	57,795
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	68,810	45,570	31,860	31,430	29,570	37,180	38,215	47,690
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	149,490	53,595	39,560	51,990	42,430	44,470	45,610	43,205
第14章 腎尿路性器系の疾患	126,340	205,065	57,915	41,450	34,555	41,860	39,655	63,920
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	16,350	47,385	37,590	37,830
第16章 周産期に発生した病態	83,070	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	135,470	47,805	114,355	12,250	80,875	78,315	34,830	66,700
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	107,150	61,850	40,990	38,915	38,850	51,590	51,460	66,670
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	95,260	45,525	37,050	43,590	46,490	38,440	45,370	59,995

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	67,705	79,240	64,680	102,705	115,700	129,360	148,010
第2章 新生物	90,410	87,245	99,865	85,710	126,650	142,820	183,600
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	103,515	95,635	91,700	114,660	129,325	146,340	162,735
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	94,560	85,395	73,815	85,710	89,940	95,060	116,630
第5章 精神及び行動の障害	94,755	80,300	83,520	103,430	104,830	129,070	146,010
第6章 神経系の疾患	86,745	87,820	77,500	95,985	100,140	117,320	138,100
第7章 眼及び付属器の疾患	48,950	59,170	54,345	59,720	86,490	102,300	118,400
第8章 耳及び乳様突起の疾患	57,010	81,150	72,780	93,860	96,290	110,780	138,430
第9章 循環器系の疾患	97,720	85,070	77,500	82,130	91,955	93,510	113,280
第10章 呼吸器系の疾患	51,595	58,370	58,935	72,775	80,630	98,060	116,920
第11章 消化器系の疾患	79,405	69,970	68,910	80,300	88,310	103,845	119,960
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	54,615	62,920	57,560	78,395	88,750	110,930	120,310
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	68,280	64,060	74,670	85,380	91,825	102,860	120,915
第14章 腎尿路性器系の疾患	79,830	67,735	84,950	104,750	121,445	131,900	155,275
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	76,270	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	105,275	66,725	72,160	97,720	117,130	134,785	168,345
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	81,500	81,110	81,280	88,200	100,180	113,570	135,125
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	68,280	77,870	81,890	75,850	115,385	129,430	147,510

表 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	38.3	22.3	21.1	14.5	12.5	15.4	17.3	14.4
第2章 新生物	2.1	0.8	1.1	1.8	2.0	2.8	4.4	5.9
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.6	0.5	2.4	3.2	1.3	3.1	4.3	5.7
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	3.6	1.3	3.4	3.7	5.3	7.4	9.5	11.5
第5章 精神及び行動の障害	1.5	5.2	6.1	5.1	6.3	11.5	12.0	13.3
第6章 神経系の疾患	0.3	2.3	6.6	6.9	6.7	12.0	13.9	15.2
第7章 眼及び付属器の疾患	19.6	37.8	41.4	32.6	16.6	14.1	18.8	16.2
第8章 耳及び乳様突起の疾患	26.5	30.6	20.3	9.7	3.2	4.9	5.8	4.6
第9章 循環器系の疾患	0.9	1.3	4.2	3.2	2.2	3.1	4.8	5.5
第10章 呼吸器系の疾患	70.2	68.1	49.6	35.6	26.2	27.5	32.2	27.6
第11章 消化器系の疾患	11.7	10.4	12.1	11.3	10.5	16.0	18.5	19.8
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	59.6	44.3	41.4	27.1	19.8	19.2	23.3	20.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	3.3	2.6	11.3	10.1	7.5	9.4	12.1	13.3
第14章 泌尿路性器系の疾患	2.1	2.1	3.2	6.0	10.3	11.8	13.3	11.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0.5	0.6	1.8	2.9	2.0
第16章 周産期に発生した病態	3.0	0.5	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	4.5	3.1	1.6	0.7	0.4	1.0	0.8	1.0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	33.4	19.4	22.4	18.4	12.7	16.9	16.5	17.6
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	18.4	17.6	22.4	16.1	4.8	6.9	7.8	7.8

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	15.8	13.2	14.2	11.8	16.6	18.9	21.9
第2章 新生物	6.8	8.4	7.4	8.8	12.7	14.7	17.9
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.9	7.2	6.6	7.2	10.3	12.0	15.2
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	14.4	19.3	24.3	27.9	39.6	47.5	53.9
第5章 精神及び行動の障害	14.1	15.8	15.3	15.6	11.7	11.9	13.7
第6章 神経系の疾患	18.5	20.9	21.4	22.7	25.3	27.2	33.2
第7章 眼及び付属器の疾患	20.9	19.9	19.8	23.7	30.2	37.6	43.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	6.5	4.2	5.2	6.1	7.5	10.7	11.1
第9章 循環器系の疾患	9.6	13.5	20.5	27.6	36.5	47.8	56.4
第10章 呼吸器系の疾患	32.5	27.7	26.4	30.3	33.9	40.0	42.3
第11章 消化器系の疾患	22.4	29.7	30.4	34.5	41.1	50.1	56.0
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	22.6	21.5	19.4	22.9	26.7	28.2	34.1
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	19.2	22.5	24.7	28.9	36.4	43.1	48.8
第14章 泌尿路性器系の疾患	12.3	14.5	13.3	13.2	15.0	19.2	23.2
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.3	0.2	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.5	1.8	0.9	0.9	1.8	2.1	2.0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.0	20.3	22.1	23.7	29.2	34.3	40.2
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	7.8	10.2	10.8	11.0	14.3	15.6	18.8

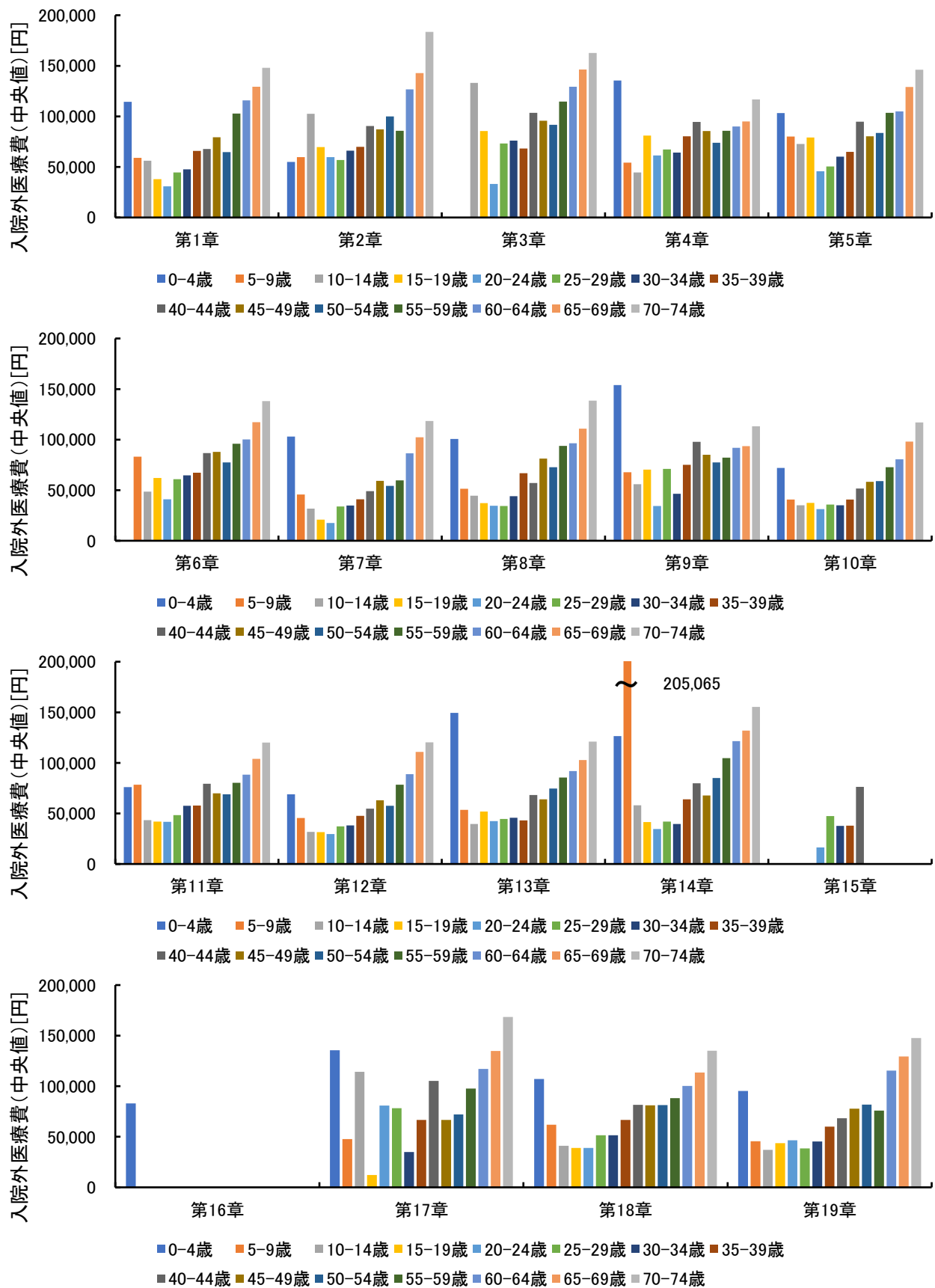


図 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

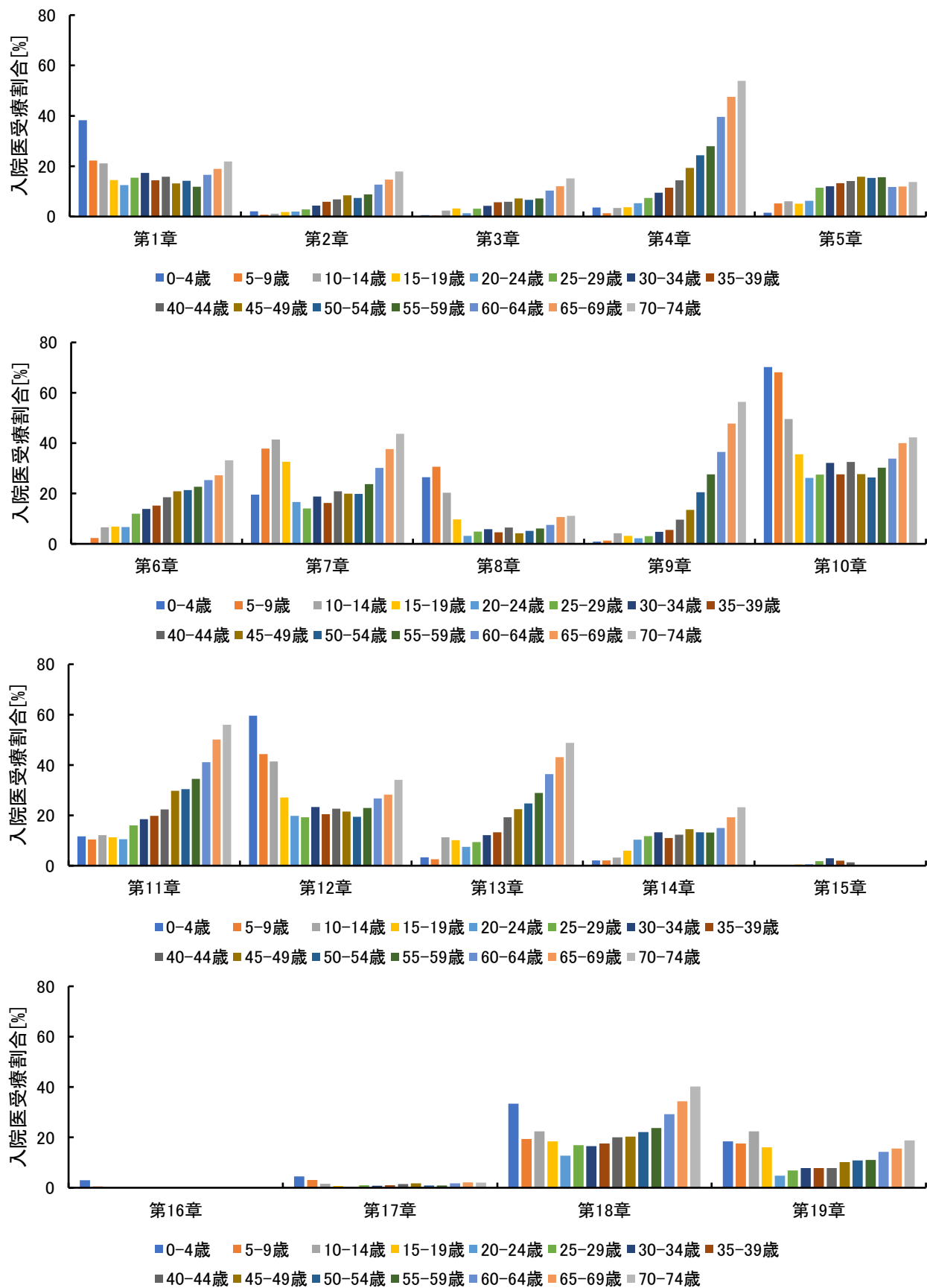


図 4-8 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

第5章 国保医療費の上位疾患の構造

1. 総医療費の上位疾患

表5-1にICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位30位までの傷病名と患者数、受療割合を示した。表5-1より、患者数は1位に高血圧症(3,447人)、18位に脂質異常症(1,173人)、20位に糖尿病(1,147人)が位置していることから、慢性疾患患者の人数が多いことがわかった。また、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、近視性乱視、湿疹、白内障、脂質欠乏症など呼吸器系、眼科系、皮膚に関する疾患の患者数も多いことがわかった。

表5-1 総医療費の患者数に関わる上位疾患

患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	3,447	20.5	16位	白内障	1,183	7.0
2位	アレルギー性鼻炎	3,331	19.8	17位	胃潰瘍	1,175	7.0
3位	アレルギー性結膜炎	2,223	13.2	18位	脂質異常症	1,173	7.0
4位	近視性乱視	1,996	11.9	19位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	1,150	6.8
5位	不眠症	1,913	11.4	20位	糖尿病	1,147	6.8
6位	急性気管支炎	1,875	11.2	21位	逆流性食道炎	1,097	6.5
7位	便秘症	1,724	10.3	22位	胃炎	1,081	6.4
8位	湿疹	1,578	9.4	23位	骨粗鬆症	1,080	6.4
9位	急性上気道炎	1,536	9.1	24位	脂質欠乏症	1,074	6.4
10位	腰痛症	1,459	8.7	25位	鉄欠乏性貧血	1,066	6.3
11位	高コレステロール血症	1,447	8.6	26位	2型糖尿病	1,043	6.2
12位	慢性胃炎	1,382	8.2	27位	急性副鼻腔炎	1,032	6.1
13位	高脂血症	1,367	8.1	28位	末梢神経障害	887	5.3
14位	気管支喘息	1,345	8.0	29位	ドライアイ	875	5.2
15位	急性咽頭喉頭炎	1,277	7.6	30位	遠視性乱視	865	5.1

表 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 30 位までの傷病名と患者数、受療割合を性別に示した。表 5-2 より、高血圧症は男性は 1 位、女性は 2 位、脂質異常症は男性は 20 位、女性は 19 位、糖尿病は男性は 13 位、女性は 29 位であった。高尿酸血症、2 型糖尿病、前立腺肥大症、耳垢栓塞は男性のみ、骨粗鬆症、ドライアイ、変形性膝関節症、遠視性乱視は女性のみに入っている疾患であった。

表 5-2 総医療費の患者数に関わる性別の上位疾患

男性				女性			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	1,835	22.8	1位	アレルギー性鼻炎	2,009	23.0
2位	アレルギー性鼻炎	1,322	16.4	2位	高血圧症	1,612	18.4
3位	近視性乱視	786	9.8	3位	アレルギー性結膜炎	1,522	17.4
4位	急性気管支炎	783	9.7	4位	近視性乱視	1,210	13.8
5位	不眠症	733	9.1	5位	不眠症	1,180	13.5
6位	便秘症	709	8.8	6位	急性気管支炎	1,092	12.5
7位	アレルギー性結膜炎	701	8.7	7位	便秘症	1,015	11.6
8位	高尿酸血症	684	8.5	8位	湿疹	1,007	11.5
9位	急性上気道炎	659	8.2	9位	骨粗鬆症	907	10.4
10位	高コレステロール血症	658	8.2	10位	急性上気道炎	877	10.0
11位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	640	8.0	11位	腰痛症	836	9.6
12位	高脂血症	637	7.9	12位	慢性胃炎	823	9.4
13位	糖尿病	633	7.9	13位	高コレステロール血症	789	9.0
14位	腰痛症	623	7.7	14位	急性咽喉頭炎	785	9.0
15位	2型糖尿病	622	7.7	15位	気管支喘息	772	8.8
16位	胃潰瘍	591	7.3	16位	白内障	755	8.6
17位	気管支喘息	573	7.1	17位	高脂血症	730	8.3
18位	湿疹	571	7.1	18位	胃炎	697	8.0
19位	慢性胃炎	559	6.9	19位	脂質異常症	653	7.5
20位	脂質異常症	520	6.5	20位	ドライアイ	652	7.5
21位	逆流性食道炎	496	6.2	21位	鉄欠乏性貧血	635	7.3
22位	急性咽喉頭炎	492	6.1	22位	急性副鼻腔炎	631	7.2
23位	皮脂欠乏症	449	5.6	23位	皮脂欠乏症	625	7.1
24位	鉄欠乏性貧血	431	5.4	24位	逆流性食道炎	601	6.9
25位	白内障	428	5.3	25位	変形性膝関節症	587	6.7
26位	急性副鼻腔炎	401	5.0	26位	胃潰瘍	584	6.7
27位	前立腺肥大症	398	4.9	27位	遠視性乱視	572	6.5
28位	胃炎	384	4.8	28位	末梢神経障害	532	6.1
29位	耳垢栓塞	362	4.5	29位	糖尿病	514	5.9
30位	末梢神経障害	355	4.4	30位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	510	5.8

表 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 15 位までの傷病名と患者数、受療割合を年齢階級別に示した。表 5-3 より、5-9 歳から 50-54 歳までの 1 位はアレルギー性鼻炎であり、アレルギー性結膜炎も高い順位を位置していることがわかった。うつ病は 25-29 歳、統合失調症は 40-44 歳、不眠症は 20-24 歳から患者数が多いことがわかった。また、高血圧症は 45-49 歳、糖尿病、脂質異常症は 55-59 歳から患者数が多いことがわかった。

表 5-3(a) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(0-19 歳)

0-4歳				5-9歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	急性上気道炎	200	60.2	1位	アレルギー性鼻炎	192	49.7
2位	急性気管支炎	176	53.0	2位	急性上気道炎	161	41.7
3位	アレルギー性鼻炎	149	44.9	3位	気管支喘息	125	32.4
4位	気管支喘息	117	35.2	4位	急性気管支炎	122	31.6
5位	湿疹	108	32.5	5位	耳垢栓塞	106	27.5
6位	耳垢栓塞	82	24.7	6位	アレルギー性結膜炎	99	25.6
7位	皮脂欠乏症	81	24.4	7位	急性咽頭喉頭炎	89	23.1
8位	発熱	75	22.6	8位	皮脂欠乏症	80	20.7
9位	急性咽頭喉頭炎	72	21.7	9位	急性副鼻腔炎	76	19.7
10位	皮脂欠乏性湿疹	72	21.7	10位	湿疹	76	19.7
11位	急性胃腸炎	63	19.0	11位	急性咽頭炎	60	15.5
12位	急性副鼻腔炎	62	18.7	12位	発熱	50	13.0
13位	急性咽頭炎	48	14.5	13位	じんま疹	41	10.6
14位	急性鼻炎	37	11.1	14位	急性胃腸炎	34	8.8
15位	アレルギー性結膜炎	30	9.0	15位	近視性乱視	33	8.5

10-14歳				15-19歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	145	38.3	1位	アレルギー性鼻炎	86	19.8
2位	アレルギー性結膜炎	105	27.7	2位	近視性乱視	74	17.0
3位	急性上気道炎	83	21.9	3位	アレルギー性結膜炎	62	14.3
4位	気管支喘息	79	20.8	4位	急性上気道炎	50	11.5
5位	急性気管支炎	78	20.6	5位	尋常性ざ瘡	46	10.6
6位	急性咽頭喉頭炎	70	18.5	6位	皮脂欠乏症	43	9.9
7位	耳垢栓塞	69	18.2	7位	急性咽頭炎	42	9.7
8位	近視性乱視	68	17.9	8位	急性気管支炎	41	9.4
9位	皮脂欠乏症	68	17.9	9位	急性副鼻腔炎	34	7.8
10位	急性副鼻腔炎	66	17.4	10位	急性咽頭喉頭炎	33	7.6
11位	湿疹	58	15.3	11位	耳垢栓塞	32	7.4
12位	急性咽頭炎	49	12.9	12位	顔面尋常性ざ瘡	31	7.1
13位	アトピー性皮膚炎	31	8.2	13位	湿疹	30	6.9
14位	じんま疹	30	7.9	14位	気管支喘息	29	6.7
15位	急性鼻炎	29	7.7	15位	アトピー性皮膚炎	24	5.5

表 5-3(b) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(20-39 歳)

20-24歳				25-29歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	104	11.6	1位	アレルギー性鼻炎	142	14.6
2位	急性上気道炎	87	9.7	2位	急性気管支炎	105	10.8
3位	近視性乱視	84	9.4	3位	急性上気道炎	89	9.1
4位	急性気管支炎	75	8.4	4位	近視性乱視	74	7.6
5位	急性咽頭喉頭炎	63	7.1	5位	不眠症	73	7.5
6位	アレルギー性結膜炎	55	6.2	6位	急性咽頭喉頭炎	65	6.7
7位	皮脂欠乏症	55	6.2	7位	アレルギー性結膜炎	62	6.4
8位	急性副鼻腔炎	44	4.9	8位	湿疹	58	6.0
9位	尋常性ざ瘡	44	4.9	9位	急性咽頭炎	53	5.4
10位	急性咽頭炎	43	4.8	10位	うつ病	52	5.3
11位	アトピー性皮膚炎	41	4.6	11位	気管支喘息	50	5.1
12位	湿疹	41	4.6	12位	急性副鼻腔炎	49	5.0
13位	COVID-19	33	3.7	13位	慢性胃炎	48	4.9
14位	発熱	31	3.5	14位	発熱	47	4.8
15位	不眠症	30	3.4	15位	COVID-19	47	4.8

30-34歳				35-39歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	140	17.5	1位	アレルギー性鼻炎	138	15.9
2位	急性気管支炎	93	11.6	2位	急性気管支炎	92	10.6
3位	アレルギー性結膜炎	80	10.0	3位	不眠症	80	9.2
4位	急性咽頭喉頭炎	78	9.8	4位	近視性乱視	74	8.5
5位	近視性乱視	76	9.5	5位	急性上気道炎	70	8.0
6位	不眠症	64	8.0	6位	急性咽頭喉頭炎	66	7.6
7位	急性上気道炎	64	8.0	7位	アレルギー性結膜炎	62	7.1
8位	急性副鼻腔炎	49	6.1	8位	急性咽頭炎	57	6.6
9位	湿疹	48	6.0	9位	鉄欠乏性貧血	46	5.3
10位	急性咽頭炎	47	5.9	10位	急性副鼻腔炎	45	5.2
11位	皮脂欠乏症	40	5.0	11位	便秘症	45	5.2
12位	慢性胃炎	38	4.8	12位	気管支喘息	44	5.1
13位	気管支喘息	37	4.6	13位	皮脂欠乏症	44	5.1
14位	胃炎	35	4.4	14位	腰痛症	44	5.1
15位	うつ病	33	4.1	15位	うつ病	43	4.9

表 5-3(c) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(40-59 歳)

40-44歳				45-49歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	181	19.9	1位	アレルギー性鼻炎	179	16.0
2位	急性気管支炎	102	11.2	2位	不眠症	127	11.4
3位	不眠症	101	11.1	3位	アレルギー性結膜炎	115	10.3
4位	アレルギー性結膜炎	94	10.3	4位	高血圧症	104	9.3
5位	近視性乱視	91	10.0	5位	近視性乱視	102	9.1
6位	急性咽頭喉頭炎	77	8.5	6位	急性気管支炎	88	7.9
7位	湿疹	72	7.9	7位	胃炎	84	7.5
8位	腰痛症	70	7.7	8位	湿疹	78	7.0
9位	急性上気道炎	63	6.9	9位	慢性胃炎	77	6.9
10位	慢性胃炎	63	6.9	10位	便秘症	77	6.9
11位	便秘症	61	6.7	11位	腰痛症	75	6.7
12位	急性副鼻腔炎	58	6.4	12位	統合失調症	71	6.4
13位	うつ病	56	6.2	13位	気管支喘息	68	6.1
14位	胃炎	56	6.2	14位	急性咽頭喉頭炎	66	5.9
15位	統合失調症	52	5.7	15位	逆流性食道炎	65	5.8

50-54歳				55-59歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	195	15.4	1位	高血圧症	215	21.2
2位	高血圧症	182	14.4	2位	アレルギー性鼻炎	168	16.6
3位	不眠症	157	12.4	3位	不眠症	133	13.1
4位	近視性乱視	121	9.6	4位	近視性乱視	112	11.0
5位	アレルギー性結膜炎	107	8.5	5位	アレルギー性結膜炎	103	10.1
6位	慢性胃炎	101	8.0	6位	便秘症	102	10.0
7位	便秘症	99	7.8	7位	腰痛症	88	8.7
8位	腰痛症	89	7.0	8位	高脂血症	85	8.4
9位	湿疹	85	6.7	9位	慢性胃炎	79	7.8
10位	統合失調症	78	6.2	10位	湿疹	79	7.8
11位	急性上気道炎	77	6.1	11位	糖尿病	74	7.3
12位	急性気管支炎	76	6.0	12位	高コレステロール血症	73	7.2
13位	高コレステロール血症	75	5.9	13位	急性気管支炎	72	7.1
14位	胃炎	74	5.8	14位	脂質異常症	71	7.0
15位	高脂血症	69	5.5	15位	逆流性食道炎	71	7.0

表 5-3(d) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(60-74 歳)

60-64歳				65-69歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	334	28.1	1位	高血圧症	802	36.0
2位	アレルギー性鼻炎	219	18.4	2位	アレルギー性鼻炎	449	20.1
3位	アレルギー性結膜炎	161	13.6	3位	アレルギー性結膜炎	370	16.6
4位	不眠症	156	13.1	4位	高コレステロール血症	357	16.0
5位	近視性乱視	149	12.5	5位	近視性乱視	321	14.4
6位	高コレステロール血症	148	12.5	6位	高脂血症	305	13.7
7位	便秘症	144	12.1	7位	白内障	305	13.7
8位	高脂血症	135	11.4	8位	脂質異常症	301	13.5
9位	慢性胃炎	125	10.5	9位	便秘症	298	13.4
10位	腰痛症	119	10.0	10位	不眠症	281	12.6
11位	脂質異常症	116	9.8	11位	腰痛症	268	12.0
12位	急性気管支炎	116	9.8	12位	骨粗鬆症	258	11.6
13位	胃潰瘍	116	9.8	13位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	253	11.4
14位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	111	9.3	14位	2型糖尿病	243	10.9
15位	糖尿病	105	8.8	15位	慢性胃炎	243	10.9

70-74歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	1,731	43.2
2位	アレルギー性鼻炎	844	21.1
3位	便秘症	731	18.3
4位	白内障	726	18.1
5位	アレルギー性結膜炎	718	17.9
6位	高コレステロール血症	716	17.9
7位	不眠症	701	17.5
8位	高脂血症	678	16.9
9位	骨粗鬆症	648	16.2
10位	腰痛症	629	15.7
11位	近視性乱視	612	15.3
12位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	567	14.2
13位	糖尿病	558	13.9
14位	慢性胃炎	544	13.6
15位	脂質異常症	541	13.5

2. 入院医療費の上位疾患

図 5-1 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 15 位までの傷病名と入院医療費の中央値を示した。患者数が 10 以下の場合には採用しなかった。図 5-1 より、黄緑色（第 5 章）の精神及び行動の障害、ローズピンク色（第 6 章）の神経系の疾患が全体の入院医療費では上位に位置することがわかった。

下段は医療費（中央値）[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	嚥下障害	喀痰喀出困難	胃瘻造設状態	症候性てんかん	栄養障害	薬剤性パーキンソン症候群	てんかん	低ナトリウム血症	誤嚥性肺炎	認知症
	5,710,705	5,634,830	5,541,090	4,734,385	4,602,890	4,468,975	3,696,565	3,426,070	3,422,790	3,299,645
	11位	12位		14位	15位					
	パーキンソン症候群	高次脳機能障害	脳梗塞後遺症	経口摂取困難	統合失調症					
	2,855,490	2,847,870	2,847,870	2,727,100	2,561,990					

図 5-1 入院医療費（中央値）に関する上位 15 疾患

図 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 3 以下の場合には採用しなかった。図 5-2 より、黄緑色(第 5 章)の精神及び行動の障害の統合失調症は 25 歳から 55 歳までの働き世代、うつ病は 40-44 歳から上位に位置していることがわかった。ローズピンク色(第 6 章)の神経系の疾患は 40-44 歳から増加していることがわかった。水色(第 4 章)の内分泌、栄養及び代謝疾患は、青色の第 9 章の循環器系の疾患は 40-44 歳から増加し始め、55-59 歳では 4 疾患が上位に位置していた。緑色(第 11 章)の消化器系の疾患の便秘症は 25 歳から 59 歳までの働き世代で上位に位置していることがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位			7位			
25-29歳	急性咽頭炎	統合失調症	胃潰瘍	アレルギー性鼻炎	気管支喘息	便秘症	急性胃腸炎	鉄欠乏性貧血	適応障害	不眠症
	604,100	517,145	454,670	452,450	452,450	452,450	450,230	450,230	450,230	450,230
30-34歳	1位	3位	4位	6位	7位	8位				
	急性気管支炎	アレルギー性鼻炎	切迫流産	鉄欠乏性貧血	胃炎	頭痛	便秘症	近視性乱視	-	-
	498,240	498,240	175,740	93,590	93,590	11,440	9,020	7,650		
35-39歳	1位	3位	5位	6位	7位	8位	9位	10位		
	喀痰喀出困難	嚥下障害	てんかん	脳性麻痺	知的障害	統合失調症	便秘症	胃炎	腰痛症	鉄欠乏性貧血
	8,491,960	8,491,960	7,307,730	7,307,730	5,786,580	4,396,175	353,240	214,240	138,600	77,690
40-44歳	1位	2位	3位	6位	8位	10位				
	高血圧症	てんかん	高尿酸血症	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	廃用症候群	薬剤性パーキンソン症候群	便秘症	統合失調症	うつ病	2型糖尿病
	2,972,990	2,692,930	2,637,680	2,637,680	2,637,680	2,512,080	2,512,080	2,366,410	2,366,410	2,220,740
45-49歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	8位	9位	10位	
	胃炎	てんかん	うつ状態	脱水症	便秘症	統合失調症	薬剤性パーキンソン症候群	不眠症	胃潰瘍	COVID-19
	3,793,115	3,770,830	1,974,970	1,834,955	1,660,250	1,625,560	1,625,560	1,355,375	1,085,190	859,350
50-54歳	1位	2位	3位	4位	8位	10位				
	薬剤性パーキンソン症候群	末梢神経障害	統合失調症	症候性てんかん	心不全	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	便秘症	精神運動発作	腰痛症	脱水症
	5,045,680	5,019,915	4,806,440	4,754,910	4,754,910	4,754,910	4,754,910	4,725,440	4,725,440	3,159,010
55-59歳	1位	2位	3位	5位	6位	7位	9位	10位		
	知的障害	心不全	脳梗塞	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	てんかん	2型糖尿病	うつ血性心不全	肝機能障害	狭心症	糖尿病
	2,969,060	2,429,270	2,125,570	2,125,570	2,116,215	1,934,810	1,440,350	1,440,350	1,407,280	1,374,210
60-64歳	1位	2位	2位	4位	5位	6位	7位	8位	10位	
	薬剤性パーキンソン症候群	てんかん	胃瘻造設状態	低ナトリウム血症	尿路感染症	統合失調症	脳梗塞	難治性逆流性食道炎	変形性関節症	高次脳機能障害
	4,743,330	3,510,240	3,510,240	3,341,900	3,332,350	2,913,910	2,847,870	2,745,330	2,745,330	2,717,045
65-69歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	仙骨部褥瘡	パーキンソン症候群	認知症	てんかん	廃用症候群	薬剤性パーキンソン症候群	変形性腰椎症	脱水症	甲状腺機能低下症	自律神経発作
	5,634,830	4,680,270	4,442,720	4,012,790	3,845,750	3,615,850	3,392,390	3,145,555	3,139,040	3,091,360
70-74歳	1位	2位	3位	4位	5位	7位	8位	9位	10位	
	菌血症	胃瘻造設状態	気管切開術後	脳出血後遺症	薬剤性パーキンソン症候群	イレウス	器質性精神障害	筋萎縮性側索硬化症	喀痰喀出困難	慢性閉塞性肺疾患
	8,880,960	6,312,975	5,541,090	5,360,420	4,986,060	4,986,060	4,816,850	4,602,890	4,480,215	4,084,685

図 5-2 入院医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患

3. 入院外医療費の上位疾患

図 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院外医療費の中央値の上位 15 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を示した。患者数が 10 以下の場合には採用しなかった。図 5-3 より、全体の入院外医療費では水色(第 4 章)の内分泌、栄養及び代謝疾患が上位に位置していることがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	2位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	透析困難症	カルニチン欠乏症	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	透析シャント狭窄	副甲状腺機能亢進症	腎性貧血	発熱性好中球減少症	慢性呼吸不全	高カリウム血症
	4,733,710	4,560,000	4,560,000	4,194,480	4,182,890	3,534,830	3,088,300	1,510,900	1,038,260	762,670
	11位	12位	13位	14位	15位					
	化学療法に伴う嘔吐症	腎性浮腫	癌性疼痛	リンパ節転移	好中球減少症					
	662,010	654,190	569,180	467,640	455,140					

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する上位 15 疾患

図 5-3, 5-4 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に, 入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 10 以下の場合には採用しなかった。図 5-3, 5-4 より, オレンジ色(第 10 章)の呼吸器系の疾患は 0 歳から 24 歳までは上位に位置していることがわかった。ピンク色(第 1 章)の感染症及び寄生虫症の下痢症, 胃腸炎は 0 歳～19 歳までの子どもは上位に位置していることがわかった。25-29 歳からは黄緑色(第 5 章)の精神及び行動の障害が増加していた。35-39 歳からは水色(第 4 章)の内分泌, 栄養及び代謝疾患が増加していた。COVID-19(赤色)は 5-9 歳で 1 位, 15-19 歳で 4 位, 65-69 歳で 8 位に位置していた。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	2位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
0-4歳	胃腸炎	下痢症	おむつ皮膚炎	感冒性胃腸炎	嘔吐症	急性咽頭炎	頭部打撲	外耳炎	細菌感染症	咽頭喉頭炎
	74,285	68,470	68,470	66,600	66,440	58,730	57,920	55,945	52,040	48,280
5-9歳	COVID-19	急性化膿性中耳炎	嘔吐症	急性咽頭喉頭炎	うつ血性鼻炎	咽頭炎	急性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	アレルギー性結膜炎	外耳炎
	56,230	53,000	51,030	43,050	42,490	36,790	36,340	36,055	34,160	33,680
10-14歳	片頭痛	外耳炎	急性中耳炎	急性胃腸炎	慢性副鼻腔炎	下痢症	花粉症	皮膚炎	外耳湿疹	急性咽頭喉頭炎
	61,480	61,460	60,360	47,350	46,140	45,085	42,220	37,910	35,055	35,055
15-19歳	慢性副鼻腔炎	アトピー性皮膚炎	細菌感染症	COVID-19	下痢症	急性気管支炎	皮脂欠乏症	便秘症	アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎
	46,405	41,980	40,820	30,180	28,025	25,890	25,890	25,490	25,375	25,235
20-24歳	子宮腺筋症	ドライアイ	月経痛	不眠症	胃潰瘍	咽頭炎	嘔吐症	急性気管支炎	胃炎	気管支喘息
	58,475	46,440	44,160	43,720	42,155	40,990	40,740	40,430	38,180	36,830
25-29歳	不安障害	末梢神経障害	結膜炎	慢性胃炎	細菌感染症	月経困難症	統合失調症	適応障害	子宮内膜症	胃潰瘍
	54,330	51,630	50,230	48,865	48,400	47,770	47,190	47,040	45,290	44,740
30-34歳	不安神経症	胃潰瘍	細菌感染症	躁うつ病	結膜炎	神経症	アトピー性皮膚炎	皮脂欠乏症	下痢症	急性咽頭喉頭炎
	46,645	44,670	44,630	43,830	43,140	42,390	35,020	34,670	33,905	33,610
35-39歳	高コレステロール血症	高血圧症	躁うつ病	不安障害	脂質異常症	高脂血症	緑内障	皮膚感染症	便秘症	子宮内膜症
	66,165	65,485	64,810	62,470	61,485	54,370	54,370	53,750	52,520	49,380

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(0-4 歳～35-39 歳)

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	2位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
40-44歳	緑内障	糖尿病	高脂血症	肝機能障害	結膜炎	高尿酸血症	躁うつ病	2型糖尿病	咽頭炎	慢性胃炎
	79,730	79,220	79,220	77,765	66,565	58,710	57,375	52,175	51,165	50,330
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
45-49歳	自律神経発作	うつ状態	難治性逆流性 食道炎	睡眠時無呼吸 症候群	皮膚欠乏性湿 疹	維持療法の必 要な難治性逆 流性食道炎	肩関節周囲炎	アトピー性皮膚 炎	不安神経症	高脂血症
	92,615	87,710	75,440	69,970	64,425	64,225	60,780	58,030	55,695	55,545
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
50-54歳	自律神経発作	甲状腺機能低 下症	腰部脊柱管狭 窄症	慢性腎不全	末梢神経障害 性疼痛	月経困難症	子宮腺筋症	脂肪肝	卵巣機能不全	月経不順
	76,710	72,900	72,855	65,280	64,160	58,180	55,180	51,725	51,495	47,670
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
55-59歳	急性扁桃炎	急性胃炎	じんま疹	後部硝子体剥 離	腰椎椎間板ヘル ニア	便潜血	ヘリコバク ター・ピロリ胃 炎	子宮腔部びらん	慢性肝炎	糖尿病網膜症
	126,890	84,880	80,580	72,345	69,980	67,340	65,750	64,975	63,680	61,900
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
60-64歳	慢性肝炎	急性胃腸炎	続発性副甲状 腺機能亢進症	慢性腎不全	陥入爪	老人性初発白 内障	高リン血症	高LDL血症	高カリウム血 症	内頸動脈狭窄 症
	140,460	105,435	86,455	84,870	84,095	75,070	72,290	71,870	71,200	71,070
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
65-69歳	結節性甲状腺 腫	後発白内障	関節水腫	過敏性腸症候 群	慢性便秘	肩腱板損傷	動脈硬化症	COVID-19	高LDL血症	尿路感染症
	148,120	146,800	131,480	118,435	111,860	109,630	108,300	106,815	106,675	105,775
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
70-74歳	横行結腸ポ リープ	糖尿病黄斑症	慢性中耳炎	股関節周囲炎	甲状腺腫	高トリグリセ ライド血症	洞徐脈	腺腫様甲状腺 腫	糖尿病性末梢 神経障害	胸部大動脈瘤
	154,935	132,330	121,050	97,870	93,620	91,950	91,280	90,920	90,620	90,590

図 5-4 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(40-44 歳~70-74 歳)

第6章 注目疾患別に見た診療の状況

1. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費

表 6-1 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-1 より、入院医療費は糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患に加え、50-54 歳から脳出血・脳梗塞、55-59 歳から心疾患、脳血管疾患、60-64 歳から腎不全の医療費が発生していることがわかった。

表 6-2 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院受療割合を示した。表 6-2 より、糖尿病の入院受療割合は 40-44 歳、70-74 歳のタイミングで大きく増加したことがわかった。高血圧は 40-44 歳から大きく増加し、脂質異常症は 40-44 歳から年齢に伴い増加していた。心疾患、脳血管疾患の入院受療割合は 55-59 歳、腎不全は 60-64 歳から割合が増加し、それに伴い、入院医療費も増加したことが確認できた。

表 6-1 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	0	138,600	1,379,780	0	694,645	1,374,210	1,016,315	704,250	524,750
高血圧	0	0	268,990	0	2,637,680	0	927,490	625,330	1,009,870	546,040	651,190
脂質異常症	0	0	0	0	2,764,520	2,205,745	758,010	616,895	666,910	614,190	492,955
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	1,374,210	1,022,760	837,175	651,190
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	1,440,350	1,243,535	1,947,460	1,430,610
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	4,754,910	2,125,570	2,665,775	582,490	1,543,030
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	842,185	805,805	697,665
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0	661,610	1,675,800	508,625
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	1,194,600	0	132,780	1,374,210	1,016,315	682,340	672,740

表 6-2 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	0.1	0.3	0.9	0.2	0.5	0.7	1.7	0.8	1.9
高血圧	0	0	0.4	0.2	0.8	0.2	0.5	1.3	1.9	1.5	2.8
脂質異常症	0	0.2	0.1	0.1	0.4	0.4	0.6	0.8	1.3	1.2	1.9
心疾患	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.4	0.6	1.0
脳血管疾患	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.5	0.5	0.2	0.7
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.5	0.8	0.4	0.7
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0.5	0.2	0.5
腎不全	0	0.1	0	0	0.2	0	0.1	0.1	0.8	0.3	0.4
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0.1	0.1	0.5	0.1	0.3	0.3	1.3	0.5	1.2

2. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費

表 6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-3 より、糖尿病の入院外医療費は 20-24 歳から発生し、60-64 歳で 10 万円を超えていた。高血圧の入院外医療費は 25-29 歳から発生し、年齢とともに増加傾向であった。脂質異常症の入院外医療費は 20-24 歳から発生し、40-44 歳で 10 万円を超えていた。腎不全の入院外医療費は 40-44 歳から発生し、40-44 歳では 30 万を超え、50 歳以降は 11 万～28 万円の入院外医療費が発生していた。

表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外受療割合を示した。表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 より、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、腎・糖尿病合併症の入院外受療割合は 40-44 歳から急激に割合が増加していた。40-44 歳で糖尿病は 4.5%、高血圧は 5.5%、脂質異常症は 4.8%であり、70-74 歳では糖尿病 25.3%、高血圧 45.4%、脂質異常症 40.0%まで上昇していた。それに伴い、50-54 歳から心疾患、脳血管疾患、腎不全の入院外受療割合が増加した。

表 6-3 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	0	0	117,120	77,870	90,430	99,525
高血圧	0	0	0	0	0	71,160	84,690	71,765
脂質異常症	0	0	0	0	134,600	106,320	71,700	80,175
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	423,910
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	111,495
脳出血 脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	136,680	56,690	100,105	65,580

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	104,980	95,660	92,120	93,690	109,595	105,350	131,860
高血圧	105,715	82,250	73,850	79,330	85,610	93,410	111,140
脂質異常症	101,920	76,280	72,630	91,130	83,310	98,015	113,565
心疾患	164,690	95,660	153,240	107,390	118,670	114,760	150,060
脳血管疾患	84,595	60,430	97,070	110,130	109,330	108,480	139,620
脳出血 脳梗塞	86,320	60,720	80,790	103,700	113,700	95,090	114,770
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	1,038,685	264,570	256,860	104,610	185,510	117,280	156,990
腎不全	302,215	63,820	288,750	116,240	242,560	136,310	225,100
2型糖尿病性神経筋疾患	126,710	108,245	106,130	125,000	128,460	115,580	146,800

表 6-4 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0.3	0.3	0.5	0.6	0.7	2.0	3.2
高血圧	0	0	0.5	0.2	0.2	0.6	1.8	2.3
脂質異常症	0	0.3	0.5	0	0.3	0.9	1.9	3.0
心疾患	0	0.3	0.3	0	0	0.2	0.3	0.5
脳血管疾患	0	0	0	0	0.2	0	0	0.5
脳出血_脳梗塞	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.2
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0.3	0.1
腎不全	0	0	0.5	0	0.1	0.1	0	0.2
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0.3	0	0.5	0.4	0.5	1.5	1.7

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	4.6	7.6	9.1	12.6	16.2	21.1	25.3
高血圧	5.5	9.9	15.7	22.1	30.1	38.9	46.4
脂質異常症	4.8	9.6	14.0	18.8	28.2	35.4	40.0
心疾患	1.2	1.3	2.4	3.5	5.1	7.8	10.8
脳血管疾患	0.9	1.2	2.1	4.1	5.3	7.2	9.9
脳出血_脳梗塞	0.3	1.0	1.5	3.3	3.2	4.0	5.2
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0.4	0.4	0.6	1.6	2.7	4.3	6.2
腎不全	0.9	1.1	1.2	1.4	2.8	2.1	3.6
2型糖尿病性神経筋疾患	3.2	4.8	6.0	8.2	10.5	13.1	16.6

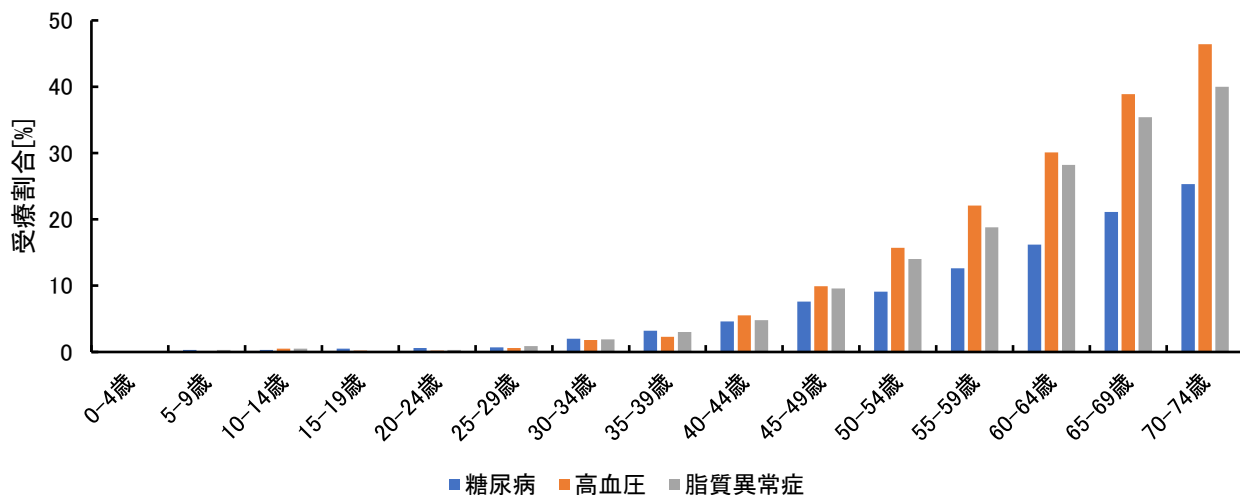


図 6-1 慢性疾患に対する入院外医療費の受療割合

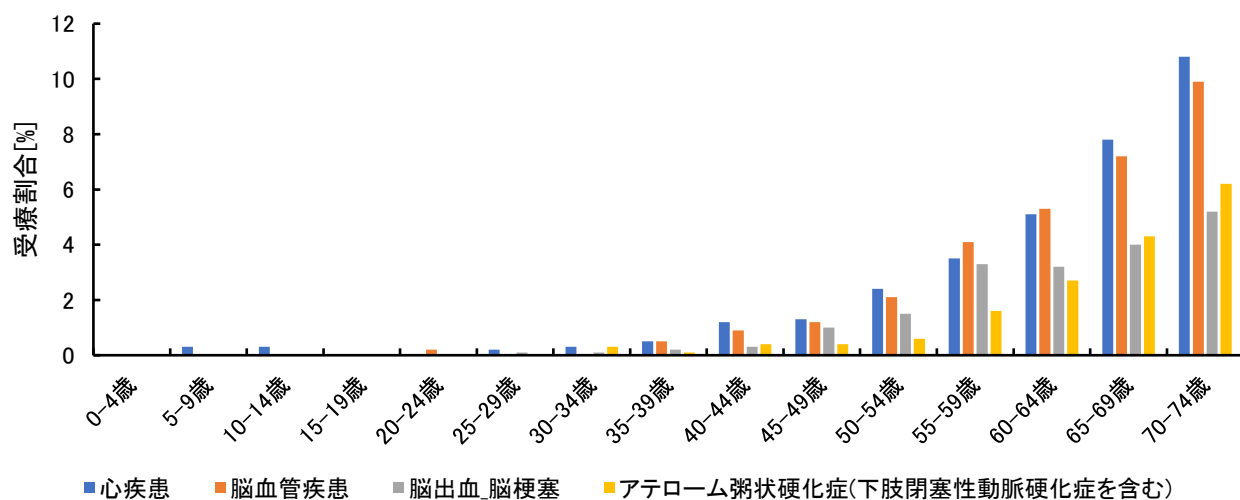


図 6-2 心・脳血管疾患に対する入院外医療費の受療割合

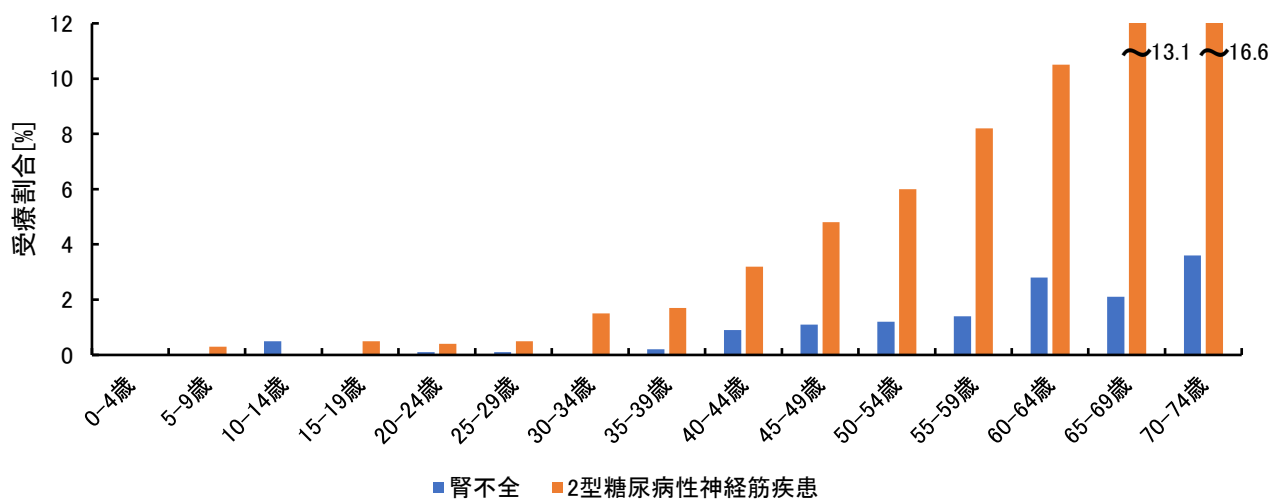


図 6-3 腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費

表 6-5 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-5 より、入院医療費について睡眠障害は 25-29 歳から発生し、40-44 歳で大きく増加していた。うつ病エピソード、躁病エピソードは 40-44 歳から発生していた。睡眠障害の入院医療費は 40-44 歳で 180 万円を超えていた。

表 6-6 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合を示した。表 6-6 より、うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害の入院受療割合は 20-24 歳から発生し、うつ病エピソード、睡眠障害は 40-44 歳で大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病は 60-64 歳で大きく割合が増加した。

表 6-5 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0	0	0	0	2,366,410	1,974,970	768,200	799,310	1,222,675	1,380,850	1,890,260
躁病エピソード	0	0	0	0	3,350,060	0	0	0	1,942,005	0	3,422,790
睡眠障害	0	450,230	0	0	1,892,850	1,355,375	1,251,260	799,310	1,412,915	1,153,150	1,067,470
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,045,285

表 6-6 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0	0.2	0.1	0.1	0.7	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4
躁病エピソード	0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.1
睡眠障害	0	0.7	0.1	0.2	1.3	0.9	0.9	1.1	1.9	1.0	1.5
アルツハイマー病	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0	0.4	0.3	0.6

4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費

表 6-7 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-7 より、うつ病エピソードの入院外医療費は 15-19 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあり、40-44 歳では 10 万円を超えていた。睡眠障害の入院外医療費は 10-14 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあり、40-44 歳から大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病の入院外医療費は 65-69 歳から発生していた。

表 6-8、図 6-4 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外受療割合を示した。表 6-8、図 6-4 より、うつ病エピソードの入院外受療割合は 15-19 歳から発生し、25-29 歳で 6%を超え、30 歳～59 歳までの働き世代では 4.9～6.5%を推移していた。睡眠障害は 25-29 歳から大きく増加し、45-49 歳では 12%を超え、70-74 歳の受療割合は 18.6%まで増加した。

表 6-7 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	86,250	62,220	68,340	59,670	64,965
躁病エピソード	0	0	0	48,390	42,240	102,320	72,075	80,260
睡眠障害	0	0	54,350	80,210	62,220	64,760	72,045	68,180
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
うつ病エピソード	107,300	81,340	84,870	133,420	140,600	139,100	161,170	
躁病エピソード	134,400	113,880	107,575	120,045	83,480	142,700	92,075	
睡眠障害	122,695	102,190	85,955	107,790	121,780	126,210	147,220	
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	156,900	139,250	

表 6-8 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	1.4	2.5	6.2	5.1	6.0
躁病エピソード	0	0	0	0.7	0.6	1.7	3.3	2.8
睡眠障害	0	0.5	1.6	2.1	3.8	7.9	8.5	9.9
アルツハイマー病	0	0	0	0	0.1	0.3	0.4	0.6
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
うつ病エピソード	6.5	5.7	6.2	4.9	3.9	4.0	3.6	
躁病エピソード	3.3	2.9	2.4	2.0	0.8	0.8	0.5	
睡眠障害	11.6	12.4	13.1	13.7	14.3	13.8	18.6	
アルツハイマー病	1.1	2.2	3.3	4.2	6.4	8.3	11.6	

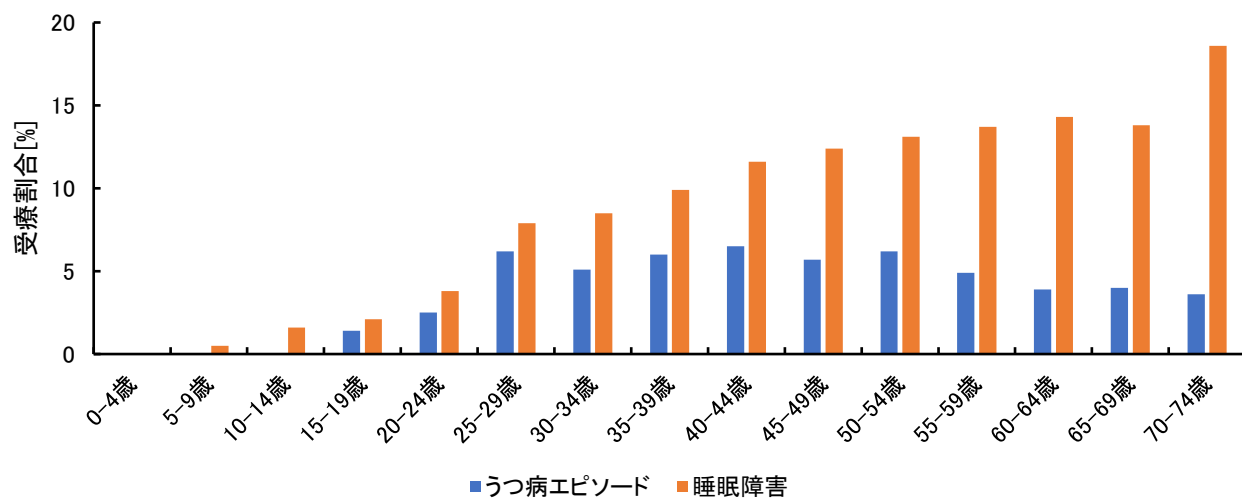


図 6-4 うつ病, 睡眠障害に対する入院外医療費の受療割合

5. 関節疾患に対する入院医療費

表 6-9 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-9 より, 膝関節症の入院医療費は 60-64 歳, 股関節症は 70-74 歳, 骨粗しょう症は 50-54 歳から発生していることがわかった。

表 6-10 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院受療割合を示した。表 6-10 より, 膝関節症の入院受療割合は, 60-64 歳で受療割合が大きく増加した。骨粗しょう症の入院受療割合は 35-39 歳から発生しているが, 大きく増加するのは 60-64 歳からであった。

表 6-9 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	1,256,150	1,154,750	447,145
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	513,940
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	0	7,752,770	0	1,009,870	682,340	750,770
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

表 6-10 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院医療費の受療割合

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0	0.4	0.3	0.6
股関節症	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.3
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0.2	0	0	0.2	0.1	0.6	0.4	0.9
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[%]

6. 関節疾患に対する入院外医療費

表 6-11 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-11 より, 膝関節症の入院外医療費は 25-29 歳, 股関節症の入院外医療費は 45-49 歳から発生し, 年齢とともに増加することがわかった。

表 6-12, 図 6-5 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外受療割合を示した。表 6-12, 図 6-5 より, 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症の入院外受療割合が 1%を超えるのは膝関節症は 40-44 歳, 股関節症は 60-64 歳, 骨粗しょう症は 45-49 歳であった。

表 6-11 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0	88,220	71,700	18,910
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	133,835	88,220	0	76,860
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	189,880	65,390	72,705	125,610	126,505	123,690	146,800
股関節症	0	129,195	51,770	137,785	83,310	142,150	151,365
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	153,295	150,880	120,620	138,900	139,760	143,670	160,750
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	193,215	267,330

表 6-12 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0.1	0.3	0.4	0.6
股関節症	0	0	0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0.3	0	0	0.4	0.5	0.1	0.6
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	1.1	2.2	3.3	4.2	6.4	8.3	11.6
股関節症	0.2	0.7	0.6	1.0	1.4	2.4	2.6
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.9	1.2	1.5	2.6	8.0	12.0	16.5
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0

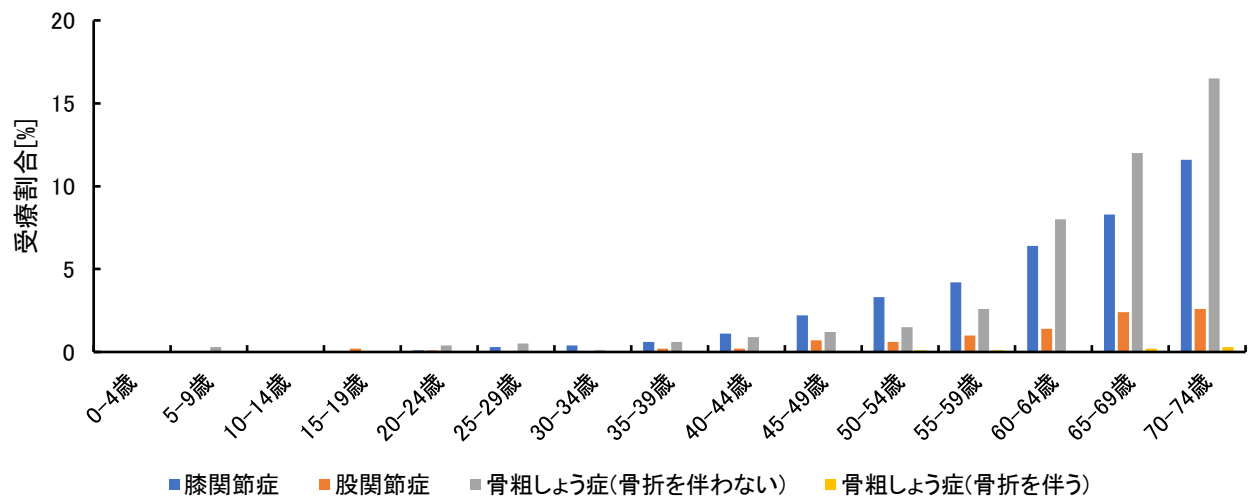


図 6-5 膝関節症，股関節症，骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

7. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費

表 6-13 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。

表 6-14 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院受療割合を示した。表 6-13 より, 急性上気道感染症は 25-29 歳から入院医療費が発生し 60-64 歳では 100 万円を超えていた。肺炎は 50-54 歳から 500 万円以上の入院医療費が発生し, 60-64 歳以降も約 120~270 万円の入院医療費が発生していた。表 6-14 より, 肺炎の入院受療割合は 60-64 歳から大きく増加していた。

表 6-13 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	0	0	0	0	0	0	0	204,435	1,627,000
急性上気道感染症	0	452,450	268,990	0	420,660	436,175	927,490	0	1,214,430	546,040	896,470
肺炎	0	0	0	0	0	0	5,284,920	0	2,776,960	1,296,180	2,670,160

表 6-14 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0.2	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0.2	0.2	0.1
急性上気道感染症	0	0.6	0.6	0.1	0.5	0.4	0.3	0.2	0.9	0.9	1.0
肺炎	0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.5	0.4

8. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費

表 6-15, 図 6-6 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-15, 図 6-6 より, 風邪, 肺炎の入院外医療費は 20-24 歳を最小とした U 字型の曲線であり, 乳幼児期と高齢期の入院外医療費が高い構造となっていることがわかった. 肺炎の入院外医療費は 35-39 歳で 13 万円, 55-59 歳で 15 万円を超え, 入院医療費も高いことから肺炎予防に取り組む重要性が示された.

表 6-16, 図 6-7 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外受療割合を示した. 図 6-7 より, 風邪と急性上気道感染症の受療割合の曲線はほぼ同じであることがわかった. 急性上気道感染症は乳幼児期の 0-4 歳で 66.0%, 5-10 歳で 59.3%, 10-14 歳で 39.8%であり, 非常に高い割合で受療していることが確認できた.

表 6-15 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	111,020	85,930	66,060	43,190	33,060	46,345	51,920	70,270
急性上気道感染症	78,460	43,400	35,940	37,820	31,515	39,900	39,370	50,230
肺炎	107,150	68,235	0	0	49,625	45,375	85,020	138,190

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	71,030	60,570	99,280	86,130	114,715	123,760	128,560
急性上気道感染症	52,830	61,890	63,010	80,390	84,270	112,350	124,240
肺炎	87,190	80,940	53,065	150,140	140,250	172,040	131,700

表 6-16 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	15.4	9.6	9.2	3.4	2.4	4.5	4.4	4.5
急性上気道感染症	66.0	59.3	39.8	27.4	20.8	21.5	22.4	18.7
肺炎	1.5	1.0	0.5	0.2	0.7	0.8	1.1	1.0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	3.5	3.4	2.4	3.1	4.2	4.0	4.8
急性上気道感染症	20.2	16.2	13.8	14.1	15.9	20.2	21.0
肺炎	0.7	0.5	0.5	1.1	1.0	1.4	1.6

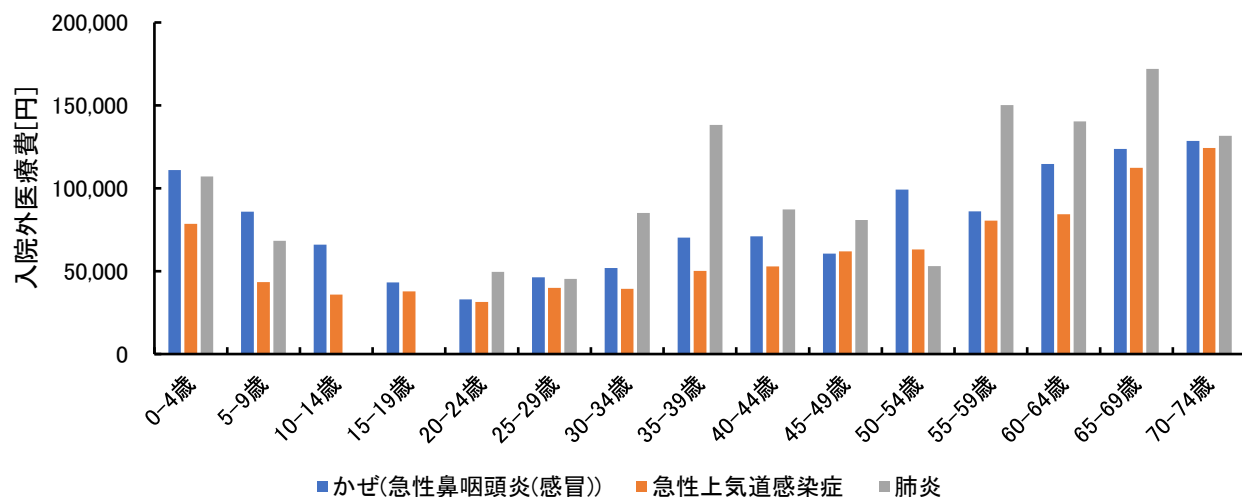


図 6-6 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値

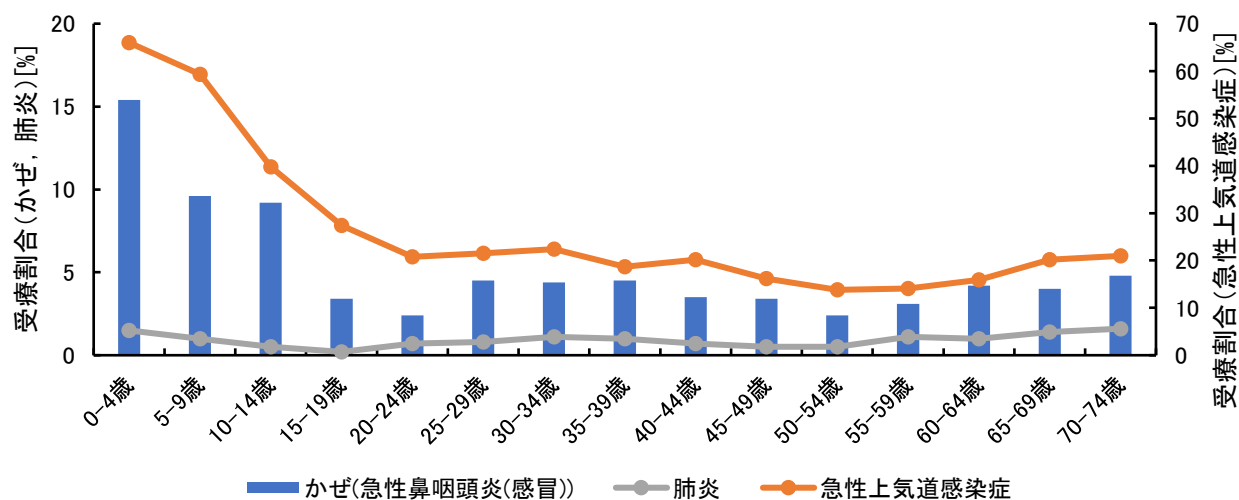


図 6-7 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

9. 新生物に対する入院・入院外医療費

表 6-17 に新生物に対する入院医療費、表 6-18 に新生物に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-18 より、入院外医療費は乳房の悪性新生物は 35-39 歳、女性生殖器の悪性新生物は 40-44 歳から発生しており、それ以外の悪性新生物は 50-54 から発生していた。

表 6-19 に新生物に対する入院受療割合、表 6-20 に新生物に対する入院外受療割合を示した。表 6-20 より、少数ではあるが入院外受療割合は女性生殖器の悪性新生物は 20-24 歳から発生していた。乳房の悪性新生物は 35-39 歳から増加し、45-49 歳で 1.5%を超えていた。胃がんは 55-59 歳、結腸の悪性新生物は 40-44 歳から発生していた。70-74 歳では、結腸の悪性新生物(2.0%)、乳房の悪性新生物(1.9%)の入院外受療割合が高い傾向にあった。

表 6-17 新生物に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,305,690
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,189,420	1,023,640
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	817,040
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,956,450
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	882,770	1,335,990
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	521,200	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,866,060
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	598,680

表 6-18 新生物に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

	単位[円]							
	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	128,240
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	81,400	349,230	142,820	161,930
結腸の悪性新生物	0	0	277,890	100,175	93,130	166,130	196,490
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	202,080	126,510	213,210
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	217,700	237,760	266,585
乳房の悪性新生物	179,705	106,450	198,490	137,425	84,790	154,355	168,795
女性生殖器の悪性新生物	114,210	165,640	77,500	266,440	110,915	234,040	278,150
骨髄性白血病	0	0	72,160	107,100	0	219,190	532,340
脾の悪性新生物	0	0	0	0	2,885,890	143,780	408,650
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	182,280	93,840	223,290

表 6-19 新生物に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0	0.1	0.1
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

表 6-20 新生物に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.1	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.2	0	0.6
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.0	0.1	0.2
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0.1
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0.3	0.8	0.7	1.4
結腸の悪性新生物	0.1	0.2	0.5	0.4	0.6	1.0	2.0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0.1	0	0.3	0.3	0.3
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0.1	0.2	0.8	0.9	1.3
乳房の悪性新生物	0.7	1.5	0.7	1.4	1.3	2.5	1.9
女性生殖器の悪性新生物	0.5	0.5	0.2	0.5	0.5	0.6	0.4
骨髄性白血病	0.1	0	0.2	0.3	0	0.2	0.1
脾の悪性新生物	0	0.1	0	0	0.3	0.3	0.4
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4

10. 注目する精神および行動の障害に対する入院・入院外医療費

表 6-21 に注目する精神および行動の障害に対する入院医療費、表 6-22 に注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-21 より、入院医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 25-29 歳から発生し、450 万円以上であることがわかった。表 6-22 よりと入院外医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 10-14 歳、気分障害は 15-19 歳、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 5-9 歳から発生していた。統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の入院外医療費は 40-44 歳で 10 万円を超え、70-74 歳の約 15 万円まで上昇していた。

表 6-23 に注目する精神および行動の障害に対する入院受療割合、表 6-24、図 6-8 に注目する精神および行動の障害に対する入院外受療割合を示した。表 6-24、図 6-8 より、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 40-44 歳で 5%を超えていた。神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 5-9 歳から発生し、年齢とともに増加し、25-29 歳では 8.9%を超えていたことがわかった。

表 6-21 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	517,145	0	4,396,175	2,366,410	1,800,265	4,806,440	799,310	2,913,910	2,415,635	3,315,600
気分[感情]障害	0	584,060	0	0	2,366,410	1,974,970	4,806,440	842,895	1,230,920	814,240	2,029,500
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	450,230	111,930	4,316,740	2,512,080	619,870	644,270	190,690	1,603,940	1,296,180	1,354,145
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	8,491,960	0	0	0	0	0	0	0

表 6-22 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	21,365
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	22,655	48,390	65,590	103,970	68,405	80,260
気分[感情]障害	0	0	0	79,035	53,490	62,120	65,110	66,235
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	89,300	28,460	85,505	45,640	60,770	60,710	66,865
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	36,090	0	44,465

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	100,860	60,070	82,915	43,430	369,375	85,880
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	114,750	113,710	86,030	107,790	128,150	130,235	156,970
気分[感情]障害	119,750	87,820	81,540	137,260	137,140	140,950	151,980
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	109,710	68,990	90,790	94,150	111,040	128,760	147,380
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	233,660	0	141,500	0	0	215,030	168,470

表 6-23 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0.4	0.1	0.5	1.1	0.7	0.6	0.9	0.8	0.5	0.6
気分[感情]障害	0	0.3	0.1	0.2	1.1	0.6	0.6	0.6	0.8	0.5	0.5
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.4	0.8	0.6	0.5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0

表 6-24 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.3	0	0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.5
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0.3	1.1	1.1	0.8	3.3	3.8	4.8
気分[感情]障害	0	0	0	1.8	2.8	7.5	6.9	7.6
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	2.1	4.0	3.7	4.4	8.9	9.4	8.5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0.2	0.2	0.7	0.3	0.5

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.1	1.3	0.4	0.4	0.4	0.2	0.3
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	5.6	6.4	5.9	5.0	3.1	2.2	2.3
気分[感情]障害	8.7	7.8	7.4	6.4	4.5	4.7	4.1
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	8.7	9.0	9.6	10.4	8.0	8.3	9.2
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2

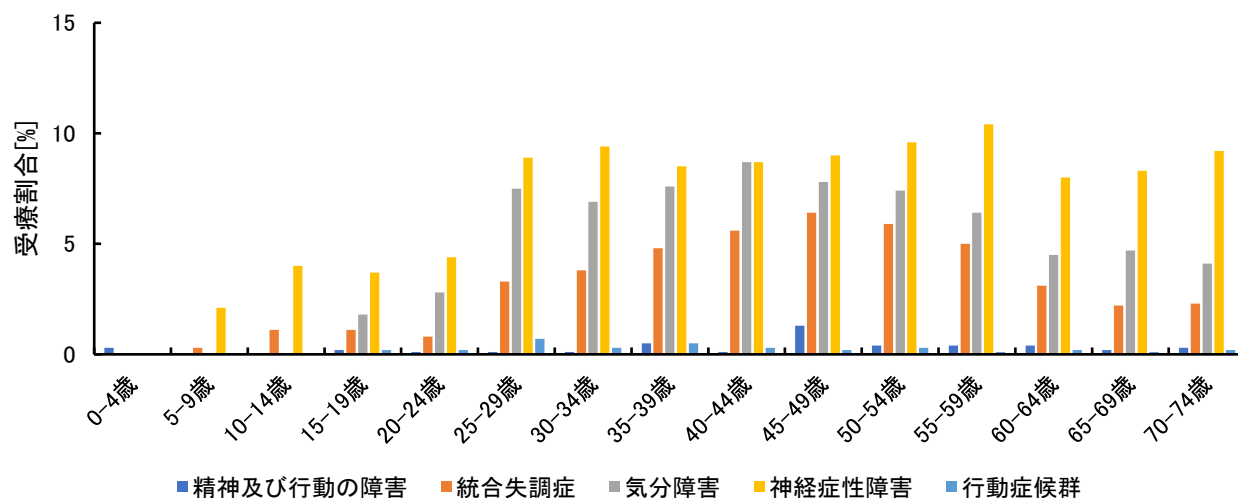


図 6-8 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の受療割合

11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費

表 6-25 に COVID-19 に対する入院医療費、表 6-26 に COVID-19 に対する入院外医療費の中央値を示した。表 6-25 より、入院医療費は 45-49 歳、65-69 歳、70-74 歳で発生していた。表 6-26 より、入院外医療費はすべての年代で発生していた。

表 6-27 に COVID-19 に対する入院受療人数、表 6-28 に COVID-19 に対する入院外受療人数を示した。表 6-28 より、入院外受療割合は 5-9 歳、20-24 歳、25-29 歳、30-34 歳で 3.7%を超え、若年層の受療割合が高いことがわかった。

表 6-25 COVID-19 に対する入院医療費の中央値

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0	0	0	859,350	0	0	0	581,770	1,627,000

表 6-26 COVID-19 に対する入院外医療費の中央値

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	88,540	51,030	53,600	40,310	33,660	42,430	47,175	56,170

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	91,275	60,000	38,000	26,980	79,950	90,025	107,520

表 6-27 COVID-19 に対する入院医療費の受療人数

単位[人]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0.3	0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1

表 6-28 COVID-19 に対する入院外医療費の受療人数

単位[人]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	2.1	5.2	1.8	2.5	3.7	4.8	4.0	2.8

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	1.8	2.8	1.7	0.9	0.9	0.5	0.8

第7章 特定健康診査の受診の状況

1. 特定健診の受診状況

40～74歳の市民を対象に特定健康診査（以下、特定健診）を実施している。令和3年度の受診件数は4314件であった。

2. 保健指導レベルの状況

図7-1に令和3年度の保健指導レベル判定結果の割合を性別に示した。なしは男性は80.2%、女性は92.5%、動機付け支援は男性は12.7%、女性は6.3%、積極的支援は男性は7.1%、女性は1.2%であった。

図7-2に男性、図7-3に女性の令和3年度の保健指導レベル判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性のなしは65.3～87.0%、女性は86.7～94.7%で男女ともに年齢に伴い増加していた。男性の40～49歳、50～59歳の働き世代の積極的支援は22.7～24.0%であった。

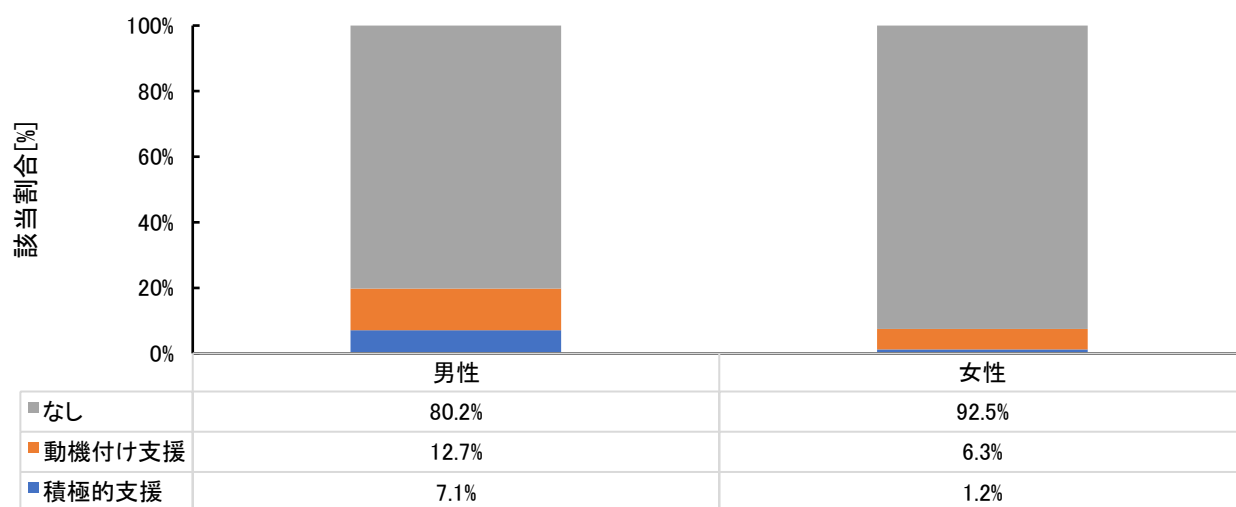


図 7-1 保健指導レベル判定結果

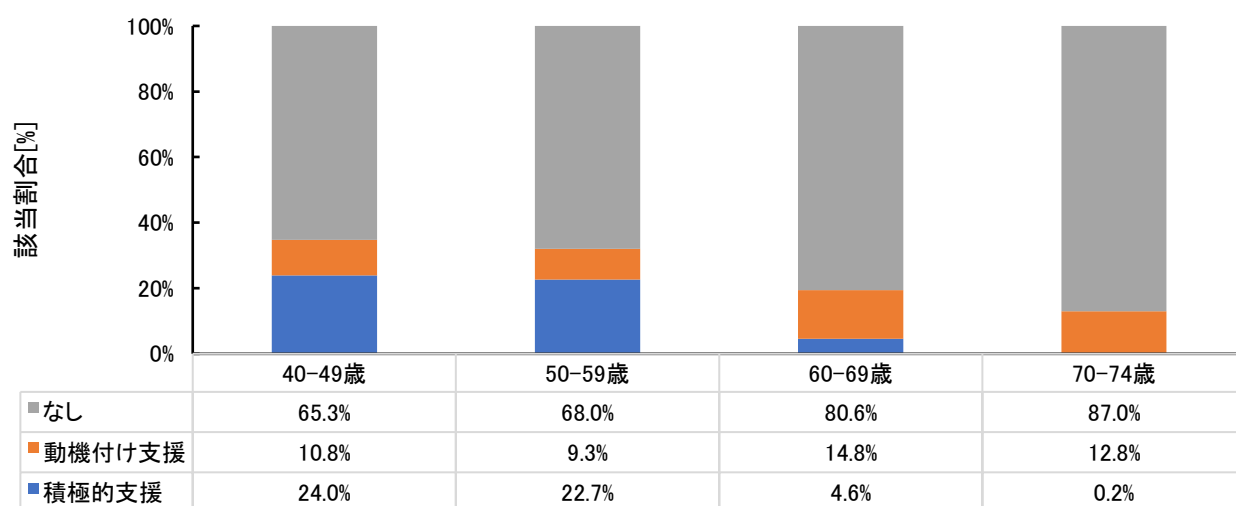


図 7-2 男性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

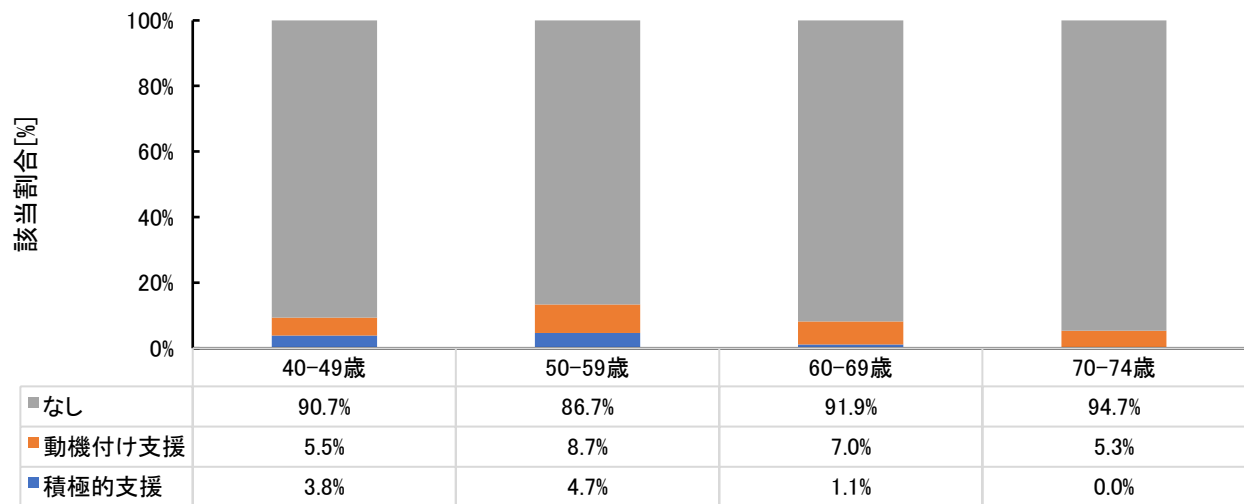


図 7-3 女性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

3. メタボリックシンドローム（以下、メタボ）の状況

表 7-1 に令和 3 年度のメタボ判定結果を示した。全体では 34.2%がメタボに該当し、男性は 56.9%, 女性は 18.1%であった。年齢階級別では男性は 53.3～60.0%, 女性は 13.7～20.3%が該当しており、男性は女性に比べて該当率が高いことがわかった。

表 7-1 メタボ判定結果

	メタボ該当率
全体	34.2(1474人)
男性	56.9(1017人)
女性	18.1(457人)
40-49歳	53.3(89人)
50-59歳	54.6(147人)
60-69歳	60.0(312人)
70-74歳	56.5(469人)
40-49歳	13.7(25人)
50-59歳	20.0(60人)
60-69歳	20.3(165人)
70-74歳	16.8(207人)

3.1. メタボと HbA1c の関係

メタボ判定と HbA1c 判定の関係を表 7-2 に示した。メタボ該当はメタボ非該当と比べ要経過観察, 要医療の割合（要経過観察のメタボ該当 21.9%, 非該当 11.6%, 要医療メタボ該当 19.6%, 非該当 6.7%）が高いことがわかった。メタボ群と非メタボ群のアプローチをそれぞれ検討し、改善方法を実施することが求められる。

表 7-2 メタボ判定結果と HbA1c の関係

		HbA1c判定			
		異常なし	軽度異常	要経過観察	要医療
メタボ判定	非該当	50.7%	37.7%	11.6%	6.7%
	該当	40.4%	37.7%	21.9%	19.6%

4. 測定項目の状況

4.1. 身長状況

図 7-4 に身長の度数分布を性別に示した。男性は 170～174cm にピーク、女性は 155～159cm、160～164cm にピークがある分布であった。図 7-5 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの身長の変化を性別に示した。身長の変化には加齢に伴う変化に加え、骨粗鬆症の影響が挙げられる。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果、男性は 36.1%、女性は 39.9%が 0～0.4cm の低下があることがわかった。1cm 以上低下した割合は男性は 10.2%、女性は 7.4%であった。

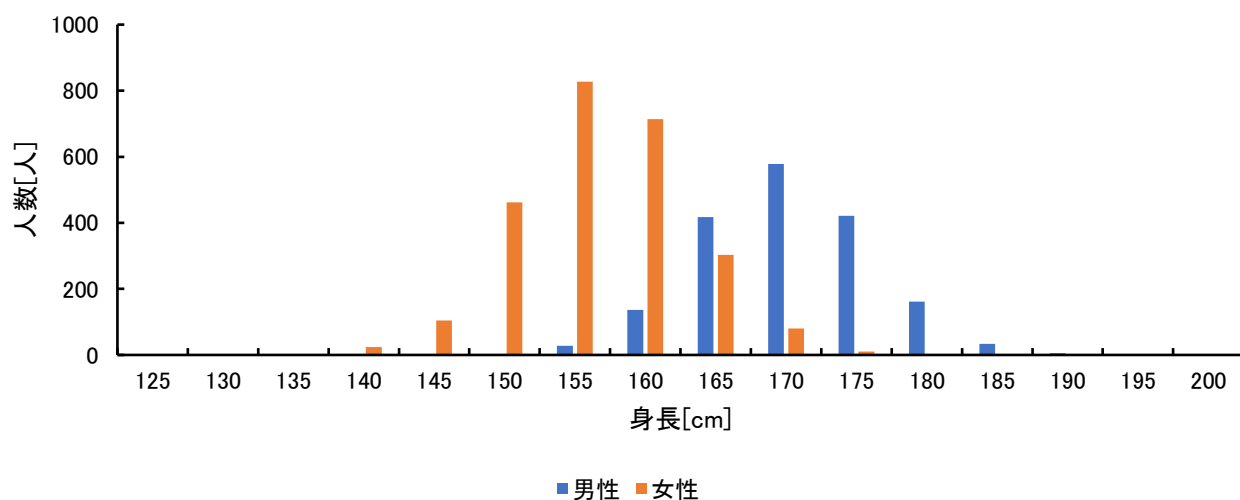


図 7-4 身長の度数分布

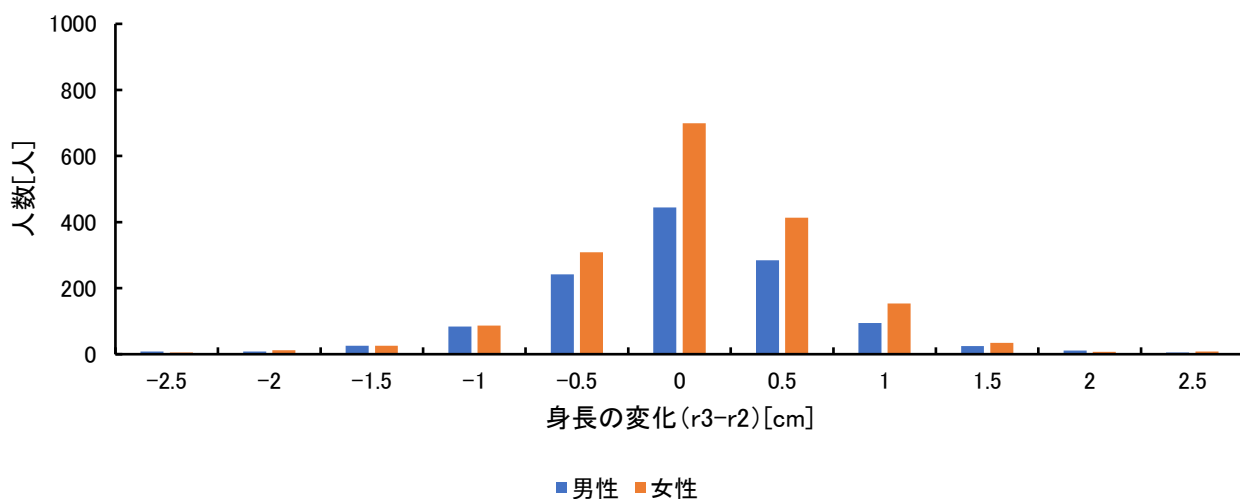


図 7-5 身長の変化

4.2. 体重の状況

図 7-6 に体重の度数分布を性別に示した。男性は 65～69kg, 70～74kg にピーク, 女性は 50～54kg, 55～59kg にピークがある分布であった。図 7-7 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの体重の変化を性別に示した。体重の減少にはフレイルやサルコペニアの指標も含まれる。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, 1kg までの減少がみられたのは男性で 38.4%, 女性で 43.2%, 1kg までの増加は男性で 20.1%, 女性で 22.8%であった。体重の変化が ± 2 kg の範囲に男性は 70.4%, 女性は 77.1%, ± 1 kg の範囲に男性は 41.9%, 女性は 48.4%が該当していることがわかった。

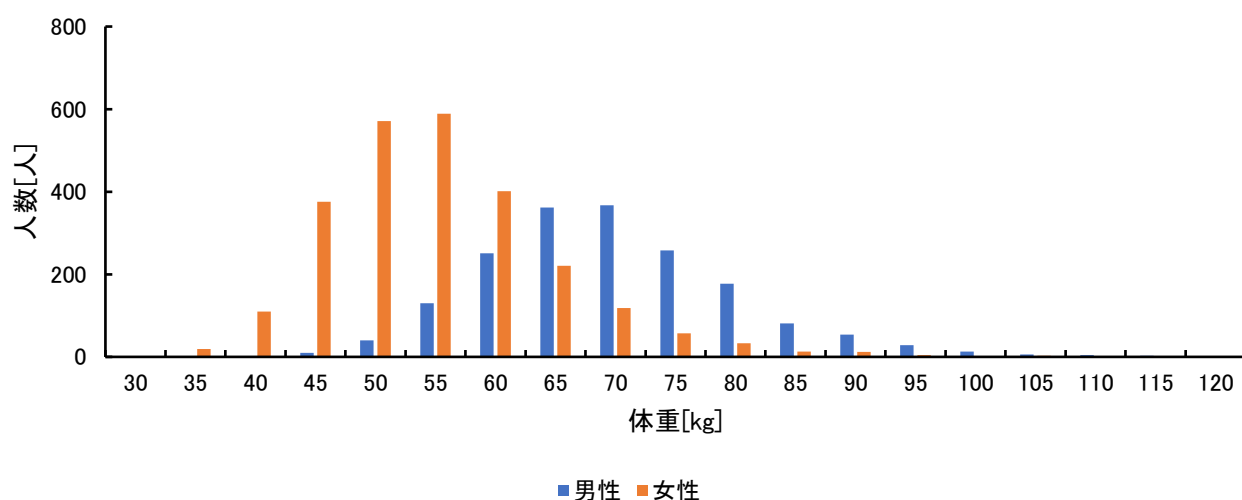


図 7-6 体重の度数分布

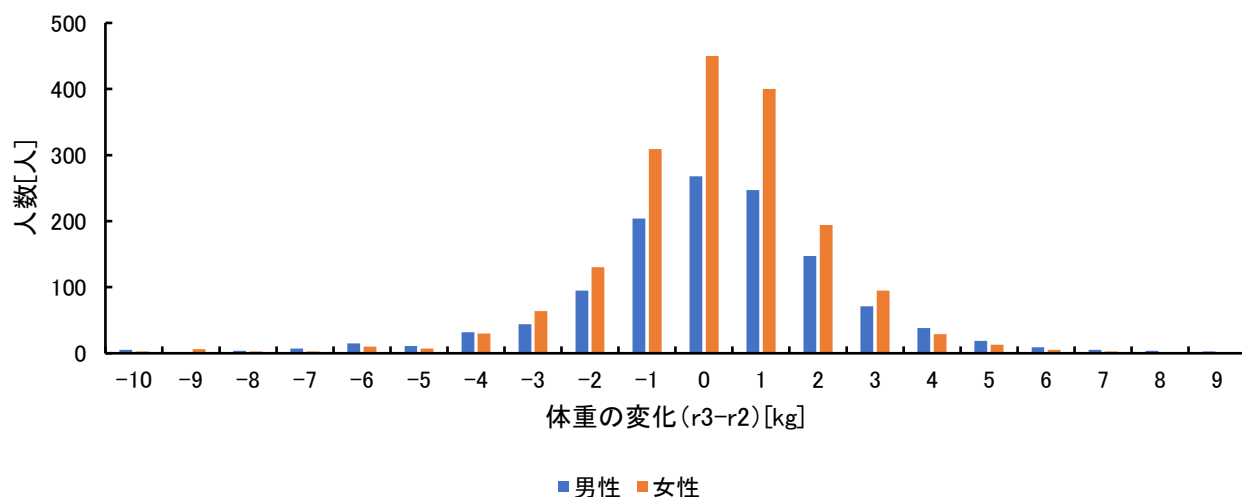


図 7-7 体重の変化

4.3. BMI の状況

BMI の判定は異常なし(18.5~24.9), 要経過観察(18.5 未満), 要経過観察(25 以上)と定義した。

図 7-8 に BMI の度数分布を性別に示した。男性は 24~25 にピーク, 女性は 20~21, 22~23 にピークがある分布であった。BMI は体重と同じくフレイルやサルコペニアの指標であり, 高齢期は BMI が 20 以上がよいと考える。図 7-9 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの BMI の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, 1 以上の減少がみられたのは男女ともに 10.5%, 2 以上の減少は男性は 2.8%, 女性は 2.4%であった。1 以上の増加がみられたのは男性は 7.7%, 女性は 7.3%, 2 以上の増加は男性は 1.5%, 女性は 1.0%であった。

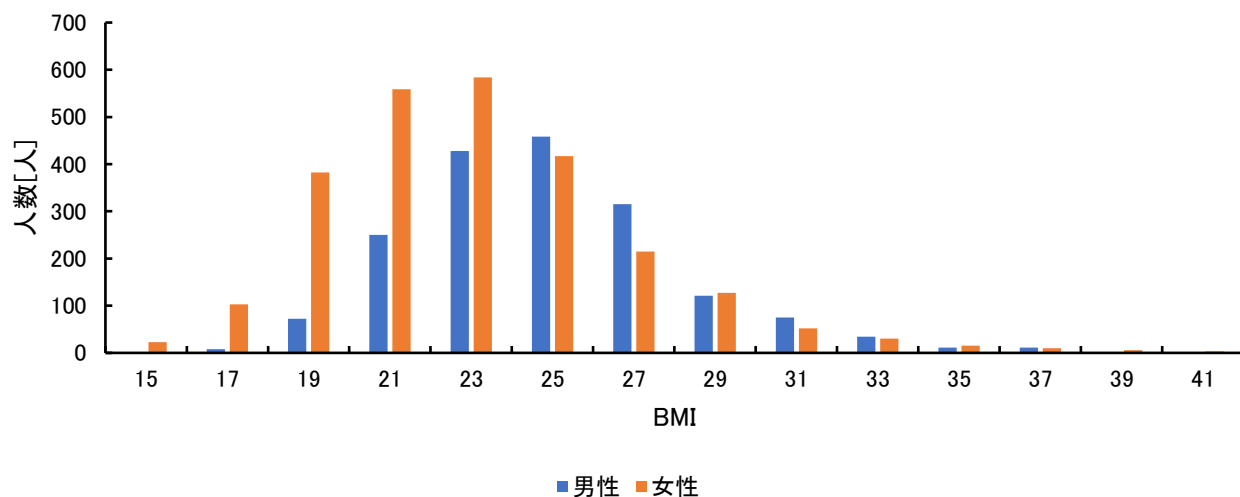


図 7-8 BMI の度数分布

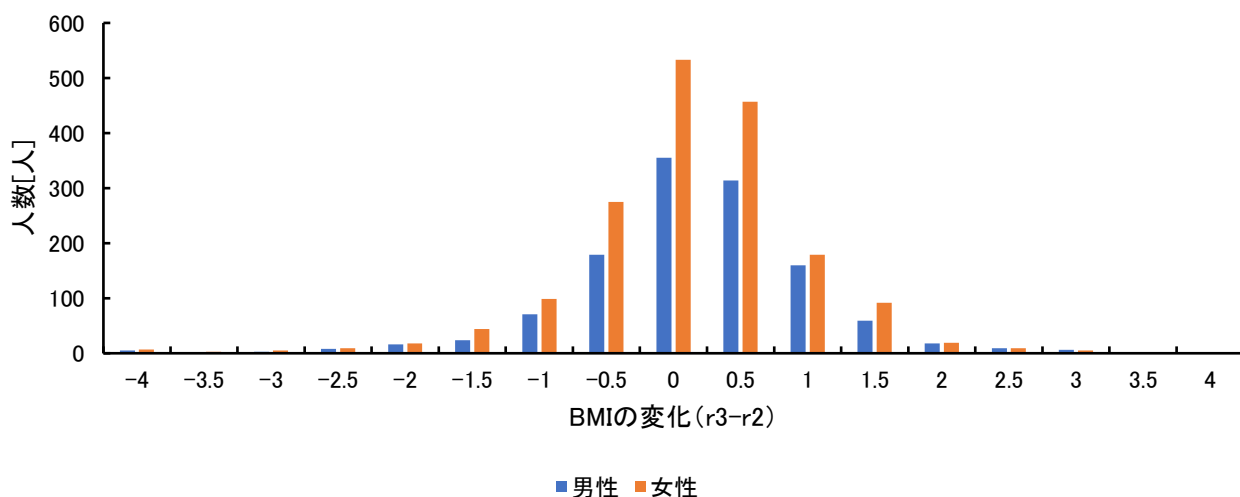


図 7-9 BMI の変化

令和3年度 BMI 判定と HbA1c 判定の関係を図 7-10 に全体, 男性を 7-11, 女性を 7-12 に示した。BMI が要経過観察(18.5 未満)で HbA1c が要医療(6.5%以上)と判定されたのは全体で 3.2%, 男性で 11.3%, 女性で 2.0%であった。HbA1c 要経過観察(6.0-6.4%), 要医療には, BMI 要経過観察(18.5 未満)は全体で 11.4%(男性 15.1%, 女性 10.9%), 18.5-25 未満で 18.7%(男性 22.6%, 女性 16.1%), 要経過観察(25 以上)で 38.9%(男性 41.3%, 女性 36.1%)であり, BMI の増加に伴い増加し, 男女ともに要経過観察(25 以上)に HbA1c 高値の割合が多い傾向にあることがわかった。

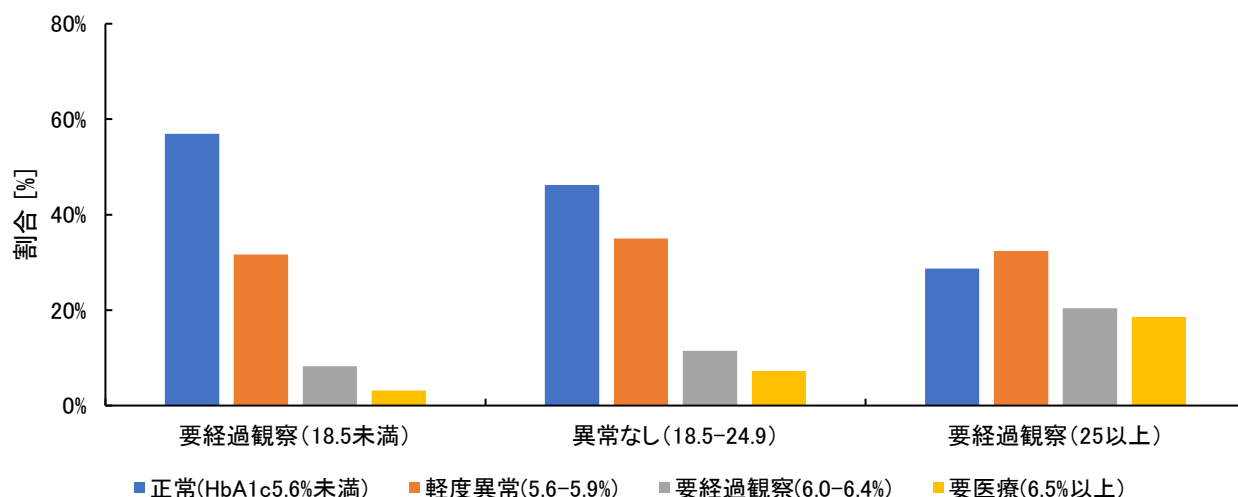


図 7-10 BMI 判定と HbA1c の関係

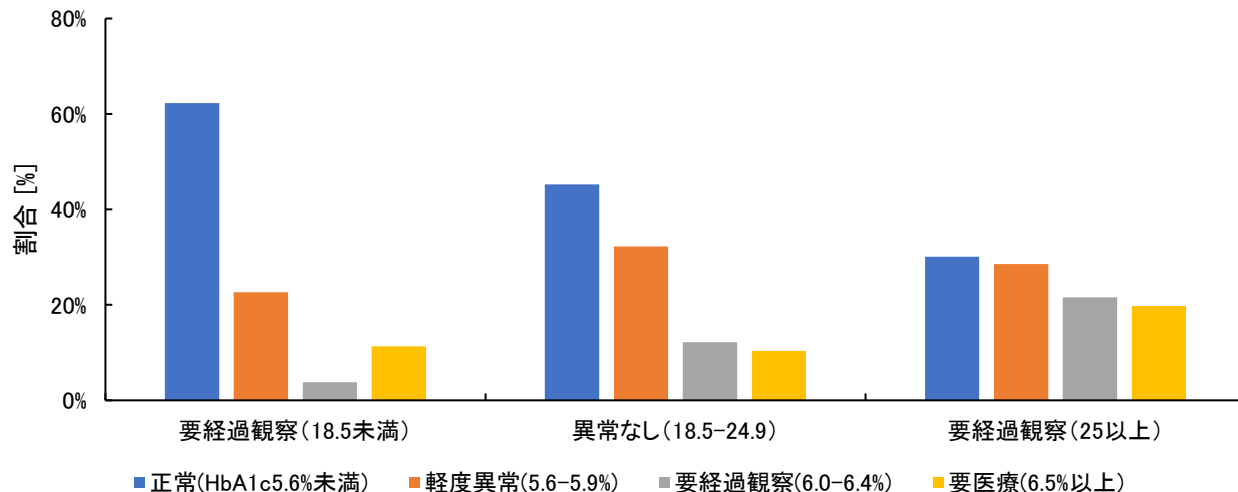


図 7-11 男性の BMI 判定と HbA1c の関係

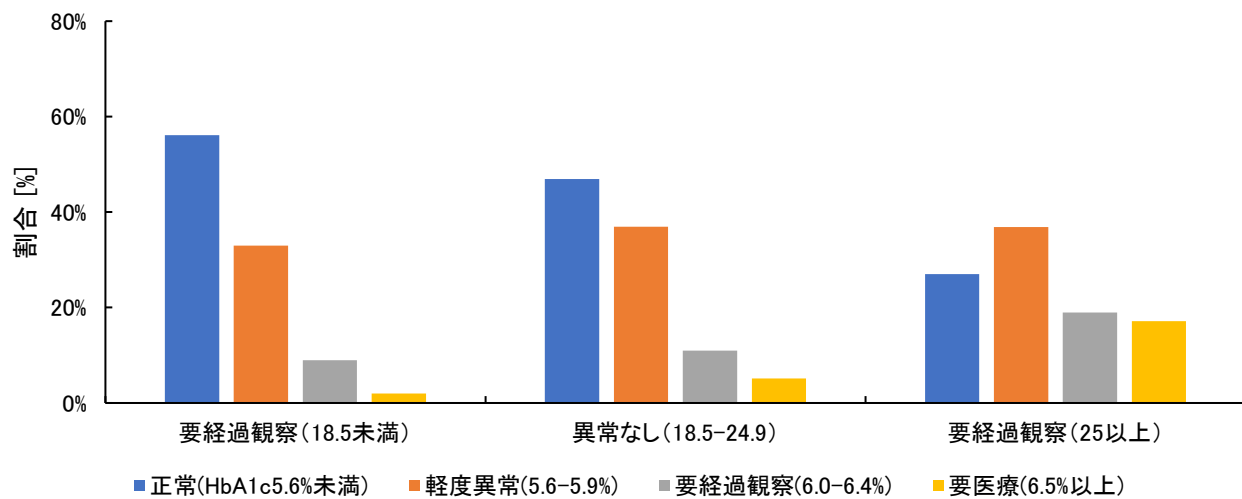


図 7-12 女性の BMI 判定と HbA1c の関係

4.4. 血圧の状況

血圧の判定は異常なし(収縮期血圧<130mmHg かつ拡張期血圧<85), 軽度異常(収縮期血圧 130-139mmHg または拡張期血圧 85-89mmHg), 要経過観察(収縮期血圧 140-159mmHg または拡張期血圧 90-99mmHg), 要医療(収縮期血圧 $\geq$ 160mmHg または拡張期血圧 $\geq$ 100mmHg)と定義した。

図 7-13 に収縮期血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 130~139mmHg, 140~149mmHg にピークがある分布であった。図 7-14 に拡張期血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 80~89mmHg にピークがある分布であった。心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧が 180mmHg 以上に該当したのは男性は 1.0%(18 名), 女性は 1.1%(27 名), 拡張期血圧が 110mmHg 以上に該当したのは男性は 0.6%(10 名), 女性は 0.6%(15 名)であった。

図 7-15 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの収縮期血圧の変化, 図 7-16 に拡張期血圧の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, 収縮期血圧が 10mmHg 以上低下したのは男性は 28.7%, 女性は 25.7%, 20mmHg 以上低下したのは男性は 9.8%, 女性は 9.1%であった。収縮期血圧が 20mmHg 以上増加したのは男性は 3.6%, 女性は 5.5%であった。

図 7-17 に男性, 図 7-18 に女性の令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの収縮期血圧の変化を散布図に示した。心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧 180mmHg のラインに引いている。男性は令和 3 年度に収縮期血圧が 180mmHg 以上の該当者全員が令和 2 年度から収縮期血圧が増加していた。

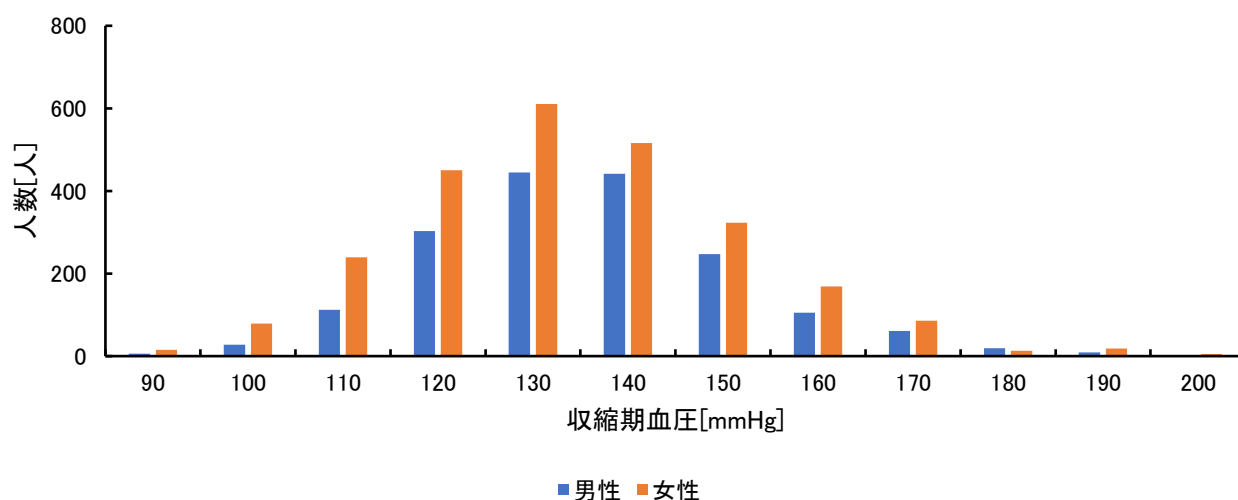


図 7-13 収縮期血圧の度数分布

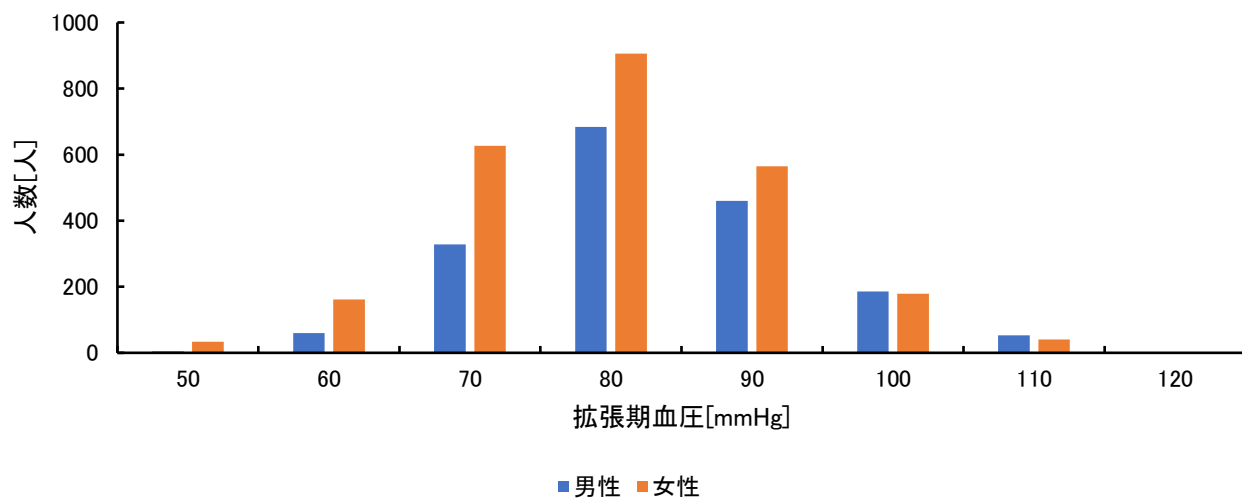


図 7-14 拡張期血圧の度数分布

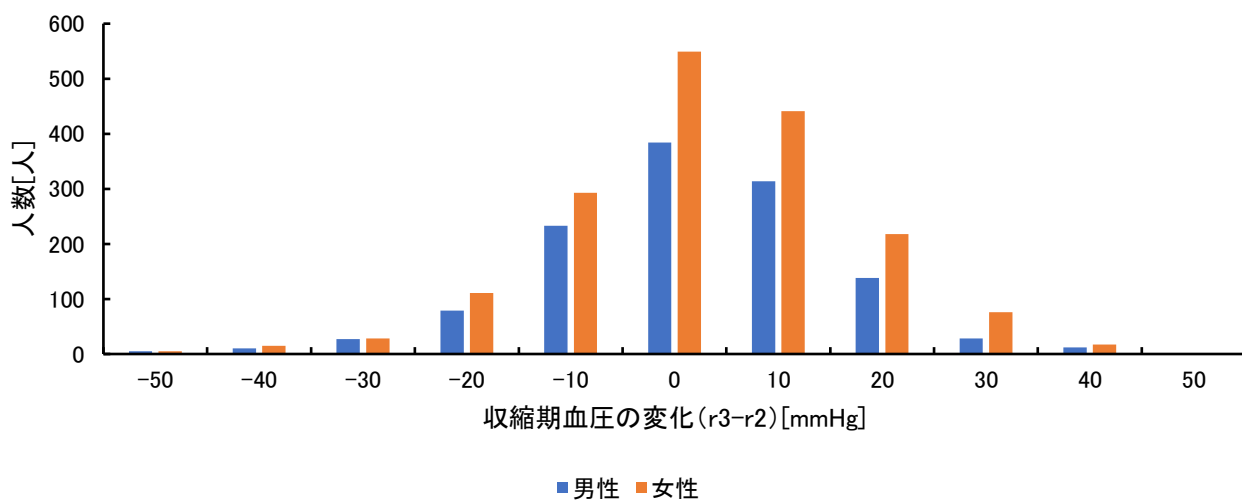


図 7-15 収縮期血圧の変化

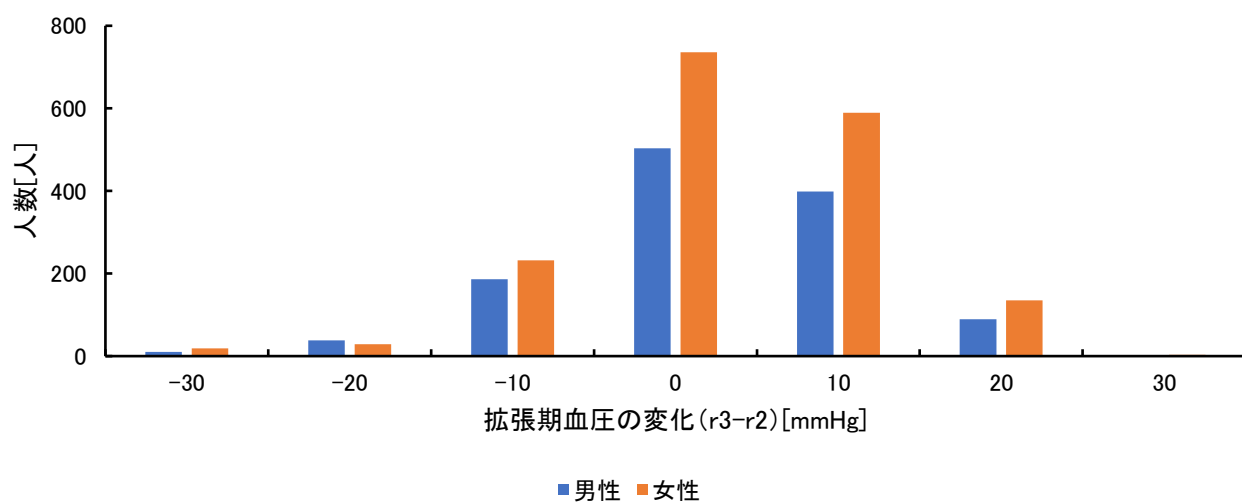


図 7-16 拡張期血圧の変化

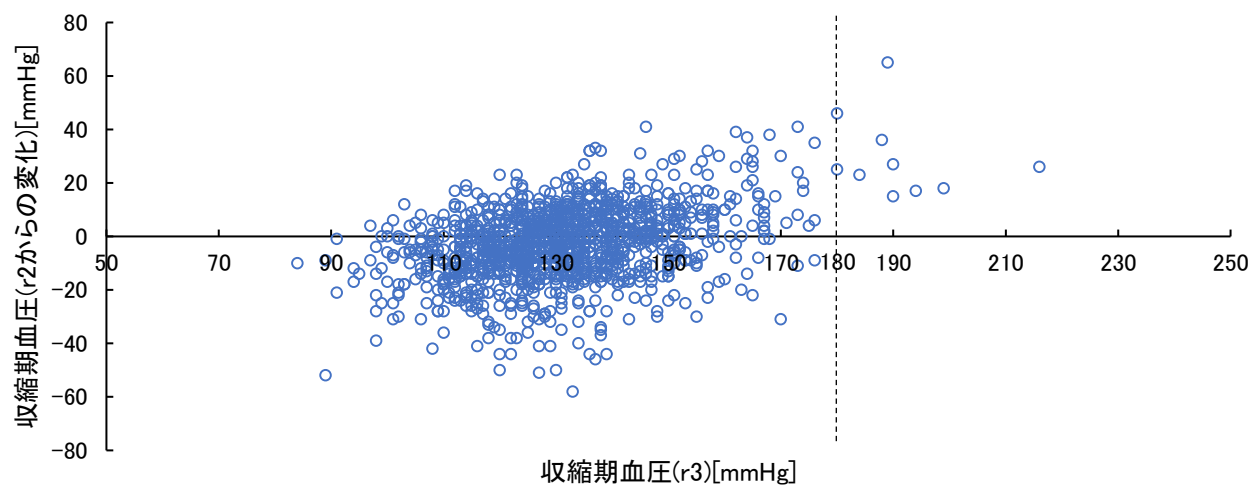


図 7-17 男性の収縮期血圧の変化

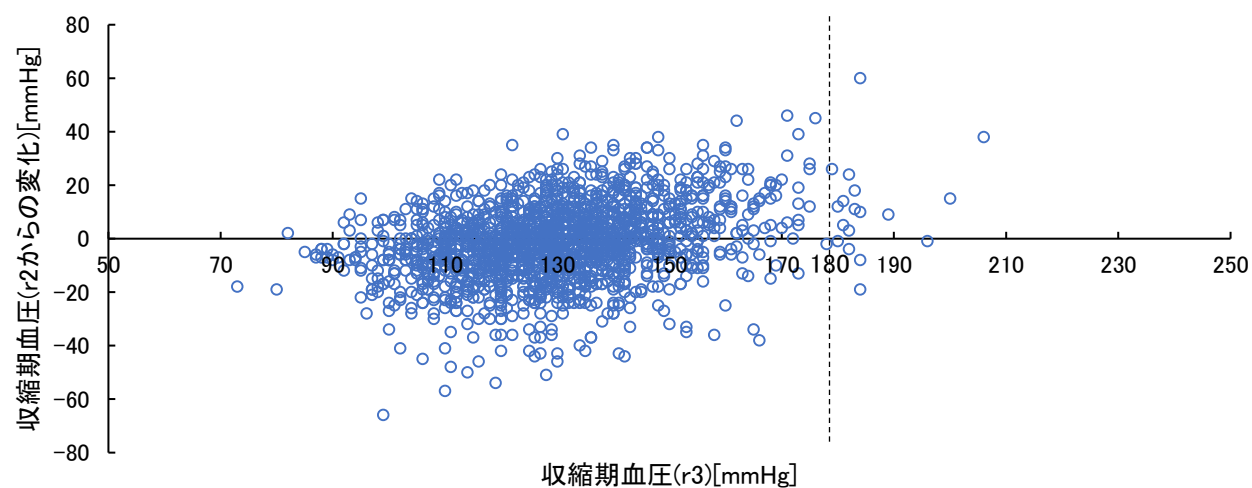


図 7-18 女性の収縮期血圧の変化

図 7-19 に令和 3 年度の血圧判定結果の割合を性別に示した。異常なしは男性は 42.9%，女性は 49.1%，要経過観察は男性は 19.8%，女性は 20.4%であった。

図 7-20 に男性，図 7-21 に女性の令和 3 年度の血圧判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに 50-59 歳から要経過観察の割合が増加していた。そして，男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が減少し，軽度異常，要経過観察の割合の増加が確認できた。40-49 歳では男性は 3.0%，女性は 1.6%，50-59 歳では男性は 6.3%，女性は 3.0%，60-69 歳では男性は 10.6%，女性は 6.5%，70-74 歳では男性は 8.1%，女性は 7.8%が要医療に該当していた。

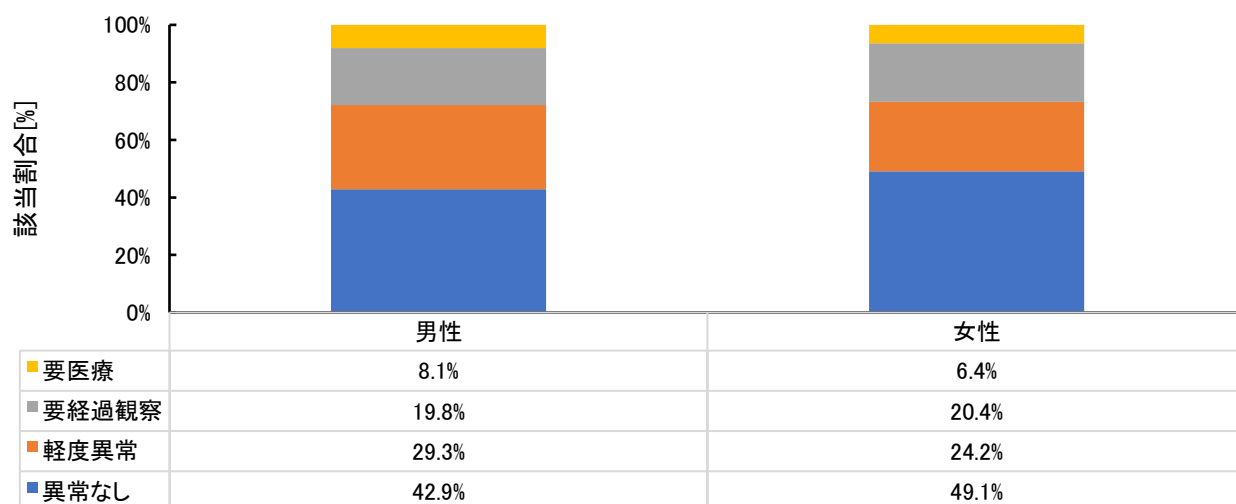


図 7-19 血圧判定結果の割合

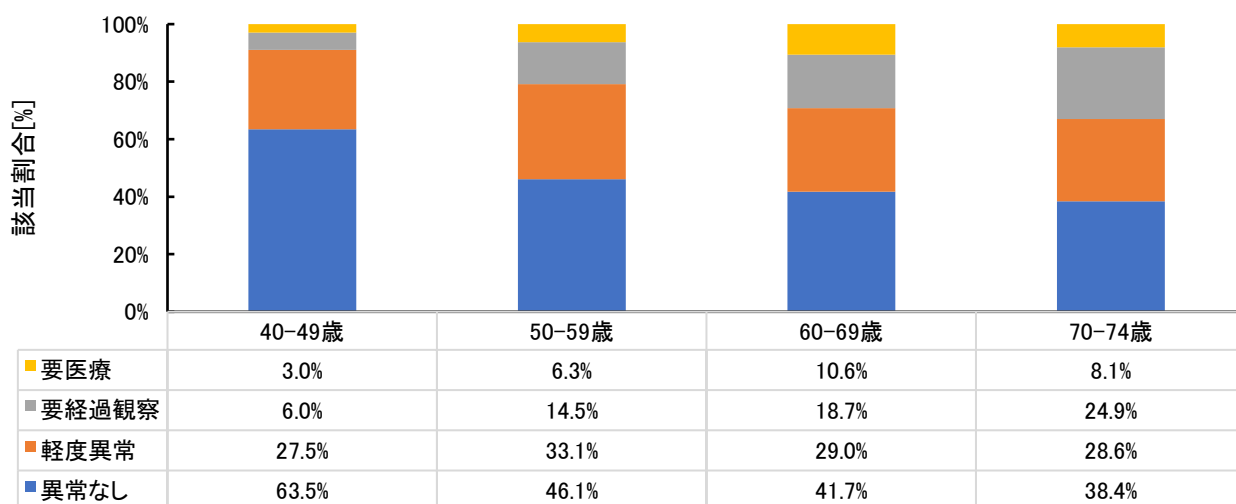


図 7-20 年齢階級別の血圧判定結果の割合(男性)

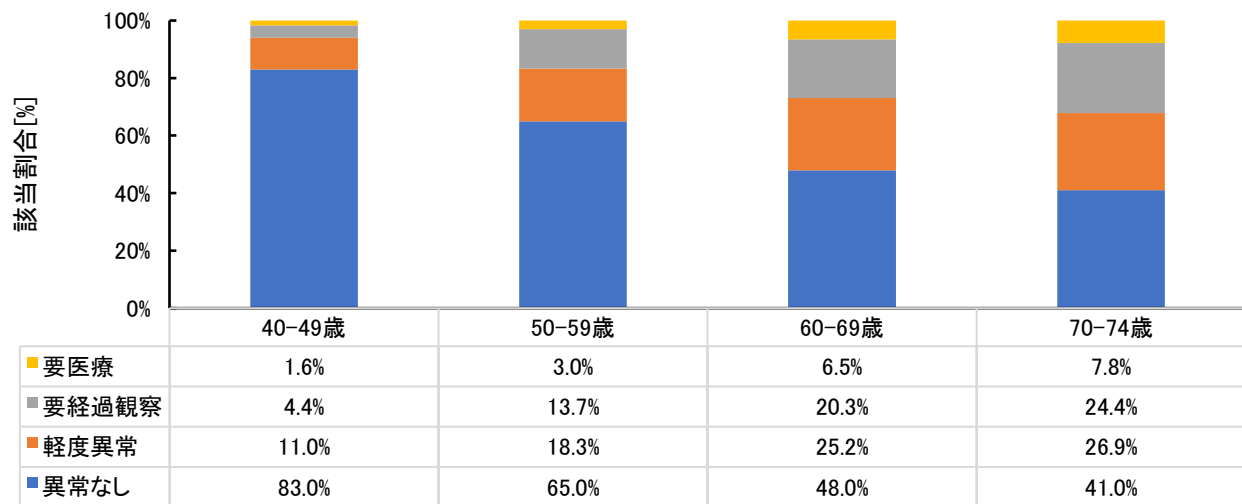


図 7-21 年齢階級別の血圧判定結果の割合(女性)

4.5. 腹囲の状況

図 7-22 に腹囲の度数分布を性別に示した。男性は 85～89cm, 90～94cm にピーク, 女性は 80～84cm, 85～89cm にピークがある分布であった。メタボリックシンドロームの基準値である男性 85cm, 女性 90cm 以上は男性は 56.9%(1,017 人), 女性は 18.1%(457 人)であった。

図 7-23 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの腹囲の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, 腹囲が 6cm 以上増加したのは男性は 4.8%, 女性は 12.5%, 10cm 以上増加したのは男性は 1.0%, 女性は 3.4%であった。腹囲が 6cm 以上減少したのは男性は 5.8%, 女性は 10.7%, 10cm 以上減少したのは男性は 1.1%, 女性は 2.6%であった。

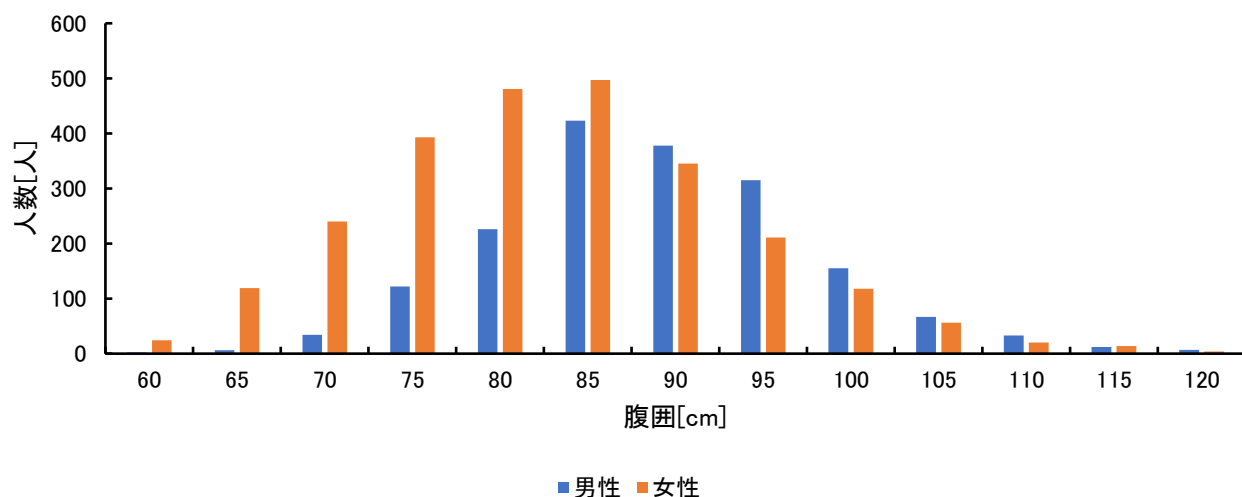


図 7-22 腹囲の度数分布

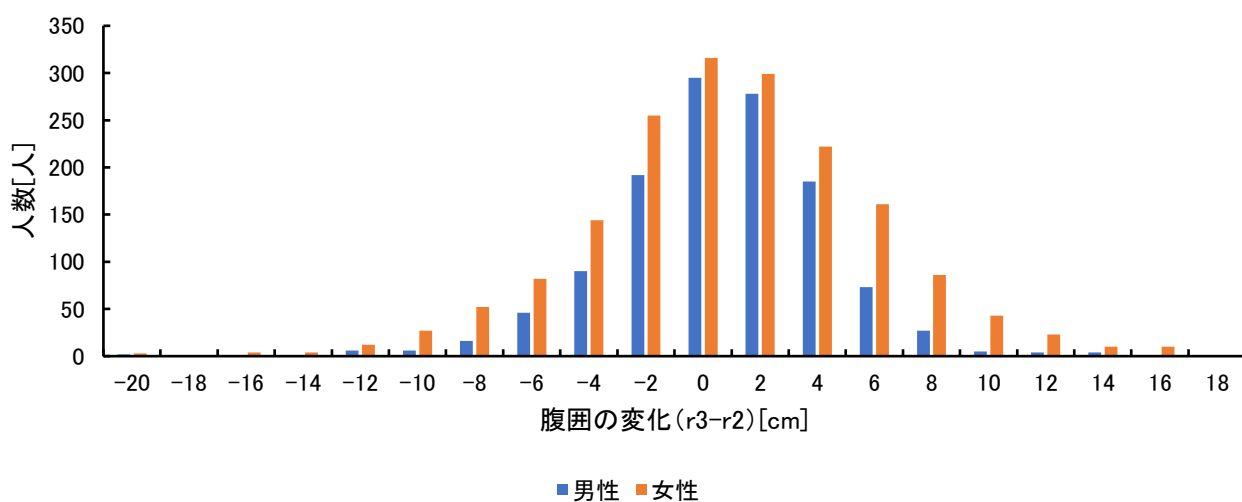


図 7-23 腹囲の変化

4.6. HbA1c の状況

HbA1c の判定は異常なし(5.6%未満), 軽度異常(5.6~5.9%), 要経過観察(6.0~6.4%), 要医療(6.5%以上)と定義した。

図 7-24 に HbA1c の度数分布を性別に示した。男女ともに 5.5~5.4%, 6.0~6.4%にピークがある分布であり, 4.5~12%までの幅広い分布であった。糖尿病の基準値である 6.5%以上は男性は 13.5%(240 人), 女性は 7.1%(177 人)であった。そして, 合併症リスクが高まる 8.0%以上は男性は 3.0%(53 人), 女性は 1.0%(26 人)であった。

図 7-25 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの HbA1c の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, HbA1c が 0.2%以上減少したのは男性は 17.5%, 女性は 15.0%, 0.2%より増加したのは男性は 12.3%, 女性は 9.8%であった。

図 7-26 に男性, 図 7-27 に女性の令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの HbA1c の変化を散布図に示した。縦の破線は HbA1c 判定の異常群の HbA1c6.5%のラインに引いている。令和 3 年度に 8.0%以上の該当者は令和 2 年度から増加傾向にあることがわかった。

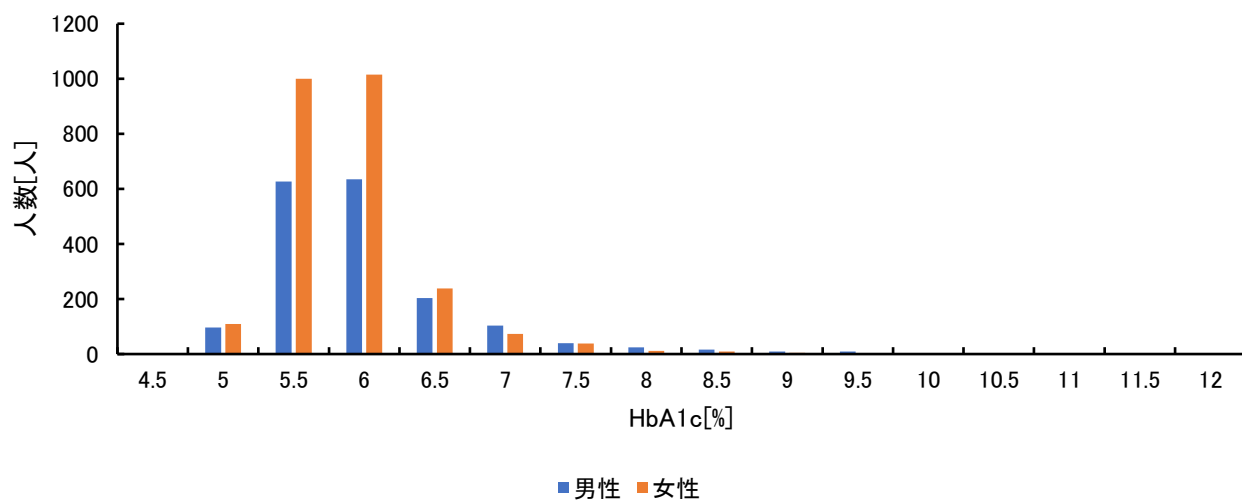


図 7-24 HbA1c の度数分布

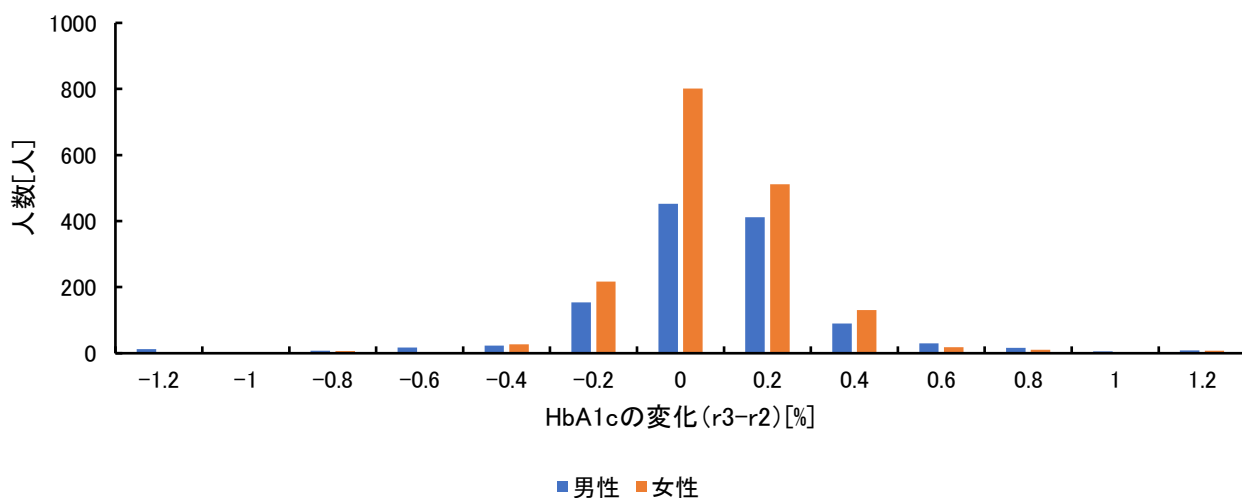


図 7-25 HbA1c の変化

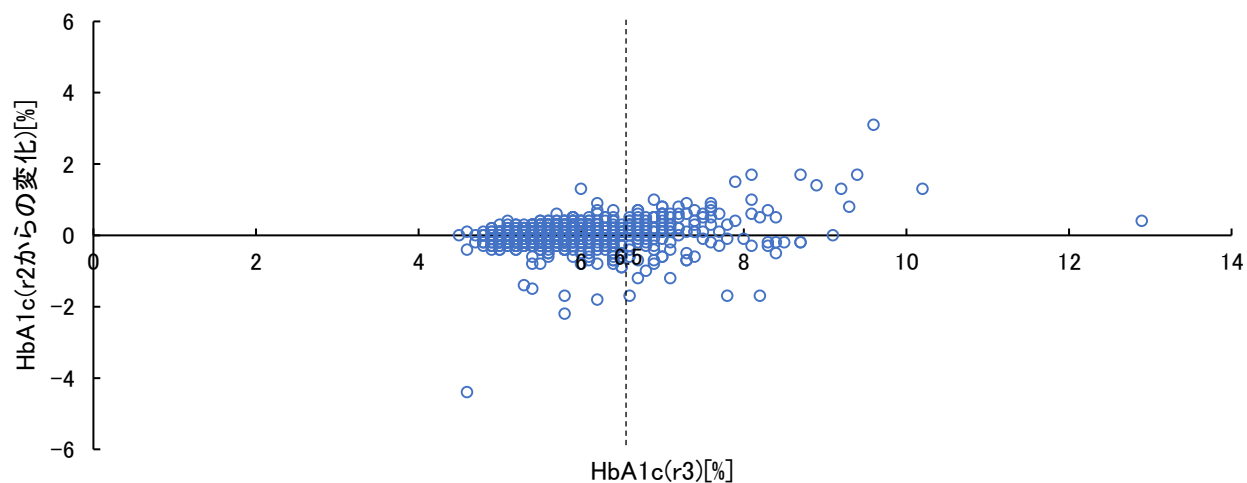


図 7-26 男性の HbA1c の変化

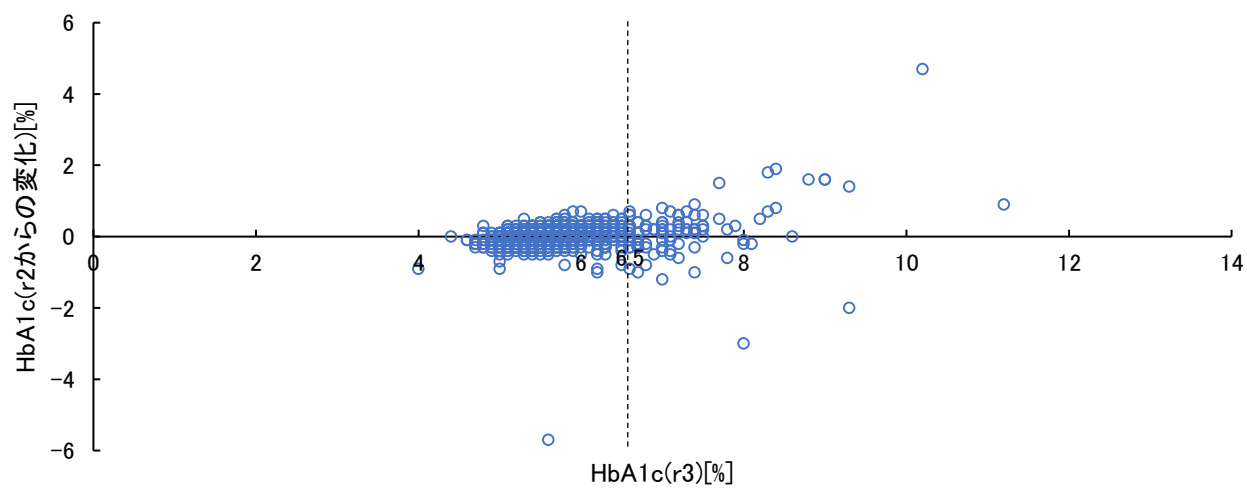


図 7-27 女性の HbA1c の変化

図 7-28 に令和 3 年度の HbA1c 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 40.7%, 軽度異常は 30.7%, 要経過観察は 15.1%, 要医療は 13.5%であった。女性の異常なしは 44.3%, 軽度異常は 36.4%, 要経過観察は 12.3%, 要医療は 7.1%であった。

図 7-29 に男性, 図 7-30 に女性の令和 3 年度の HbA1c 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに異常なしの割合は年齢とともに減少し, 軽度異常, 要経過観察, 要医療の割合が増加していた。60-69 歳, 70-74 歳では男性は 29.4~33.3%, 女性は 18.6~24.2%が要経過観察, 要医療に該当していることがわかった。

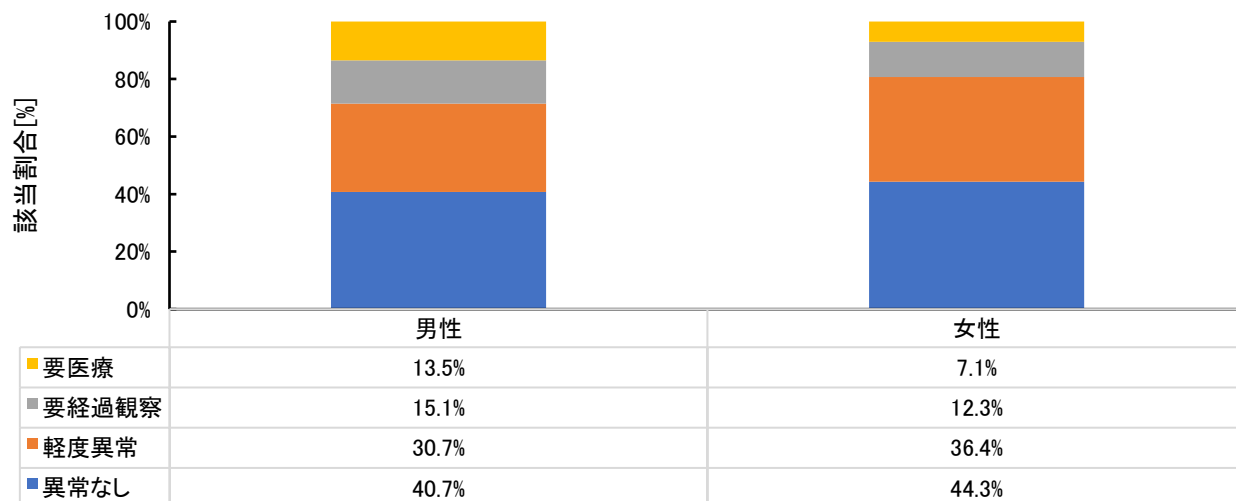


図 7-28 HbA1c 判定の結果

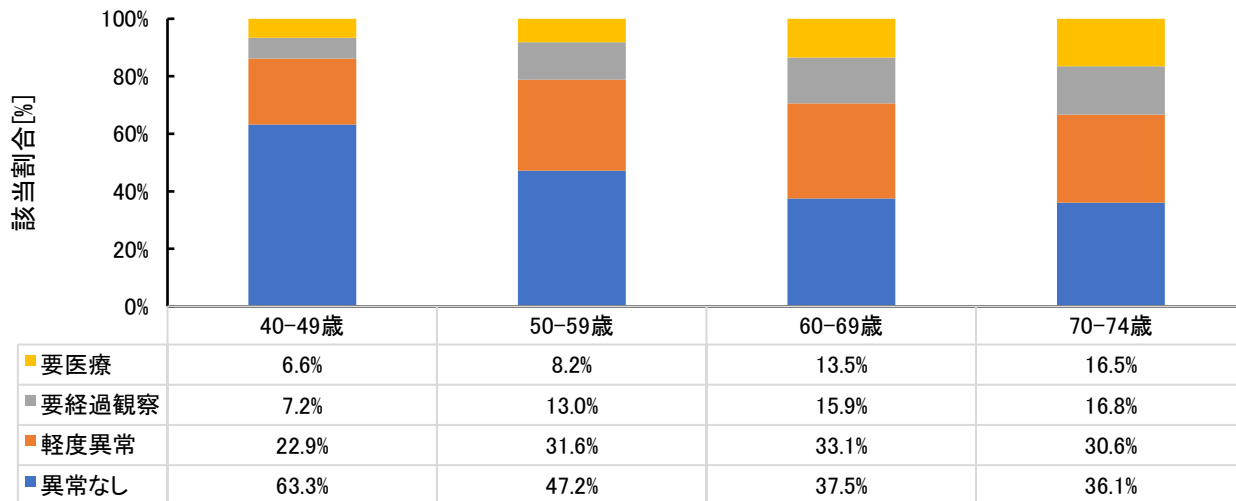


図 7-29 男性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

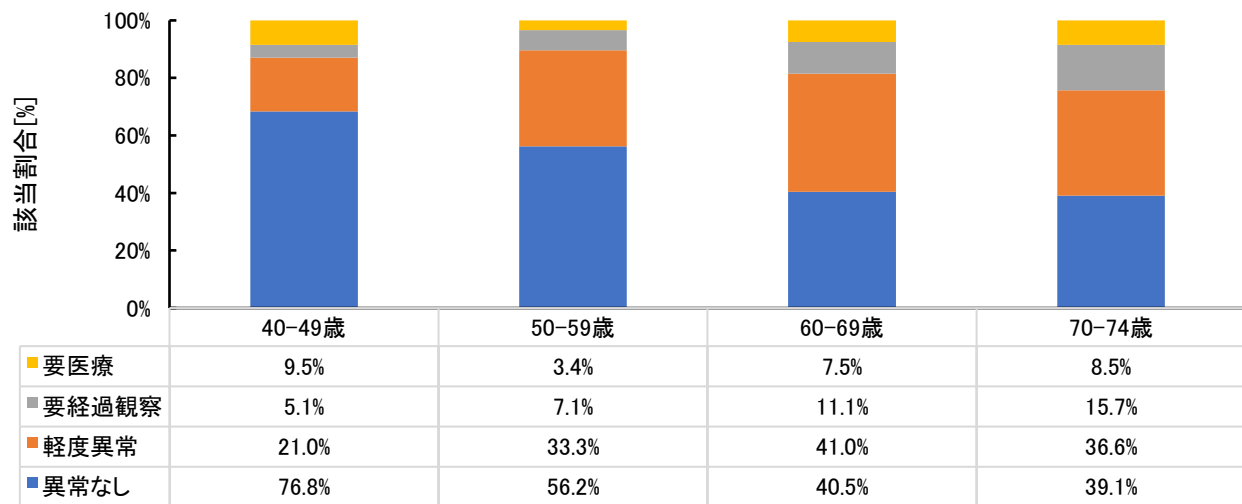


図 7-30 女性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

4.7. 中性脂肪(TG:トリグリセリド)の状況

TG の判定は異常なし(30-149mg/dl), 軽度異常(150-299mg/dl), 要経過観察(300-499mg/dl), 要医療(29mg/dl 以下または 500mg/dl 以上)と定義した。

図 7-31 に TG の度数分布を性別に示した。男性は 150~209mg/dl にピーク, 女性は 90~149mg/dl にピークがある分布であり, 30~750mg/dl までの幅広い分布であった。300mg/dl 以上は男性は 4.3%(76 人), 女性は 1.7%(44 人)であった。

図 7-32 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの TG の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, 50mg/dl より増加した割合が男性は 12.8%, 女性は 6.5%であった。100mg/dl より増加したのは男性は 5.0%, 女性は 1.3%であった。100mg/dl 以上減少したのは男性は 4.9%, 女性は 2.9%であった。

図 7-33 に男性, 図 7-34 に女性の令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの TG の変化を散布図に示した。縦の破線は TG 判定の中等度高中性脂肪血症群の 300mg/dl のラインに引いている。男女ともに令和 3 年度に TG が 300mg/dl 以上の該当者は令和 2 年度から増加傾向にあった。

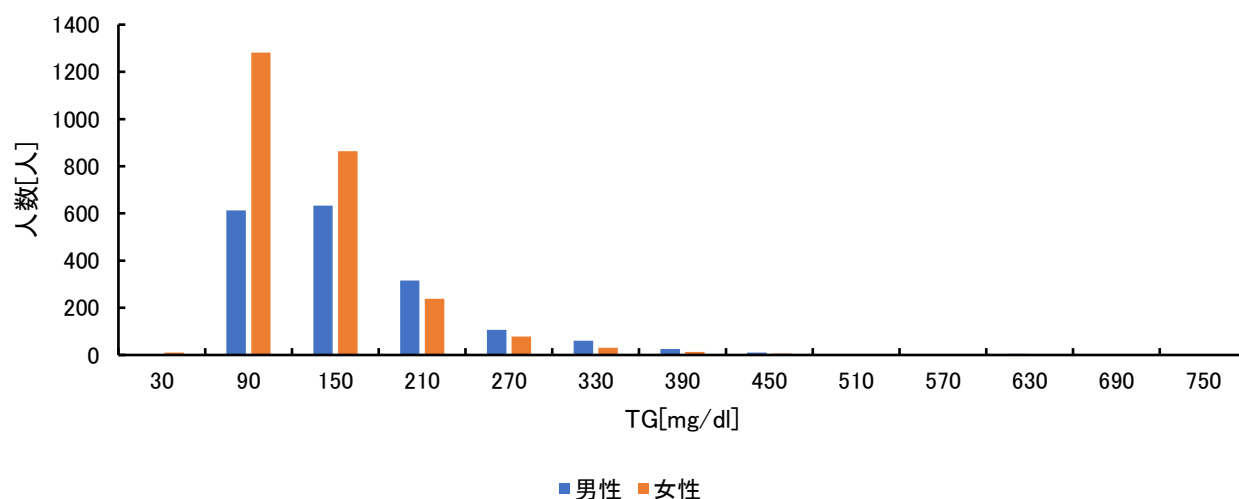


図 7-31 TG の度数分布

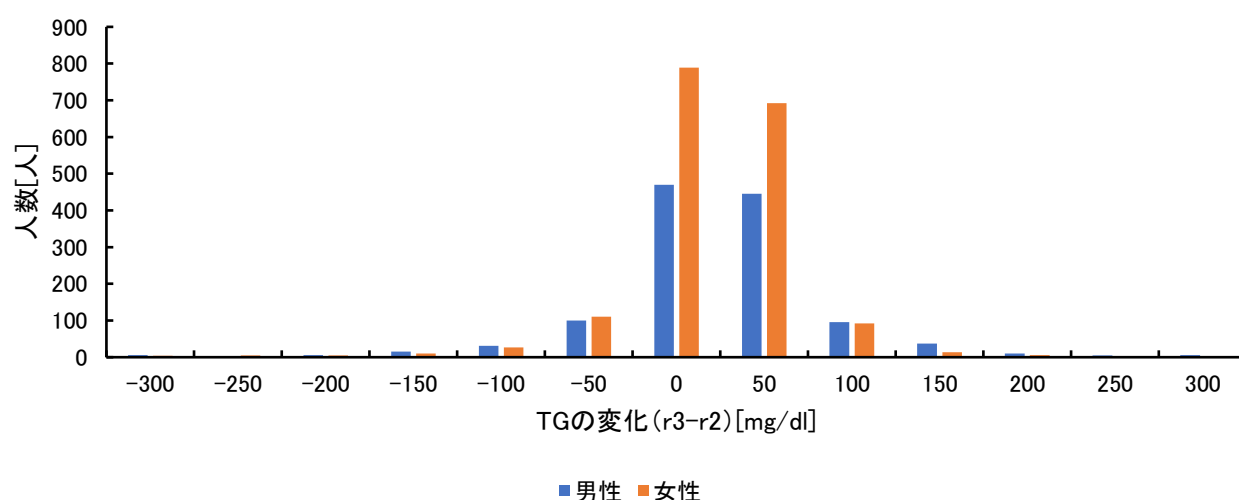


図 7-32 TG の変化

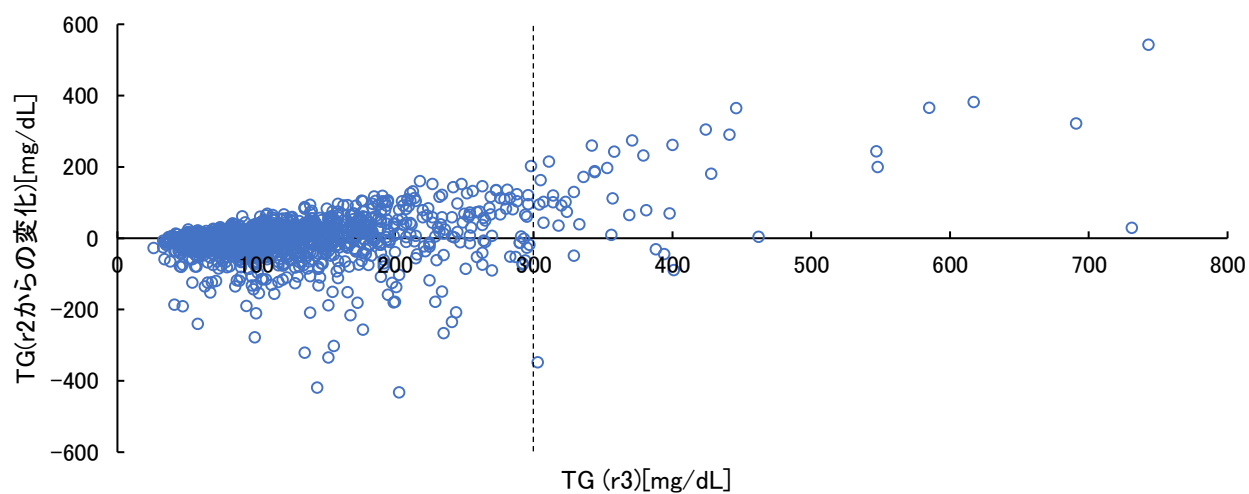


図 7-33 男性の TG の変化

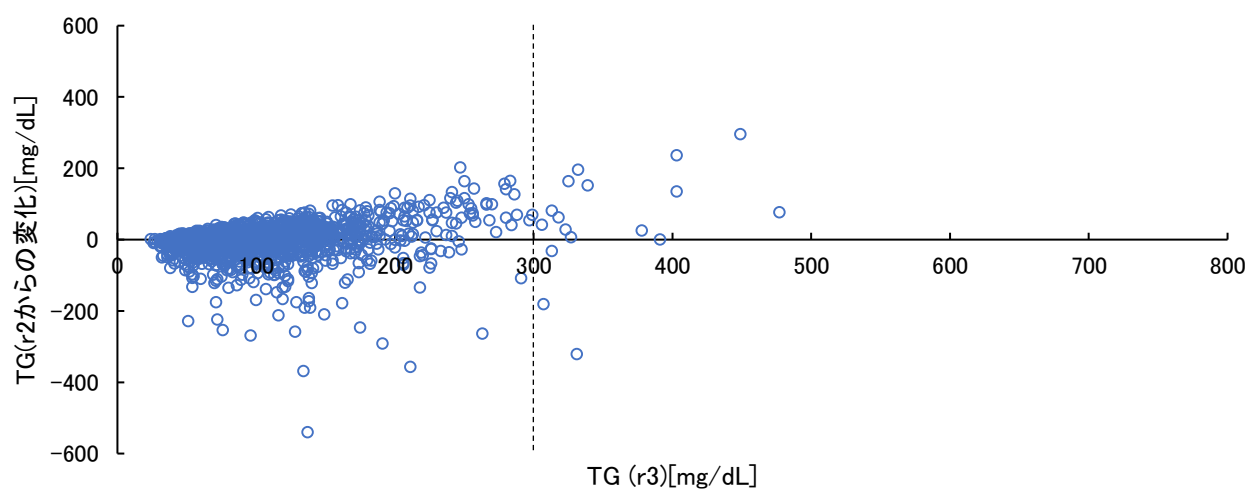


図 7-34 女性の TG の変化

図 7-35 に令和 3 年度のTG判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 69.5%, 軽度異常は 26.1%, 要経過観察は 3.4%, 要医療は 1.0%であった。女性の異常なしは 84.7%, 軽度異常は 13.3%, 要経過観察は 1.6%, 要医療は 0.5%であった。

図 7-36 に男性, 図 7-37 に女性の令和 3 年度のTG判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性の異常なしの割合は 65.1~73.1%, 女性は 83.6~91.2%であることがわかった。男性の要経過観察, 要医療の割合は 2.4~9.0%, 女性は 1.5~3.3%であり, 年齢に伴い低下傾向であることがわかった。

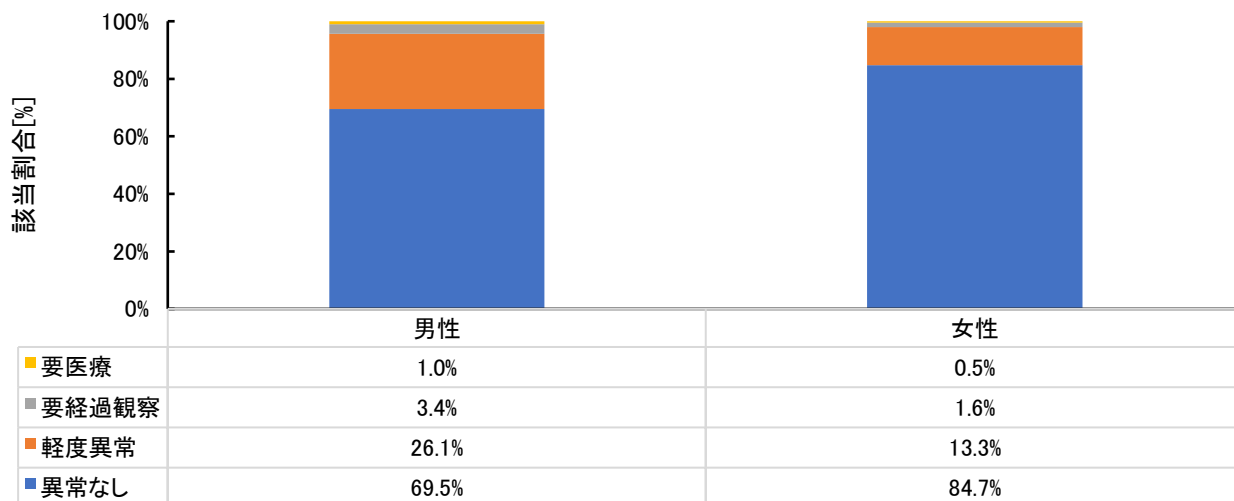


図 7-35 TG 判定の結果

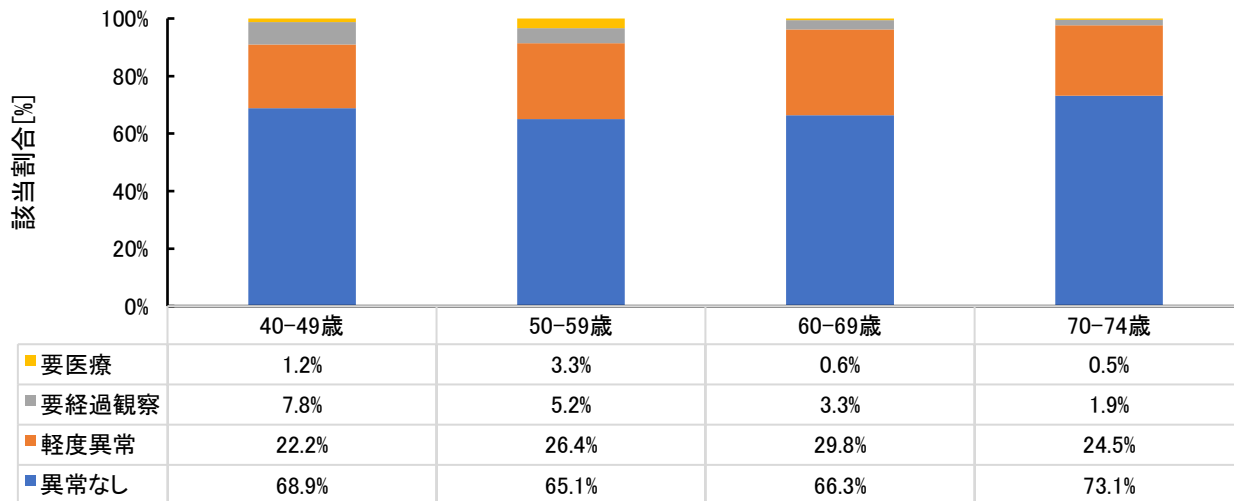


図 7-36 男性の年齢階級別の TG 判定の結果

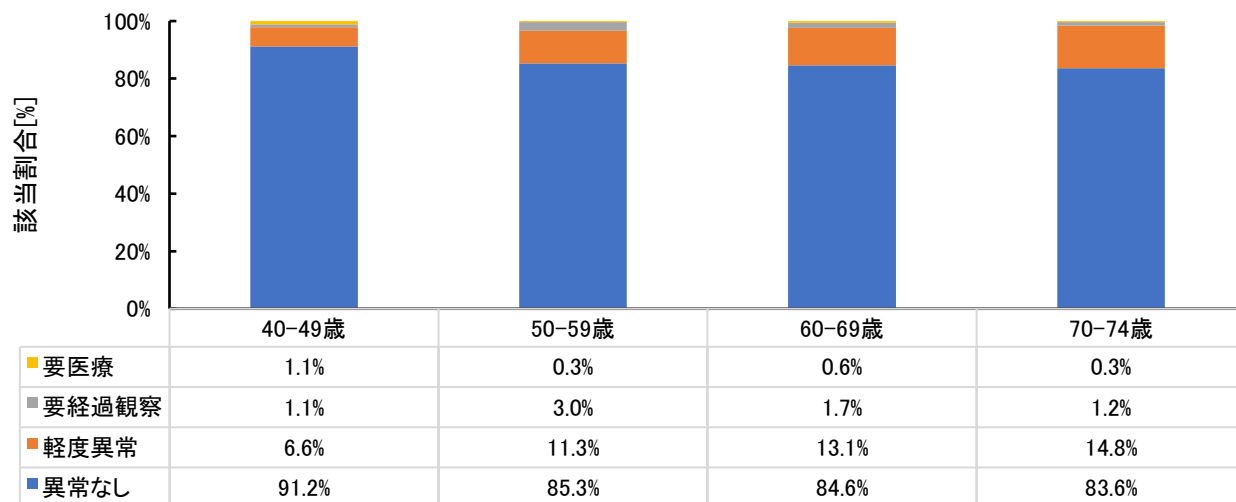


図 7-37 女性の年齢階級別の TG 判定の結果

4.8. HDL コレステロールの状況

HDL コレステロールの判定は異常なし(40mg/dl 以上), 要経過観察(35-39mg/dl), 要医療(34mg/dl 以下)と定義した。

図 7-38 に HDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 60~69mg/dl にピーク, 女性は 70~79mg/dl にピークがある分布であった。39mg/dl 以下は男性は 7.1%(126 名), 女性は 1.1%(29 名)であった。

図 7-39 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの HDL コレステロールの変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, ± 5 mg/dl の割合が男性は 71.7%, 女性は 69.0%であった。

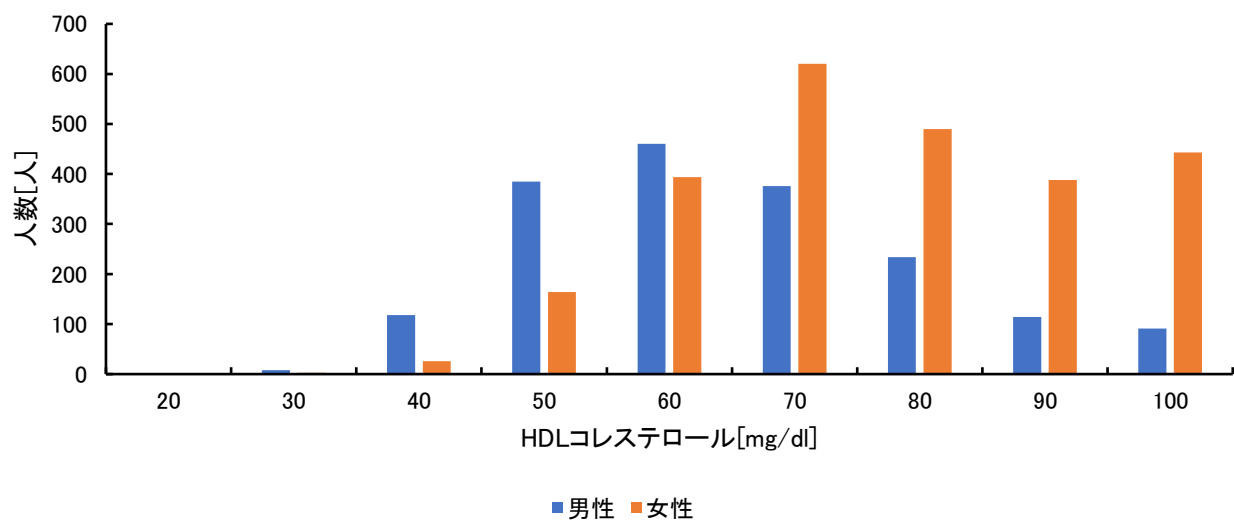


図 7-38 HDL コレステロールの度数分布

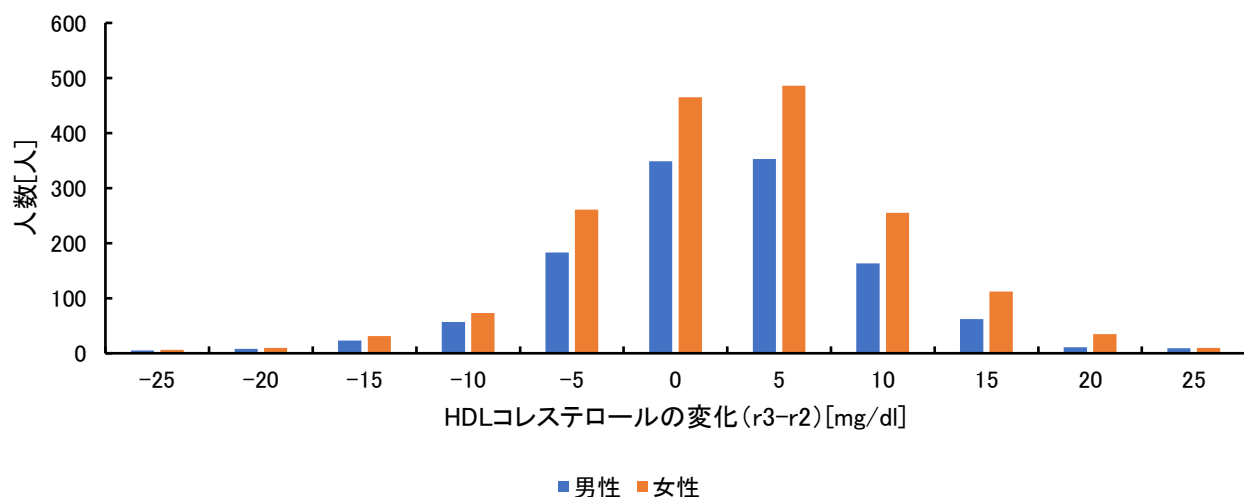


図 7-39 HDL コレステロールの変化

図 7-40 に令和 2 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。令和 2 年度の正常群は男性で 91.1%, 女性で 91.1%, 要注意群は男性で 6.0%, 女性で 1.3%であった。異常群は男性で 3.0%, 女性で 7.6%であった。

図 7-41 に男性, 図 7-42 に女性の令和 2 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は正常群の割合は 90~92%, 女性は 86~92%であることがわかった。男性は女性と比べ, 異常群ではなく, 要注意群の割合が高い傾向にあったが, 女性は異常群の割合が高いことがわかった。

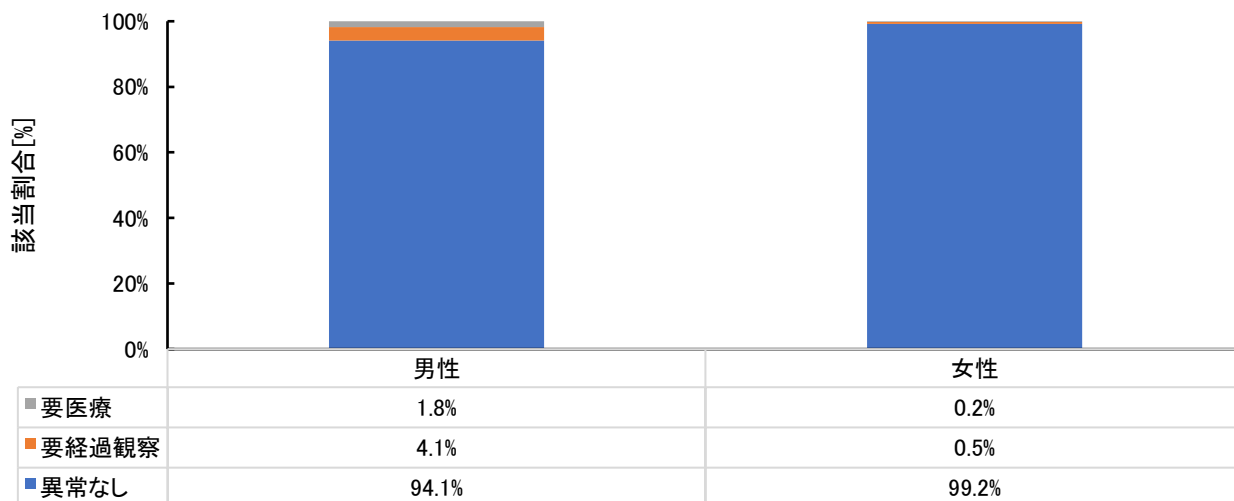


図 7-40 HDL コレステロール判定の結果

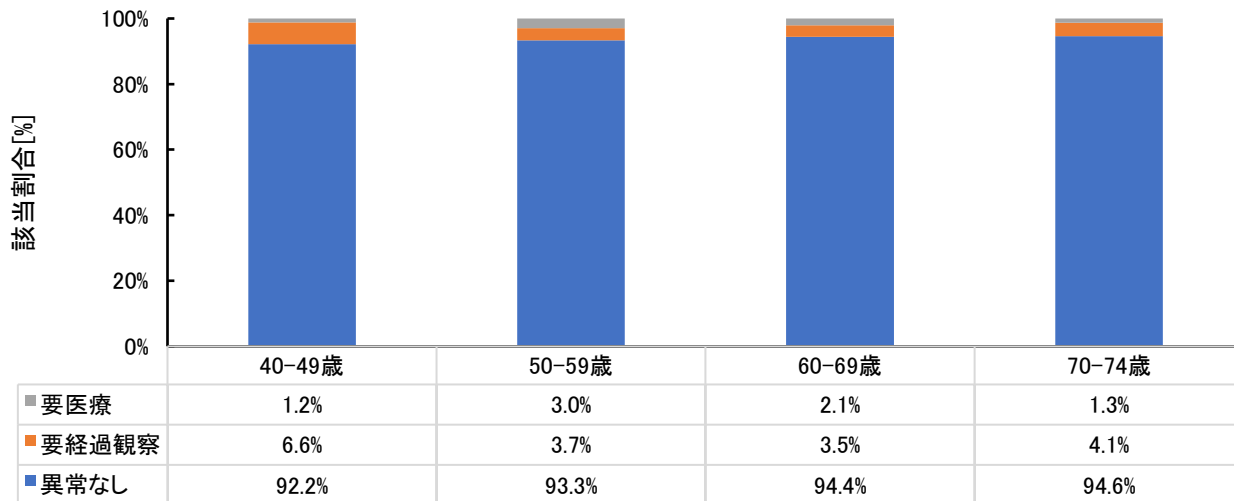


図 7-41 男性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

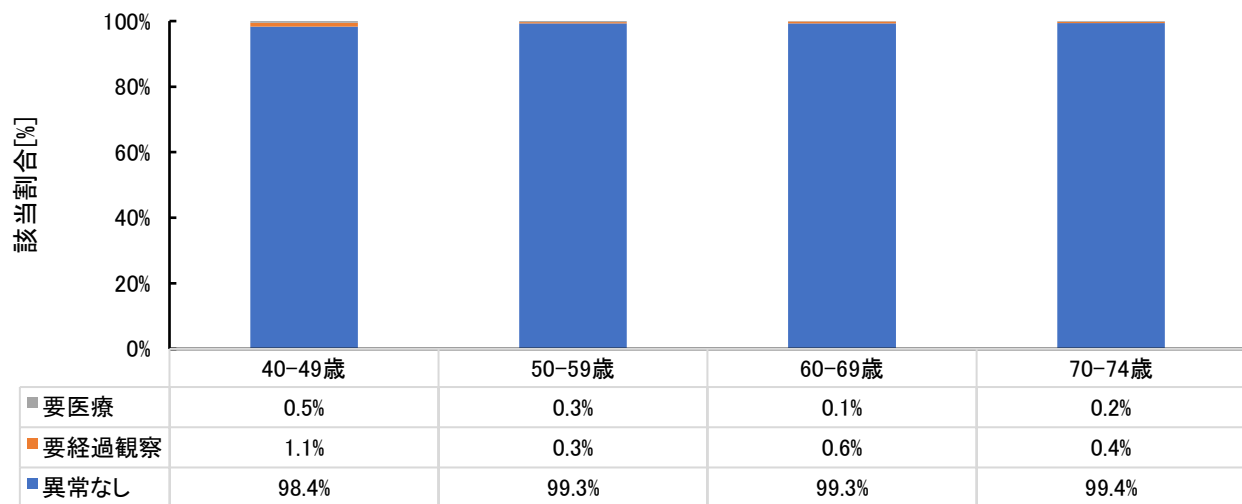


図 7-42 女性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

4.9. LDL コレステロールの状況

LDL コレステロールの判定は異常なし群(60~119mg/dl), 軽度異常群(120~139mg/dl), 要経過観察群(140~179mg/dl), 要医療群(59mg/dl 以下または 180mg/dl 以上)と定義した。

図 7-43 に LDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 120~129mg/dl, 130~139mg/dl にピーク, 女性は 120~129mg/dl, 130~139mg/dl にピークがある分布であった。120mg/dl 以上の割合は男性は 50.2% (896 人), 女性は 60.4% (1,527 人)であった。180mg/dl 以上の割合は男性は 4.1% (74 人), 女性は 6.5% (165 人)であった。60mg/dl 以下の割合は男性は 1.5% (27 人), 女性は 0.6% (16 人)であった。

図 7-44 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの LDL コレステロールの変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, ± 10 mg/dl の割合は男性は 61.0%, 女性は 62.1%であった。40mg/dl 以上減少したのは男性は 4.4%, 女性は 5.1%であった。40mg/dl 以上増加したのは男性は 4.4%, 女性は 6.5%であった。

図 7-45 に男性, 図 7-46 に女性の令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの LDL コレステロールの変化を散布図に示した。縦の破線は LDL コレステロール判定の異常群の LDL コレステロール 180mg/dl のラインに引いている。男女ともに令和 3 年度に LDL コレステロールが 180mg/dl 以上の該当者は令和 2 年度から LDL コレステロールが増加傾向にあった。

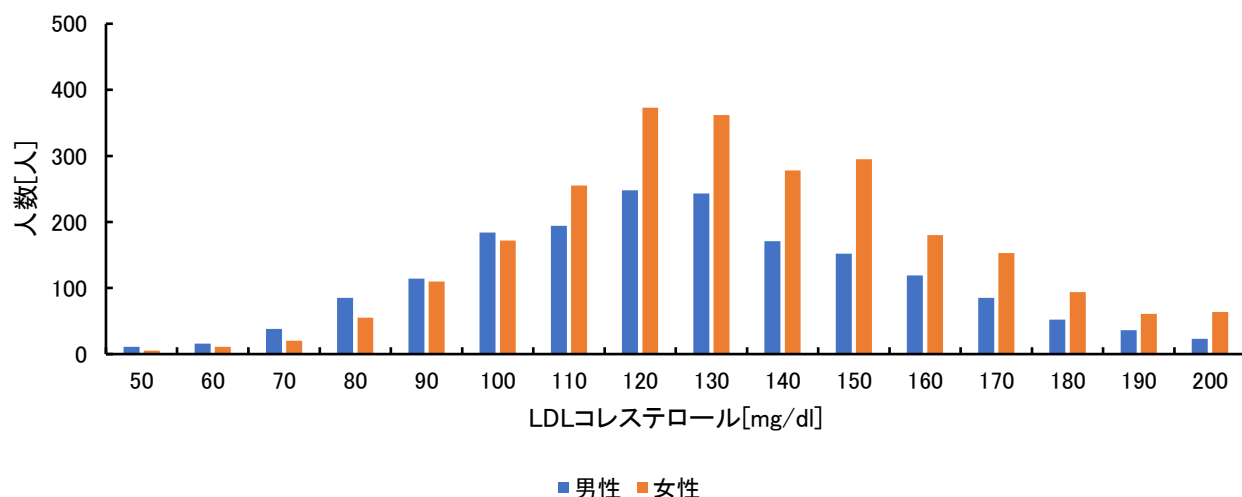


図 7-43 LDL コレステロールの度数分布

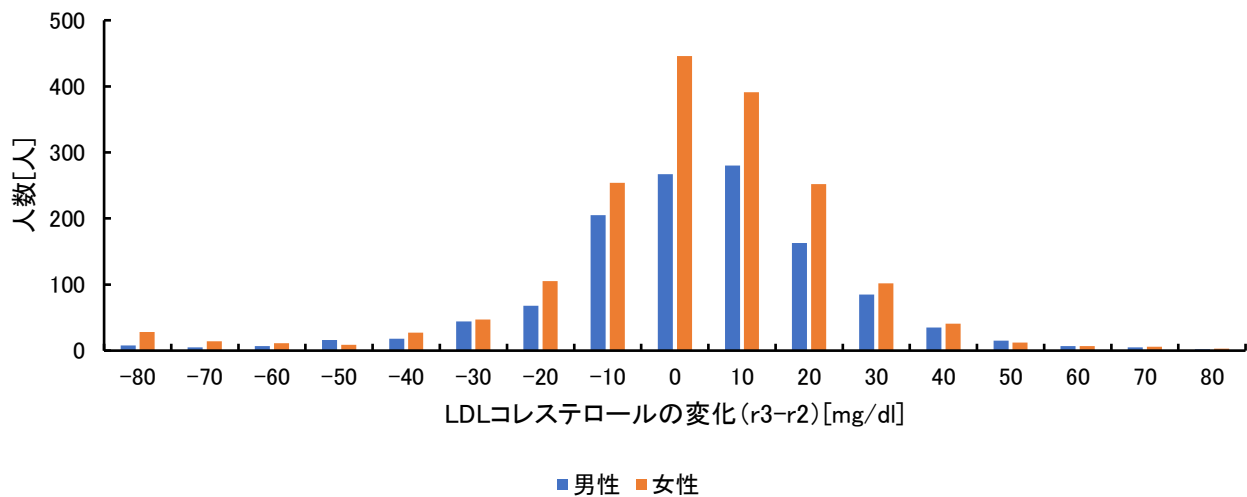


図 7-44 LDL コレステロールの変化

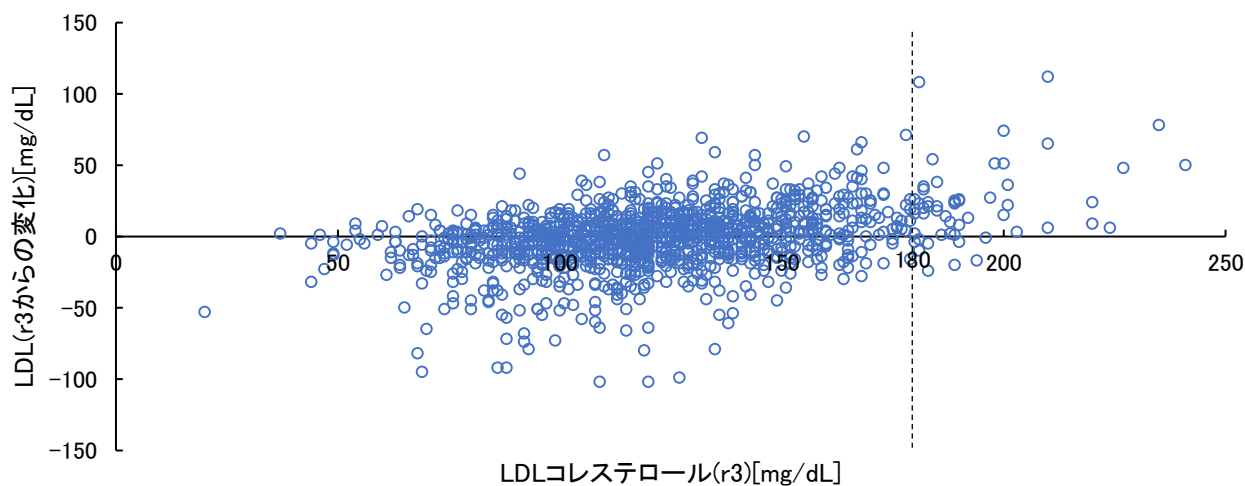


図 7-45 男性の LDL コレステロールの変化

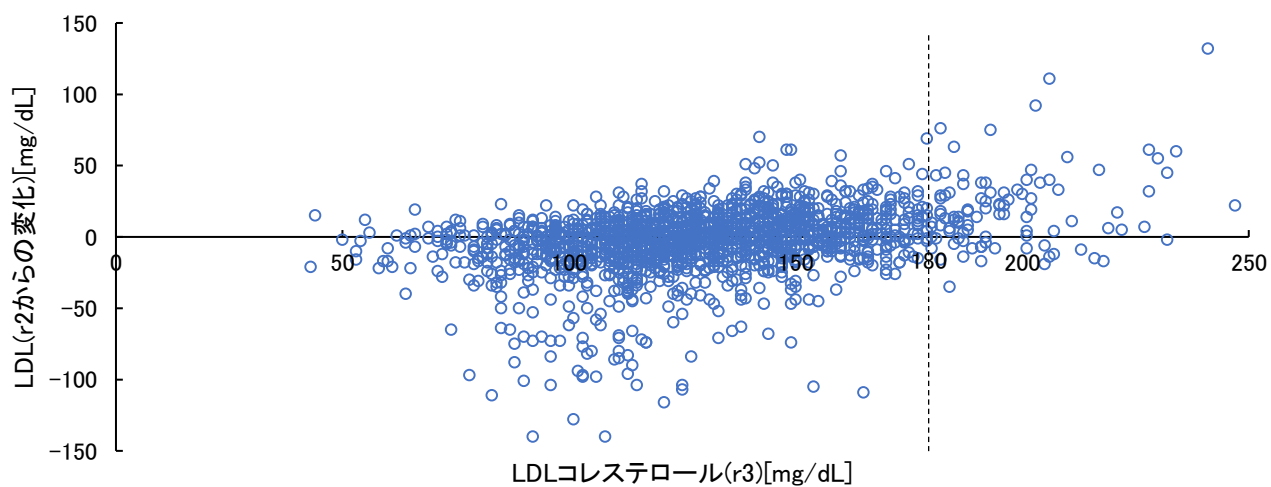


図 7-46 女性の LDL コレステロールの変化

図 7-47 に令和 3 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 46.6%，軽度異常は 24.5%，要経過観察は 23.0%，要医療は 5.9%であった。女性の異常なしは 37.6%，軽度異常は 25.8%，要経過観察は 29.2%，要医療は 7.4%であった。

図 7-48 に男性，図 7-49 に女性の令和 3 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は年齢に伴い異常なしの割合が増加し，要経過観察の割合は低下していることがわかった。女性は年齢に伴い異常なしの割合は低下し，要経過観察の割合が増加していた。

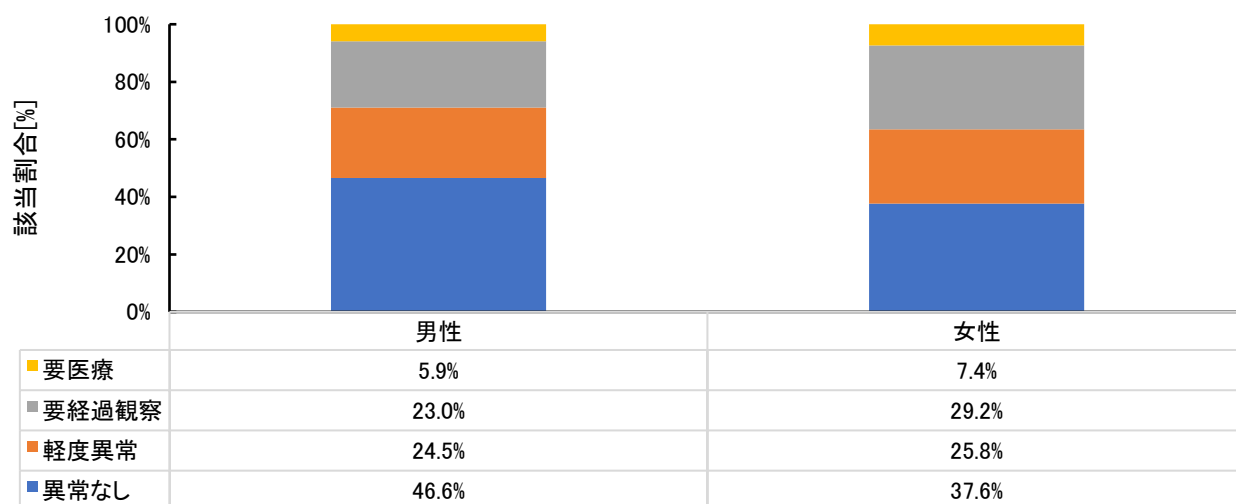


図 7-47 LDL コレステロール判定の結果

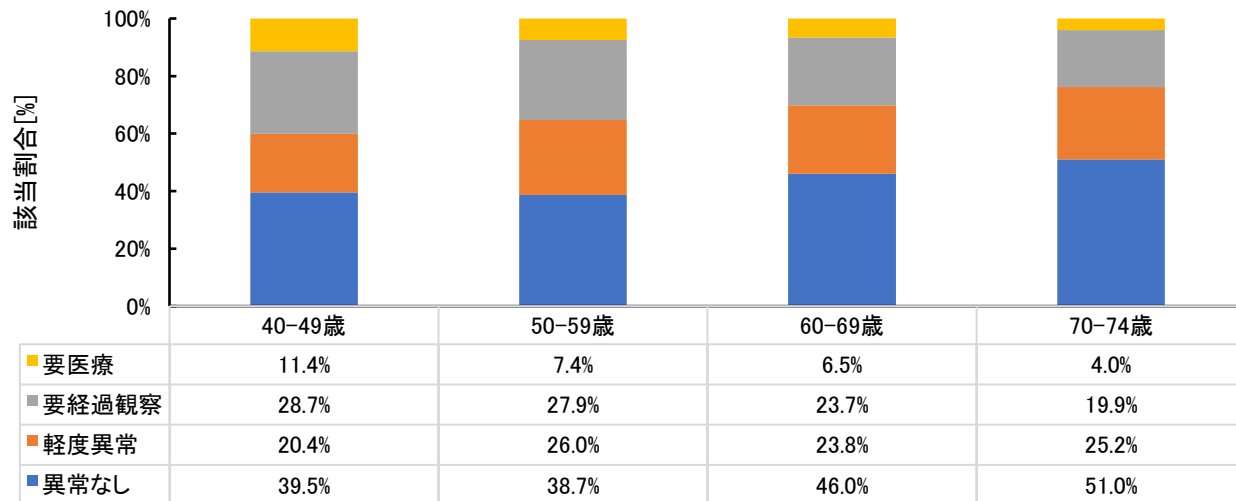


図 7-48 男性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

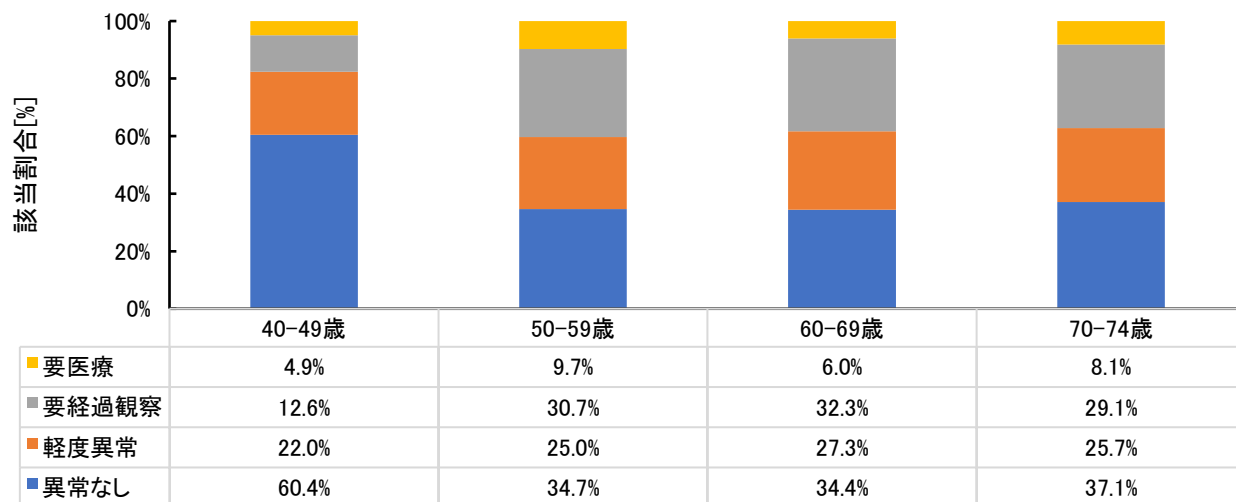


図 7-49 女性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

4.10. GOT・GPT・ γ -GTP の状況

図 7-50 に GOT, 図 7-51 に GPT, 図 7-52 に γ -GTP の度数分布を性別に示した。GOT は男女ともに 40～69IU/L, GPT は 45～84IU/L にピークがある分布であった。 γ -GTP は男性は 40～59IU/L, 女性は 20～39IU/L にピークがある分布であった。

図 7-53 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの GOT の変化, 図 7-54 に GPT の変化, 図 7-55 に γ -GTP の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, GOT は男女ともに 90%以上が ± 10 IU/L の変化, GPT は男女ともに 83%以上が ± 10 IU/L の変化であった。 γ -GTP は男女ともに 94%以上が ± 50 IU/L の変化であった。

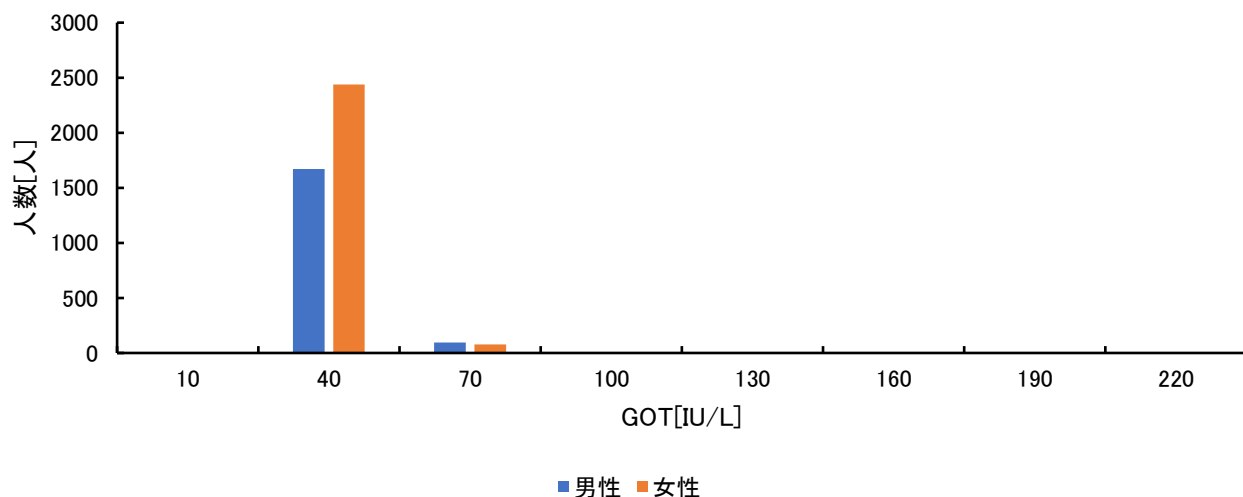


図 7-50 GOT の度数分布

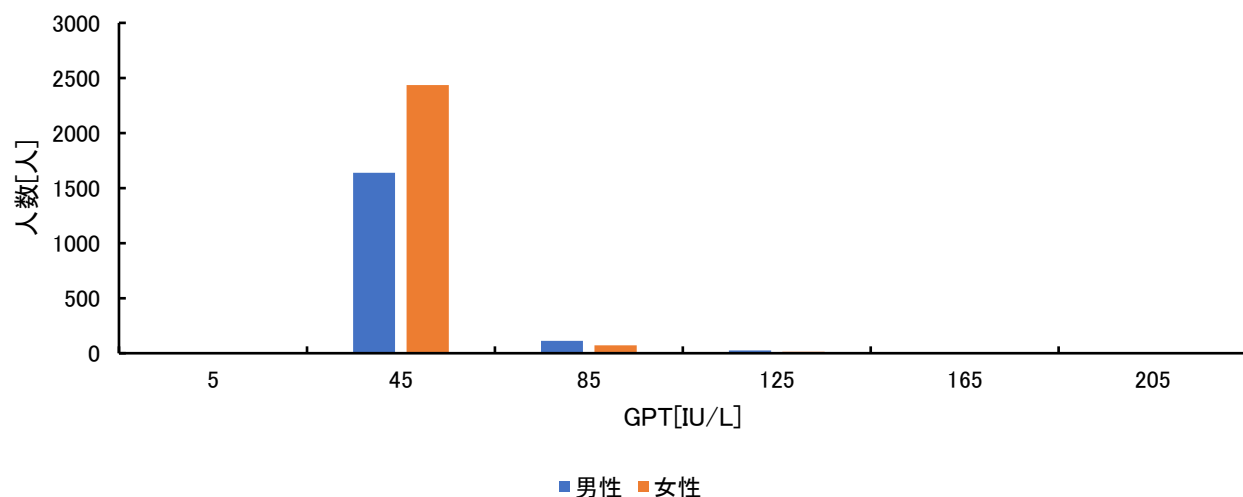


図 7-51 GPT の度数分布

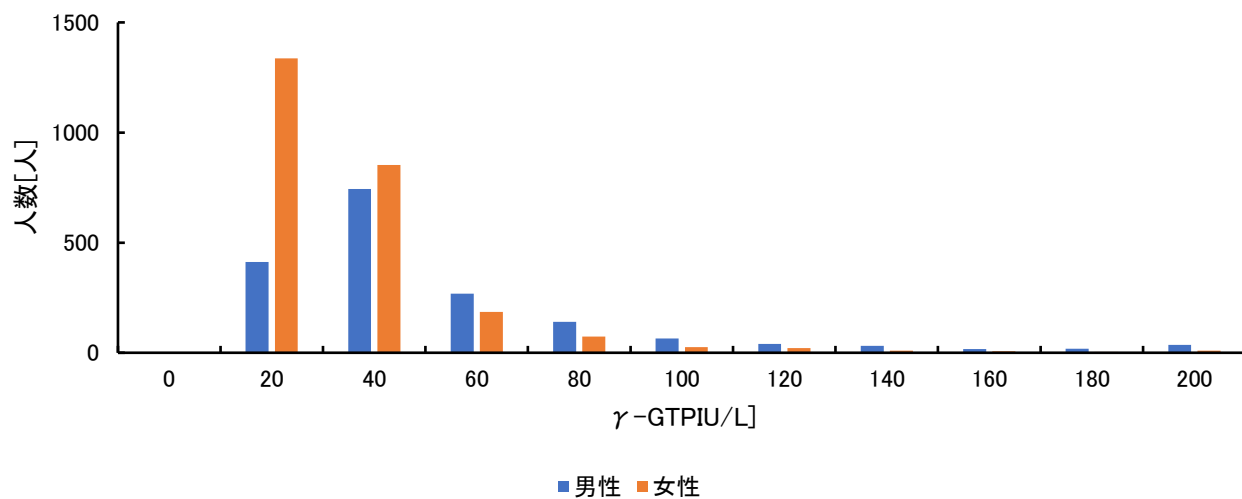


図 7-52 γ -GTP の度数分布

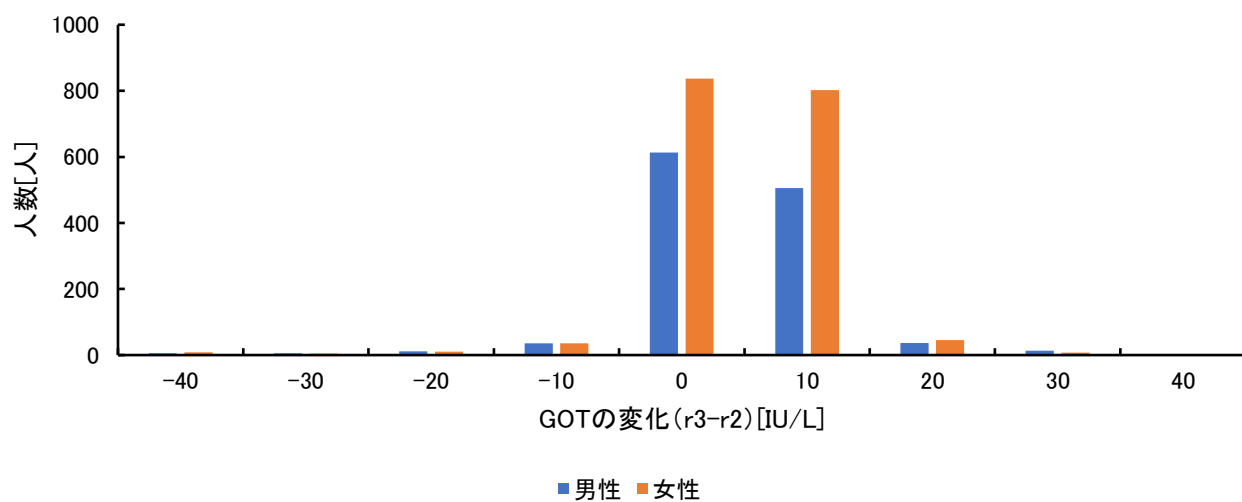


図 7-53 GOT の変化

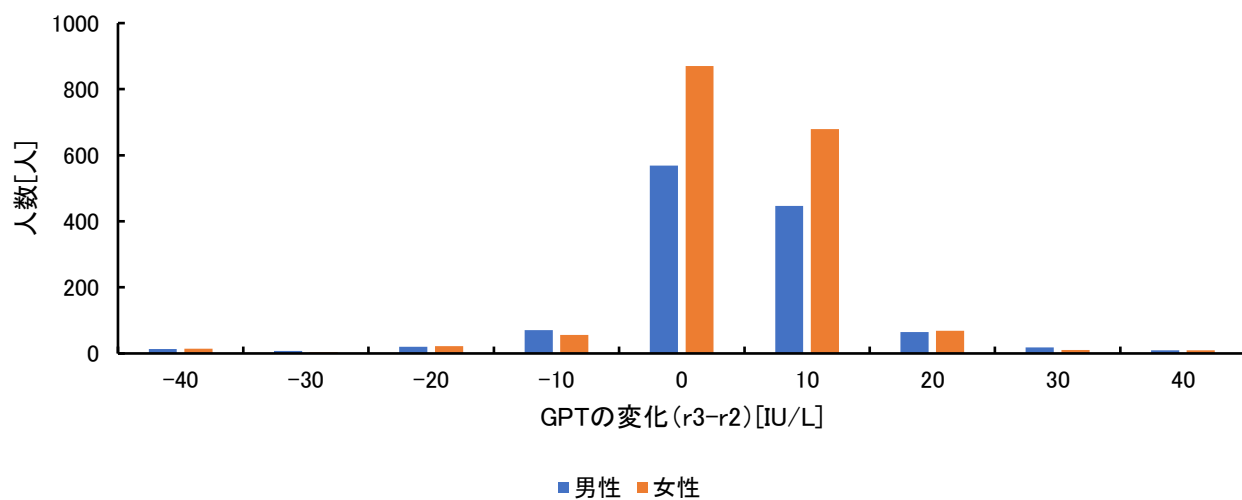


図 7-54 GPT の変化

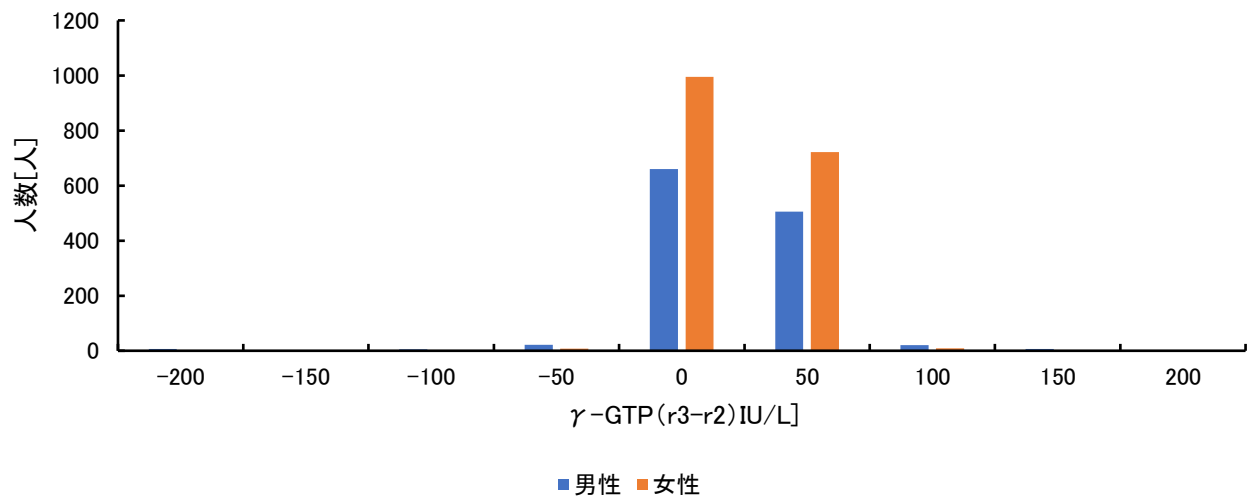


図 7-55 γ-GTP の変化

4.11. 血清クレアチニンの状況

図 7-56 に血清クレアチニンの度数分布を性別に示した。男性は 0.9mg/dl にピーク、女性は 0.7mg/dl にピークがある分布であった。男性の 1.0mg/dl 以上の割合は 17.9%(267 人)、女性の 0.7mg/dl 以上の人数は 26.9%(643 人)であった。

図 7-57 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの血清クレアチニンの変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果、 $\pm 0.1\text{mg/dl}$ の割合が男性は 81.5%、女性は 91.4%であった。

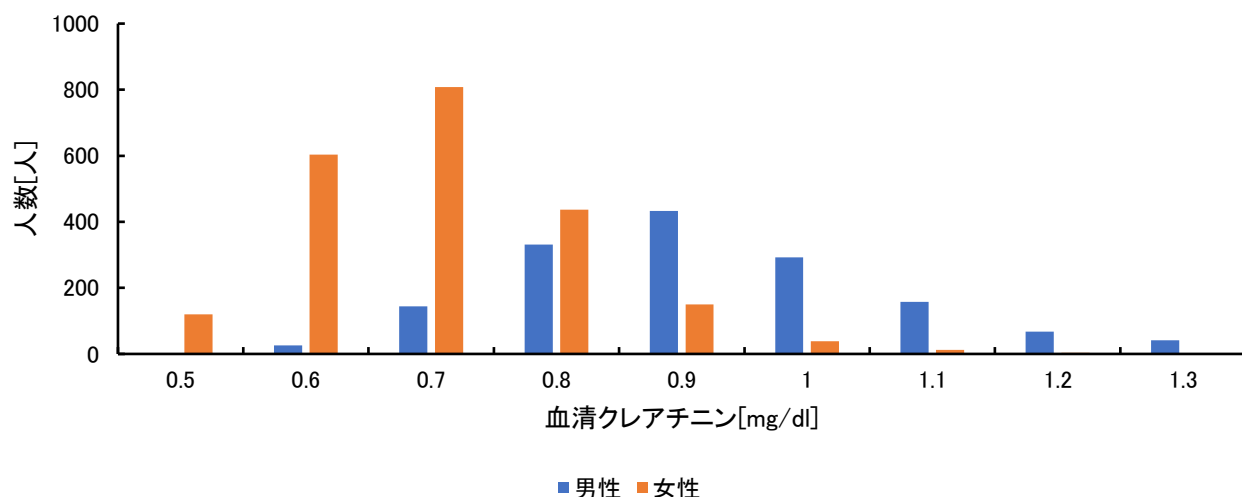


図 7-56 血清クレアチニンの度数分布

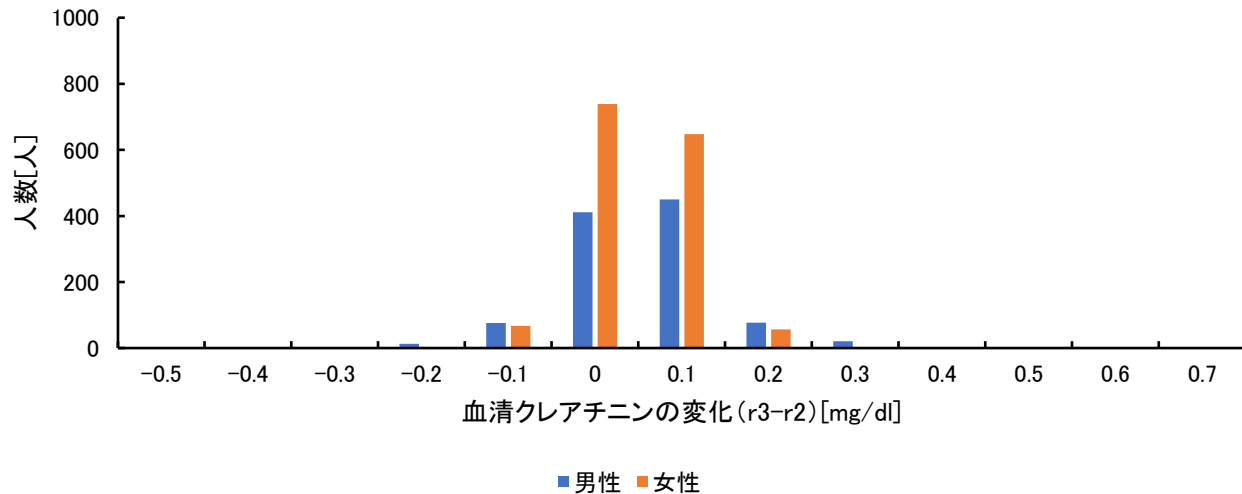


図 7-57 血清クレアチニンの変化

4.12. eGFR の状況

eGFR 判定は異常なし($60.0[\text{ml}/\text{分}/1.73\text{ m}^2]$ (以下単位省略)以上), 要経過観察群(45.0–59.9), 要医療群(44.9 以下)と定義した。

図 7-58 に eGFR の度数分布を性別に示した。eGFR は血清クレアチニンから算出し, 腎臓が老廃物を尿へ排出する能力がどの程度あるかを示している。腎臓における血液の濾過量のため, 値が小さくなるほど濾過機能が悪いことを意味する。男女ともに $75\sim 89\text{ ml}/\text{min}/1.73\text{ m}^2$ にピークがある分布であった。

図 7-59 に令和 3 年度を基準に令和 2 年度からの eGFR の変化を性別に示した。令和 2 年度と令和 3 年度を比較した結果, ± 5 の割合が男性は 73.6%, 女性は 73.6%であった。15 以上減少したのは男性は 3.2%, 女性は 2.4%であった。15 以上増加したのは男性は 1.9%, 女性は 1.0%であった。

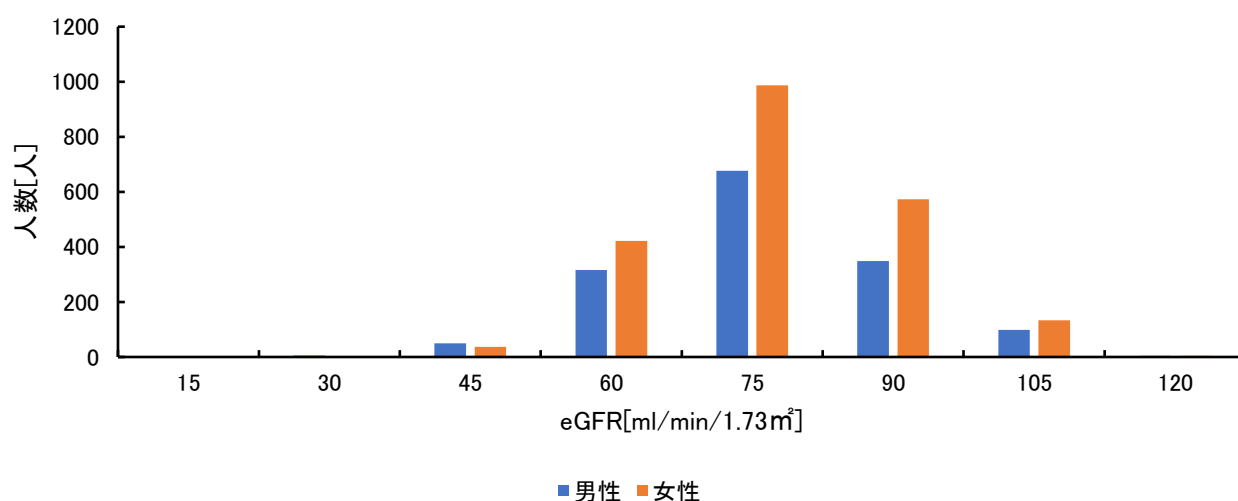


図 7-58 eGFR の度数分布

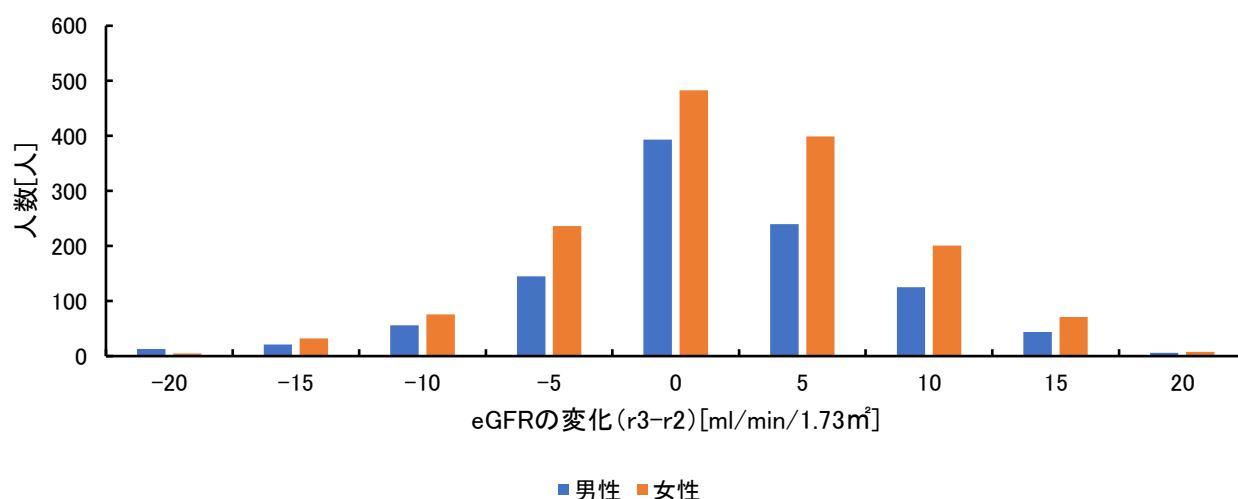


図 7-59 eGFR の度数分布

図 7-60 に令和 3 年度の eGFR 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 75.5%, 要経過観察は 20.8%, 要医療は 3.8%であった。女性の異常なしは 78.8%, 要経過観察は 19.4%, 要医療は 1.8%であった。

図 7-61 に男性, 図 7-62 に女性の令和 3 年度の eGFR 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が低下していた。40-49 歳は男女ともに要医療は 0%であったが年齢に伴い, 要経過観察, 要医療の割合が増加していた。

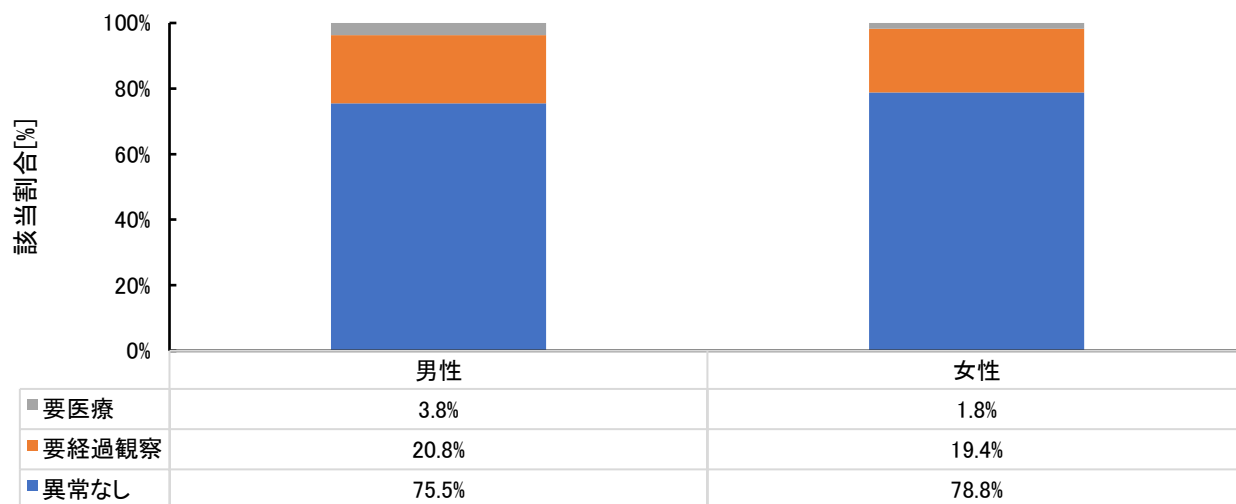


図 7-60 eGFR 判定の結果

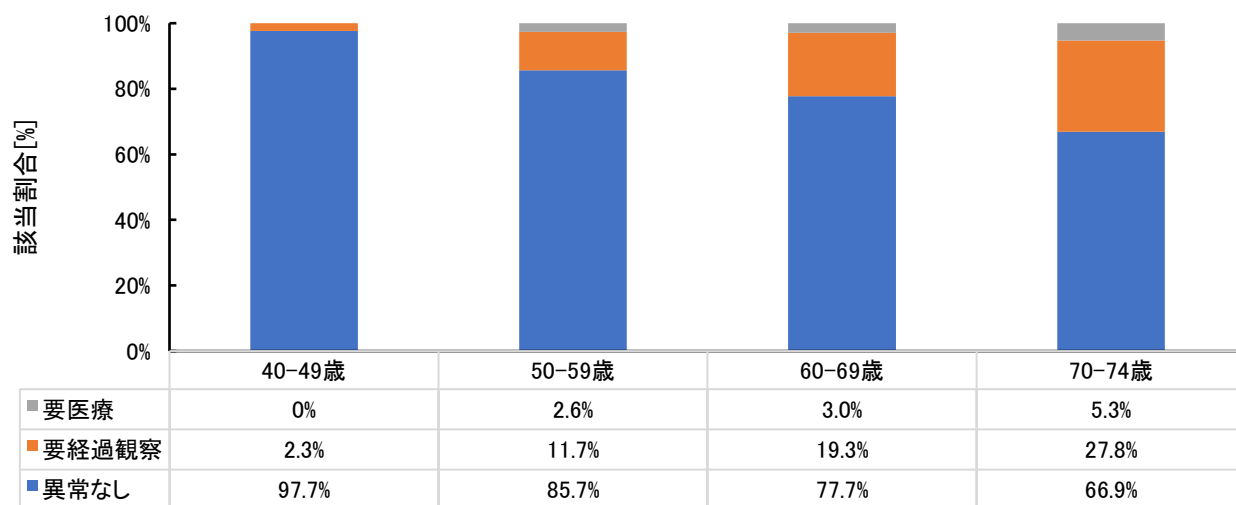


図 7-61 男性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

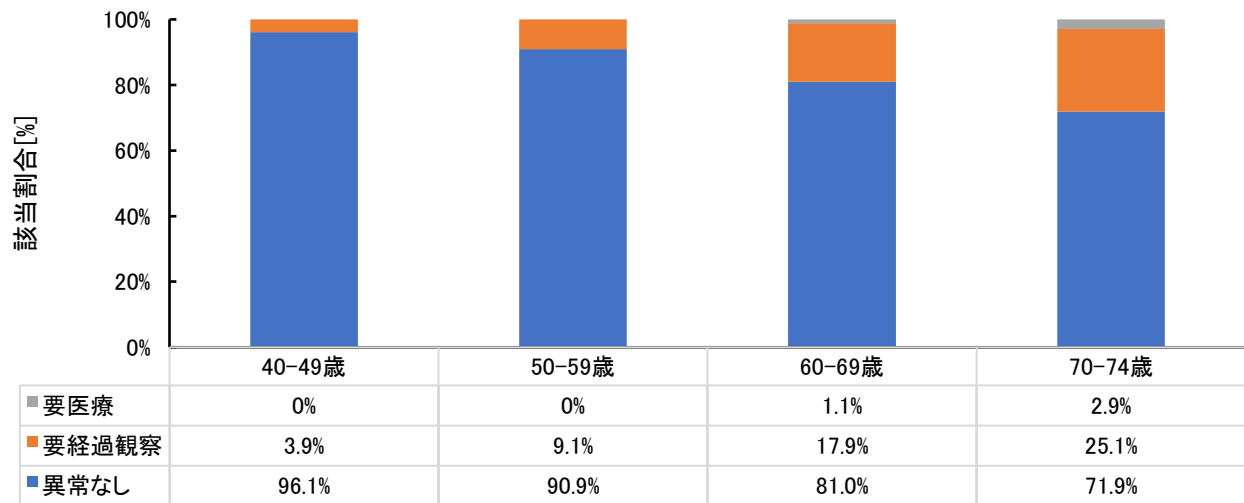


図 7-62 女性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

第8章 まとめ

1. 国保医療費のまとめ

- 国保被保険者は65歳以上が37.1%で約4割を占めた。65歳以上は受療率も高いことから国保全体の医療費に占める割合も高い結果となった。
- 受療割合は子どもと高齢者で高い。特に、高齢期になるほど受療割合、レセプト件数が増加した。入院外の受療割合について男性で65-69歳(82.7%)、女性で60-64歳(83.1%)のタイミングで上昇していた。入院は男性で50-54歳(2.3%)、60-64歳(5.8%)、女性は60-64歳(2.5%)で上昇していた。昨年度よりも入院・入院外ともに全体的に受療割合が上昇していた。
- 総医療費とレセプト件数の平均では、昨年度と比べて同等か減少傾向にあった。特に男女ともに60歳以降ではレセプト件数は大きく減少した。
- 入院、入院外の点数の最大値が高額となっている。これはオプチーボなどの高額医療費が影響していた。
- レセプト件数が36件/年を超えたのは36名であった。
- 入院外診療日数が年間120日を超える頻回受診者は、87名(平均年齢64.3歳)が該当し、男性が58名(平均年齢63.8歳)、女性が29名(平均年齢65.2歳)であった。昨年よりも人数が増加した。総医療費の合計は、2.9億円であった。背景疾患の観点から、高血圧、腎不全、糖尿病などの慢性疾患、貧血、便秘症の該当人数が多かった。頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて精神及び行動の障害の受診者が多いことがわかった。
- 入院期間が250日を超える長期入院患者は、48名(平均年齢59.9歳)が該当し、男性で27名(平均年齢59.4歳)、女性で21名(平均年齢60.4歳)であった。昨年よりも人数が増加した。総医療費の総額は2.9億円であった。このうち精神及び行動の障害(77.1%)、あるいは神経系の疾患(85.4%)を罹患していることがわかった。不眠症も高い割合で罹患していた。
- 総医療費について患者数が50人以上で、一人当たりの医療費が大きいのは、第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第2章 新生物、第5章 精神及び行動の障害、第14章 腎尿路生殖器系の疾患、第17章 先天奇形、変形及び染色体異常であった。この傾向は昨年度と同様であった。
- 患者数が多く、医療費の総額が大きいのが、第10章 呼吸器、第11章 消化器、第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患、第9章 循環器系、第7章 眼及び付属器の疾患、第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患であった。
- 総医療費の合計は70-74歳が他群よりも大きく上回っていた。人数が多いこともあるが、総医療費に占める割合は70-74歳が大きいことがわかる。
- 睡眠障害(不眠症)は25-29歳から上位疾患(5位)に発生し、40-44歳で受療割合が10%を超えた。性別の年齢群では男女ともに5位であり、受療割合は男性で9.1%、女性で13.5%であった。
- 精神および行動の障害の入院医療費、入院外医療費では、統合失調症、うつ病などの気分障害の医療費が40~70歳代まで幅広く大きな割合で発生していた。

2. 幼児・若年期

- 幼児、若年層では、アレルギー性鼻炎、皮脂欠乏性湿疹などの皮膚及び皮下組織の疾患、ウイルス性胃腸炎、アレルギー性結膜炎などの感染症や結膜炎などの眼科、気管支喘息や喉の痛みなどの急性上気道感染症の呼吸器が多い。

3. 青・壮年期

- 25～44 歳では、睡眠障害(不眠症)、自律神経発作、うつ病、社会不安障害などの精神及び行動の障害による疾病が増加している。ストレスに対する知識や行動、休養、相談できる環境の利用などの対応が求められる。さらに糖尿病や高脂血症が増加していた。
- 40 歳代から糖尿病、脂質異常症の慢性疾患の割合が急速に増加する。さらに、統合失調症などの精神的な課題の割合が増加しており、長期に影響する疾病構造が構成されていることから、40 歳からの対策は大きな影響を与えと考えられる。
- 50 歳代から心不全、脳出血、脳梗塞、2 型糖尿病性神経筋疾患の割合が増加した。脳血管疾患は死亡リスクを高めるだけではなく、麻痺などの生活に大きな影響を与えることから、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患対策、喫煙、ストレスなどの対応が求められ、適切な食事と運動による予防活動が重要である。
- 心疾患は入院外では 35 歳から、入院では 55 歳から増加している。脳出血と同様に対策が求められる。

4. 高齢期

- 高齢期では、糖尿病、脂質異常症等の内分泌、栄養及び代謝疾患、睡眠障害、多発性ニューロパチー、高血圧性疾患、心不全等の循環器系疾患、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症の筋骨格及び結合組織の疾患、骨粗鬆症が増加していた。特に、ニューロパチーは糖尿病、アルコール、薬剤性が要因として考えられるため、日常生活機能の活動を阻害しないという観点から、正しい知識を持つことと、生活習慣の改善が必要だと考えられる。
- 高齢期ではアレルギー性鼻炎、結膜炎、呼吸器系の疾患医療費、患者割合が高い。その中で、急性上気道感染症などが含まれる。鼻水が出ている人の中には薬剤性鼻炎など薬に由来するものも少なくない。花粉症やアレルギーだと考えて抗コリン系薬剤などを服用すると認知症リスクを高めることとなる。風邪や急性上気道感染症などの知識を正しく持つことが重要である。
- 60 歳代から脳血管疾患が急激に増加し、アテローム粥状硬化症(動脈硬化)も増加している。アテローム粥状硬化症は、大動脈や脳動脈、冠動脈などの太い動脈に起こる動脈硬化症である。原因として、動脈の内側の膜(血管内膜)にコレステロールなどの脂肪からなる物質がたまり、傷がつくことでアテローム(粥状硬化巣)ができる。時間の経過とともに厚くなることで、動脈の内腔が狭くなることで、脳血管疾患や心疾患につながる。血管の石灰化なども引き起こすことから、心疾患、脳血管治療の困難度を高めるため、予後不良となるため注意が必要である。
- アルツハイマー病が 60 歳から受療割合が増加している。アルツハイマー病は長期にわたる睡眠障害や運動、生活習慣も関連すると報告される。睡眠障害は 40 歳ごろから増加している。この関連が疑われるため、対策が求められる。
- 膝関節症、股関節症は入院外では 45 歳以降、入院では 60 歳以降で受療割合が増加し、医療費が高まっている。これはこれまでと同じ傾向であり、予防ができる。関節疾患は下肢筋力の向上、歩行、靴の対策などにより予防ができるため、早期の対策が必要である。
- 肺炎の入院・入院外の受療割合は 65-69 歳から大きく増加していた。肺炎は死亡リスクを高めるだけではなく、要介護要因にもなることから口腔衛生や入れ歯の対策が求められる。

5. 特定健診のまとめ

保健指導が必要なのは男性に多かった。特に男性の40～59歳は積極的支援が約23%、動機付け支援が10%該当した。同様にメタボ該当者も男性に多く、34%が該当した。糖尿病の指標となるHbA1cでは、メタボ非該当の要経過観察、要医療の該当者は18.3%に対し、メタボ該当者では41.5%が該当した。メタボ非該当でも2割が当てはまるが、メタボ該当者では糖尿病リスクが高いことが明らかである。

身長の変化で1cm以上減少したのは男性で10%、女性で7%であった。50歳以降で身長が2cm以上、若いときと比べて4cm以上減少していると骨粗鬆症リスク群と報告される。そのため、身長の変化にも注目し、骨折予防に心掛けたい。

BMIでは25以上の肥満に該当したのは男性で33%、女性で20%であった。18.5未満のやせ型に該当したのは男性で3%、女性で14%であった。65歳以上の高齢期にBMIが20未満であったのは、全体で21%、男性で10%、女性で28%であった。BMIの25以上群は、HbA1cの要経過観察、要医療の割合が38.9%が該当しており、メタボと同様に糖尿病対策という点でもBMIのコントロールが求められる。一方、高齢期のBMI減少はサルコペニアやフレイルのリスクを高める。65歳以上でBMIが20未満群は女性で約3割該当しており、運動と食事のバランス、日常生活機能の維持に特に注意したい。

血圧で要経過観察、要医療に該当したのは27.2%(男性:27.8%、女性:26.7%)であった。要経過観察、要医療該当者は、男性では50～59歳で20%を超え、70～74歳で30%を超えた。女性では50～59歳で15%を超え、60～69歳で27%、70～74歳で30%を超えた。

中性脂肪のTGでは要経過観察、要医療に該当したのは3.0%(男性:4.4%、女性:2.1%)であった。TGの要経過観察、要医療該当者は、男性の49～49歳で9.0%、50～59歳で8.5%と高いことが特徴的であった。

LDLコレステロールでは、要経過観察、要医療に該当したのは33.4%(男性:28.9%、女性:36.6%)であった。要経過観察、要医療該当者について、男性は40～49歳で40%、50～59歳で35%、60～69歳で30%と高い割合で推移した。女性では50～59歳で40%、60～69歳で38%、70～74歳で37%であり、高い割合で推移した。

高血圧、脂質異常症は心疾患、脳血管疾患のリスク群である。特に脂質異常症は要対策者が多く、将来の要介護リスクを予防するためにも食事の対策が求められる。血圧、TG、LDLコレステロールともに値が高いリスク群が前年度に比べて上昇しており、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチともに対策を期待したい。

糖尿病の指標であるHbA1cは要経過観察、要医療に該当したのは23.1%(男性:28.5%、女性:19.3%)であった。年齢とともに要経過観察、要医療に該当する割合は増加し、男性の50～59歳で21%、60～69歳で29%、70～74歳で33%、女性で20%を超えるのは70～74歳で24%となった。前年度との比較では、男女ともに前年度にHbA1cが7.5以上の高めな人ほど上昇しており、合併症のリスクが考えられることからハイリスクの対策が求められる。

腎機能を表す血清クレアチニンでは、基準値を越えていたのは男性で19.2%、女性で29.7%であった。eGFRでは、基準値を下回ったのは男性で24.6%、女性で21.2%であった。年齢とともに腎機能は低下しており、60歳代では男女ともに約2割、70～74歳では約3割が要経過観察、要医療に該当した。糖尿病と合わせて腎機能の低下は人工透析など日常生活機能を大きく下げ、医療費の高騰につながる疾病リスクが考えられることがわかった。

以上